

愛知県委託事業 成人期口腔ケア推進事業 調査報告書

目 次

【調査の目的】	02
【調査方法】	02
I. 調査対象ならびに方法	02
1. 協会けんぽ愛知支部からの募集による事業所からの申込み(平成28年度)	02
2. 歯科医院より受診勧奨	03
3. 協会けんぽ愛知支部 特定健診	03
4. 歯科検診実施状況	03
II. データ収集と分析方法	03
【調査結果】	05
I. 記述分析	05
1. 対象者の性・年齢および居住地の分布	05
2. 口腔内診査結果	05
3. 調査票項目の結果	14
II. 項目間分析	46
1. 現在歯数と喫煙状況	46
2. 現在歯数と就労状況	46
3. 定期歯科検診、特定健診受診と歯科判定区分	47
4. 間食と食べる速さ、歯磨き頻度	48
5. 全身の健康状態、ストレスと勤務先の健康づくりの取り組み	50
6. 業種と口腔内状況	50
7. 特定健診受診と口腔内状況	53
8. 特定健診受診と定期歯科検診頻度	54
9. 特定保健指導受診と口腔内状況	55
10. 疾患既往と口腔内状況	56
【考 察】	58
【謝 辞】	58
お口の健康に関する調査票	59
歯科健康診査票	61
健康な身体は健康な歯と口から	62

【調査の目的】

75歳以上の人口は平成37年以降急増し、それに伴い介護を必要とする者も増加すると推測されているが、生涯自分の歯でなんでも噛めることは人生を豊かにすると同時に、介護が必要になった場合でもその重症化を軽減することが期待されるものである。そのためには、高齢期に至るまでの歯と口の健康の維持が大変重要であり、成人期に向けた歯科口腔保健対策は、今後ますます重要性を増してくると思われる。その一方、成人期については、義務化された歯科検診の制度はなく、その口腔状態の十分な把握が行われていないのが現状である。

高齢期における良好な口腔状態の保持に向けた対策推進のため、成人期の口腔状況および関連する生活習慣や社会経済状況の実態を把握することを目的に、本調査を計画実施した。歯周病に関する数値目標の改定や口腔保健支援センターが実施する研修会や啓発活動の基礎資料として活用し得るエビデンスの蓄積を目指してデータを収集し、横断的な検討を行った。

【調査方法】

I. 調査対象ならびに方法

調査は平成28年度に実施された。愛知県内の研究協力施設(事業所、歯科診療所)において、協会けんぽ愛知支部加入者を対象に歯科検診無料券および調査票を配布した。調査票の記入とともに、愛知県歯科医師会所属の歯科診療所等で歯科医師による口腔診査(う蝕、歯周病の状況、口腔機能等)を実施した。診療所検診においては、検診機関の選択は、調査協力者が行った。具体的なリクルート方法を以下に示す。

1. 協会けんぽ愛知支部からの募集による事業所からの申込み(平成28年度)

(1)募集方法

下記のとおりチラシを配布し、本事業の周知並びに協力事業所を募集し、第3期より、出張歯科検診の募集を開始した。

期	検診形態	案内送付日	対象事業所	事業所数	加入者数 推計
第1期	診療所検診	4月下旬 ～5月中旬	健康保険委員のいる 事業所で、被保険者 100人以上	1,205社	530,000名
第2期		7月5日	健康保険委員のいる 事業所で、被保険者 10人以上	6,804社	870,000名
追加案内		10月24日	健康宣言事業所	147社	
第3期	診療所検診 出張検診	12月1日	被保険者100人以上	1,920社	560,000名

健康保険委員のいる事業所…健康保険事業の推進に協力的な事業所

健康宣言事業所……………社員の健康づくりに取り組む事業所(協会けんぽがサポートし、認定・表彰を実施)

(2)申込状況

検診形態	申込事業所数	申 込 者
診療所検診	630社	7,305名
出張検診	16社	1,200名
計	646社	8,505名

2. 歯科医院より受診勧奨

会員診療所へ案内を送付後、各歯科医院より、協会けんぽ愛知支部加入者に対して本事業の周知並びに受診勧奨を開始した。

3. 協会けんぽ愛知支部 特定健診 ＊平成29年2月（8会場）にて実施

実施日	特定健診会場
2月2日	東海市立商工センター
2月3日	犬山国際観光センターフロイデ
2月9日	刈谷商工会議所
2月14日	豊田市民文化会館
2月20日	津島市民文化会館
2月21日	岩倉市総合体育文化センター
2月22日	小牧勤労センター
2月24日	すいとびあ江南

4. 歯科検診実施状況

検 診 形 態	受診者数	備 考
診療所検診	9,979名	
出張検診	1,093名	16社
特 定 健 診	273名	8 会場
計	11,345名	

II. データ収集と分析方法

検診実施機関で調査票を回収し、記入者の歯科検診票とセットにして愛知県歯科医師会への送付を行った。愛知県歯科医師会において調査票および歯科検診票に共通のIDを付与した後に情報入力、データセットを作成した。連結不可能匿名化されたデータセットを名古屋大学に移送し、名古屋大学大学院医学系研究科予防医学でデータ分析を行った。

歯科検診と調査票記入のタイミングが必ずしも一致しているとは限らないことから、歯科検診項目の解析には歯科検診票に記載された年齢、調査票項目の解析には調査票に記載されている年齢カテゴリを用いて分析した。歯科検診票と調査票の間に性や年齢の不整合が認められた者や愛知県外の在住者を除き、18歳から65歳の男女11,030名を対象とした。

解析方法として、歯科検診票ならびに調査票の各項目について主に記述的な分析を行った。性や年齢による層別分析を基本とし、一部の項目では保険証区分(本人あるいは家族)に加えて解析した。歯科検診項目の年齢は5歳区切りに変換して分析に用いた。

項目の組み合わせによる分析では、現在歯数28歯以上を「喪失歯なし」、CPI検査による歯周ポケット評価のスコアが0であった者を「歯周状況が健全」として解析した。また、現在歯数において24歯をカットオフ値とした分析を行った。対応の無い2群の平均値の比較にはt検定、3群以上においては分散分析、カテゴリ変数についてはカイ二乗検定を用いた。さらに、性や年齢を共変量とした共分散分析やロジスティック回帰分析を行った。統計学的有意水準は5%に設定した。

本研究計画は、愛知県歯科医師会の倫理審査委員会(承認番号2017-01)ならびに名古屋大学医学部生命倫理審査委員会(承認番号2017-0030)の承認を受けた。

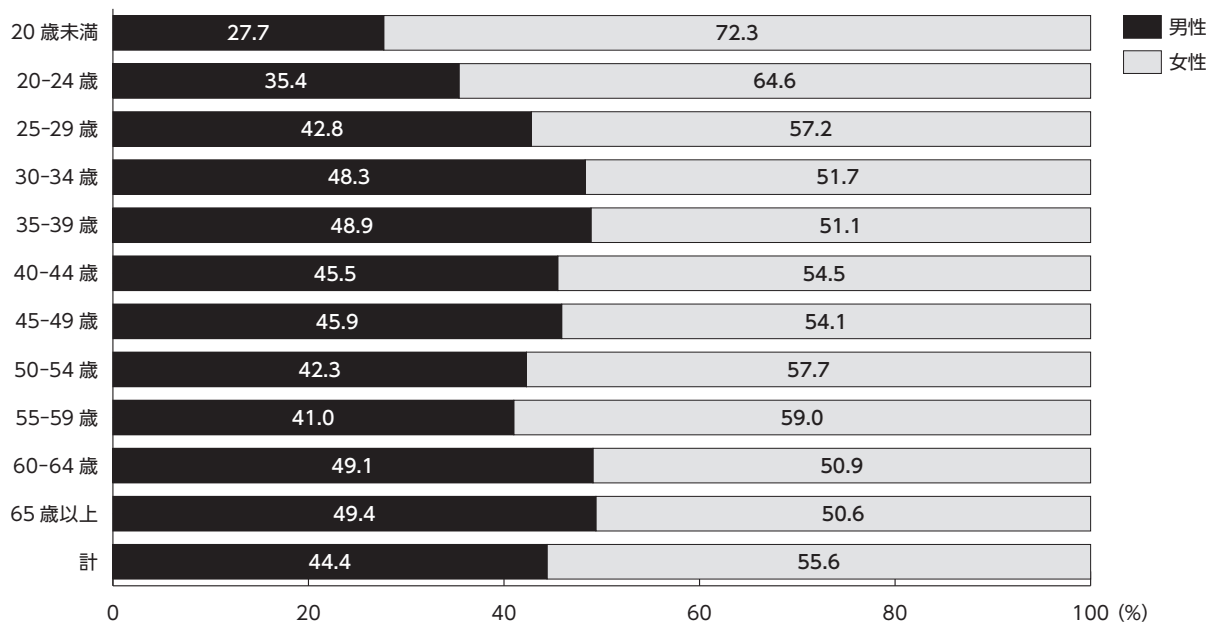
【調査結果】

I. 記述分析

1. 対象者の性・年齢および居住地の分布(表1)

性・年齢別の内訳を表に示す。男性4,900名、女性6,130名であり、女性は全体の56%を占めた。居住地の内訳は、名古屋3,392名(31%)、尾張4,006名(36%)、三河3,632名(33%)であった。

表1. 解析対象者の性年齢別分布



2. 口腔内診査結果

(1) 歯数

① 健全歯数(表2)

平均健全歯数は、男性16.5本、女性15.7本であった。20-24歳で22.6本、60-64歳で11.1本と、加齢とともに健全歯数が男女とも減少する傾向にあった。女性に較べて、男性の歯数がやや多い傾向にあった。

表2. 平均健全歯数の性年齢別分布

	男性			女性			全体		
	人数	平均	標準偏差	人数	平均	標準偏差	人数	平均	標準偏差
20歳未満	66	22.6	5.8	172	24.0	4.7	238	23.6	5.1
20-24歳	302	22.9	6.2	550	22.5	5.7	852	22.6	5.9
25-29歳	444	22.3	6.4	593	20.7	6.1	1,037	21.4	6.3
30-34歳	528	19.8	6.4	566	18.6	6.0	1,094	19.2	6.2
35-39歳	599	17.8	6.3	625	16.9	6.1	1,224	17.3	6.3
40-44歳	686	16.2	6.4	821	15.3	5.9	1,507	15.7	6.2
45-49歳	685	14.8	6.6	808	13.9	5.6	1,493	14.3	6.1
50-54歳	532	13.8	6.3	727	12.6	5.6	1,259	13.1	5.9
55-59歳	429	12.4	6.1	618	11.4	5.5	1,047	11.5	5.8
60-64歳	501	12.1	6.8	519	10.1	5.6	1,020	11.1	6.3
65歳以上	128	10.2	6.7	131	9.1	5.7	259	9.6	6.2
計	4,900	16.5	7.4	6,130	15.7	7.0	11,030	16.0	7.2

②未処置歯数(表3)

平均未処置歯数は、男性1.5本、女性1.1本であった。20-24歳で1.8本、60-64歳で0.8本と、加齢とともに未処置歯数が男女とも減少する傾向にあった。女性に較べて、男性の歯数がやや多い傾向にあった。

表3. 平均未処置歯数の性年齢別分布

	男性			女性			全体		
	人数	平均	標準偏差	人数	平均	標準偏差	人数	平均	標準偏差
20歳未満	66	2.6	4.1	172	1.4	2.9	238	1.7	3.3
20-24歳	302	2.1	3.6	550	1.7	3.2	852	1.8	3.3
25-29歳	444	2.1	3.4	593	1.5	2.7	1,037	1.8	3.0
30-34歳	528	1.8	2.7	566	1.4	2.8	1,094	1.6	2.8
35-39歳	599	1.6	2.7	625	1.1	2.2	1,224	1.4	2.5
40-44歳	686	1.4	2.5	821	1.0	2.0	1,507	1.2	2.3
45-49歳	685	1.4	2.8	808	0.9	1.9	1,493	1.2	2.4
50-54歳	532	1.1	2.5	727	0.9	2.0	1,259	1.0	2.2
55-59歳	429	1.2	2.6	618	0.7	1.8	1,047	0.9	2.2
60-64歳	501	0.9	2.2	519	0.6	1.5	1,020	0.8	1.9
65歳以上	128	0.8	1.6	131	0.6	2.0	259	0.7	1.8
計	4,900	1.5	2.8	6,130	1.1	2.3	11,030	1.3	2.5

③処置歯数(表4)

平均処置歯数は、男性10.0本、女性10.7本であった。20-24歳で4.1本、50-54歳で13.3本と、男女とも50歳まで処置歯数が増加し、以降は横ばいの傾向が認められた。男性に較べて、女性の歯数がやや多い傾向が示された。

表4. 平均処置歯数の性年齢別分布

	男性			女性			全体		
	人数	平均	標準偏差	人数	平均	標準偏差	人数	平均	標準偏差
20歳未満	66	3.8	4.3	172	2.7	3.4	238	3.0	3.7
20-24歳	302	4.0	4.5	550	4.1	4.3	852	4.1	4.4
25-29歳	444	4.6	5.0	593	6.0	5.3	1,037	5.4	5.2
30-34歳	528	7.3	5.6	566	8.4	5.4	1,094	7.9	5.5
35-39歳	599	9.2	5.7	625	10.3	5.8	1,224	9.7	5.7
40-44歳	686	10.7	5.9	821	11.9	5.4	1,507	11.3	5.7
45-49歳	685	11.4	5.9	808	12.9	5.3	1,493	12.2	5.6
50-54歳	532	12.5	5.8	727	13.8	5.3	1,259	13.3	5.5
55-59歳	429	12.3	5.6	618	13.9	5.0	1,047	13.2	5.3
60-64歳	501	11.7	5.8	519	14.3	5.1	1,020	13.0	5.6
65歳以上	128	12.5	6.1	131	13.8	5.7	259	13.2	6.0
計	4,900	10.0	6.3	6,130	10.7	6.3	11,030	10.2	6.3

④現在歯数(表5)

平均現在歯数は、男性27.6本、女性27.4本であった。20-24歳で28.5本、60-64歳で24.8本と、加齢とともに現在歯数が男女とも減少する傾向にあった。

表5. 平均現在歯数の性年齢別分布

	男性			女性			全体		
	人数	平均	標準偏差	人数	平均	標準偏差	人数	平均	標準偏差
20歳未満	66	28.9	1.3	172	28.1	1.3	238	28.3	1.3
20-24歳	302	28.8	2.9	550	28.3	2.3	852	28.5	2.6
25-29歳	444	29.0	1.6	593	28.3	2.1	1,037	28.6	1.9
30-34歳	528	28.8	2.2	566	28.4	1.8	1,094	28.6	2.0
35-39歳	599	28.5	2.3	625	28.1	2.5	1,224	28.3	2.4
40-44歳	686	28.2	2.4	821	28.1	2.1	1,507	28.2	2.2
45-49歳	685	27.6	3.0	808	27.7	2.6	1,493	27.6	2.8
50-54歳	532	27.3	3.3	727	27.3	2.5	1,259	27.3	2.9
55-59歳	429	26.0	4.6	618	26.0	3.9	1,047	26.0	4.2
60-64歳	501	24.6	5.8	519	24.9	4.6	1,020	24.8	5.2
65歳以上	128	23.5	6.4	131	23.5	6.1	259	23.5	6.3
計	4,900	27.6	3.7	6,130	27.4	3.1	11,030	27.5	3.4

⑤要補綴歯数(表6)

平均要補綴歯数は、男性0.3本、女性0.2本であった。20-24歳で0.1本、60-64歳で0.6本と、加齢とともに要補綴歯数が男女とも増加する傾向にあった。

表6. 平均要補綴歯数の性年齢別分布

	男性			女性			全体		
	人数	平均	標準偏差	人数	平均	標準偏差	人数	平均	標準偏差
20歳未満	66	0.1	0.6	172	0.0	0.2	238	0.1	0.4
20-24歳	302	0.1	0.5	550	0.1	0.8	852	0.1	0.7
25-29歳	444	0.1	0.3	593	0.1	0.5	1,037	0.1	0.4
30-34歳	528	0.1	0.5	566	0.1	0.5	1,094	0.1	0.5
35-39歳	599	0.2	1.0	625	0.1	0.6	1,224	0.2	0.8
40-44歳	686	0.2	1.0	821	0.1	0.5	1,507	0.2	0.8
45-49歳	685	0.4	1.4	808	0.2	0.7	1,493	0.3	1.1
50-54歳	532	0.3	1.0	727	0.3	0.9	1,259	0.3	0.9
55-59歳	429	0.5	1.7	618	0.5	1.6	1,047	0.5	1.7
60-64歳	501	0.6	1.8	519	0.7	2.2	1,020	0.6	2.0
65歳以上	128	0.6	1.7	131	0.4	1.0	259	0.5	1.4
計	4,900	0.3	1.2	6,130	0.2	1.0	11,030	0.3	1.1

⑥欠損補綴歯数(表7)

平均欠損補綴歯数は、男性0.8本、女性0.6本であった。30-34歳で0.1本、60-64歳で2.5本と、加齢とともに欠損補綴歯数が男女とも増加する傾向にあった。女性に較べて、男性の歯数がやや多い傾向にあった。

表7. 平均欠損補綴歯数の性年齢別分布

	男性			女性			全体		
	人数	平均	標準偏差	人数	平均	標準偏差	人数	平均	標準偏差
20歳未満	66	0.0	0.0	172	0.0	0.1	238	0.0	0.1
20-24歳	302	0.1	0.3	550	0.0	0.2	852	0.0	0.2
25-29歳	444	0.0	0.2	593	0.1	0.4	1,037	0.0	0.3
30-34歳	528	0.1	0.5	566	0.1	0.7	1,094	0.1	0.6
35-39歳	599	0.2	0.7	625	0.1	0.6	1,224	0.2	0.6
40-44歳	686	0.3	1.0	821	0.2	0.7	1,507	0.2	0.9
45-49歳	685	0.7	1.9	808	0.5	1.9	1,493	0.6	1.9
50-54歳	532	0.8	2.2	727	0.6	1.3	1,259	0.7	1.7
55-59歳	429	1.7	3.6	618	1.4	3.0	1,047	1.5	3.3
60-64歳	501	2.8	4.7	519	2.2	3.8	1,020	2.5	4.3
65歳以上	128	3.7	5.9	131	2.7	4.4	259	3.2	5.2
計	4,900	0.8	2.6	6,130	0.6	2.0	11,030	0.7	2.2

⑦喪失歯数(表8)

平均喪失歯数は、男性0.8本、女性0.7本であった。20-24歳で0.2本、60-64歳で1.9本と、加齢とともに喪失歯数が男女とも増加する傾向にあった。

表8. 平均喪失歯数の性年齢別分布

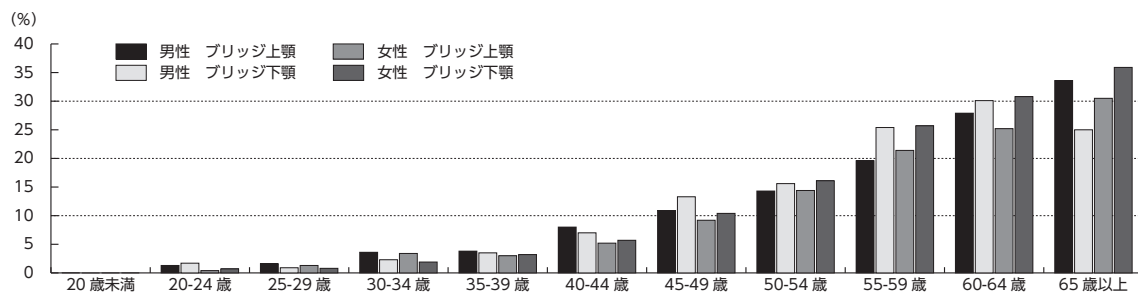
	男性			女性			全体		
	人数	平均	標準偏差	人数	平均	標準偏差	人数	平均	標準偏差
20歳未満	66	0.0	0.1	172	0.2	0.8	238	0.2	0.7
20-24歳	302	0.1	0.6	550	0.2	0.8	852	0.2	0.8
25-29歳	444	0.2	0.6	593	0.4	1.1	1,037	0.3	1.0
30-34歳	528	0.3	0.8	566	0.4	1.2	1,094	0.3	1.0
35-39歳	599	0.3	1.1	625	0.4	1.1	1,224	0.4	1.1
40-44歳	686	0.5	1.3	821	0.4	1.1	1,507	0.4	1.2
45-49歳	685	0.8	2.0	808	0.7	1.8	1,493	0.7	1.9
50-54歳	532	0.9	2.2	727	0.8	1.9	1,259	0.8	2.1
55-59歳	429	1.6	3.3	618	1.5	3.1	1,047	1.5	3.2
60-64歳	501	2.0	3.8	519	1.7	3.4	1,020	1.9	3.6
65歳以上	128	2.5	4.4	131	2.8	5.2	259	2.6	4.8
計	4,900	0.8	2.2	6,130	0.7	2.1	11,030	0.8	2.1

(2)補綴状況(表9)

①ブリッジ

上顎のブリッジを有する者は、男性において11%、女性で9%を占めた。有する者の割合は加齢とともに上昇し、男性は45-49歳(11%)、女性は50-54歳(14%)でそれぞれ10%を超えていた。同様に、下顎のブリッジを有する者は、男女ともに11%であった。その割合は加齢とともに上昇し、60-64歳では男女ともに3割を占めた。

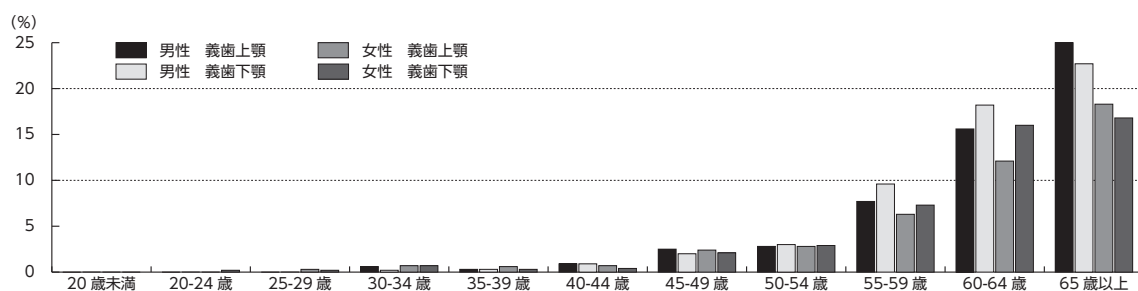
表9-1. ブリッジの年齢別割合



②義歯

上顎の義歯装着者の割合は、全体で男性4%、女性3%であった。60歳以降で男性により高い割合が認められ、60-64歳では男性16%、女性12%を占めた。下顎の義歯装着者の割合は、全体で男性4%、女性3%であった。その割合は加齢とともに上昇し、60-64歳で男性18%、女性16%を占めた。

表9-2. 義歯の年齢別割合



③インプラント

上顎のインプラント装着者の割合は、男性0.4%、女性0.5%であった。その割合は加齢とともに上昇し、60-64歳で男性1%、女性2%を占めた。同様に、下顎のインプラント装着者の割合は、男性0.7%、女性1%であった。60-64歳では男性3%、女性2%を占めた。

表9-3. インプラントの年齢別割合

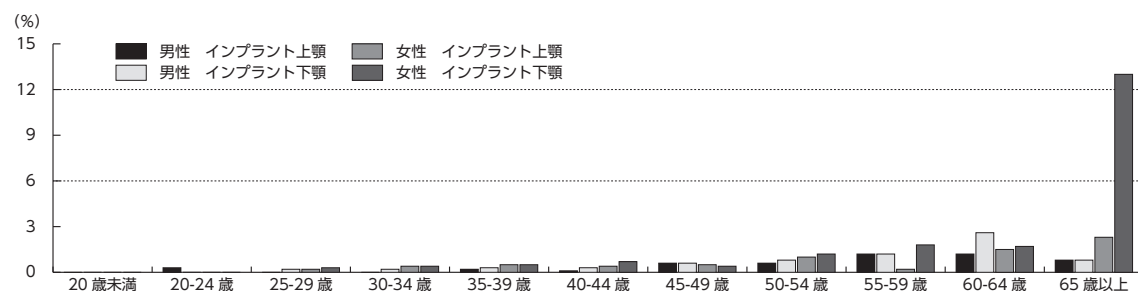
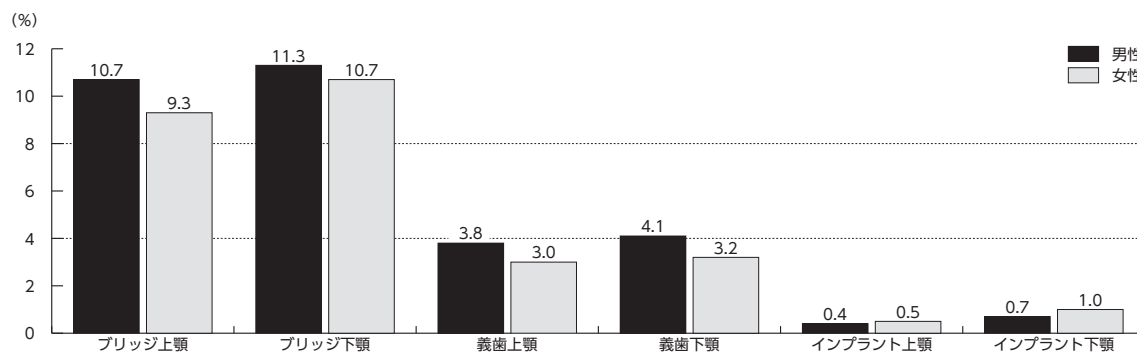


表9-4. 補綴状況全体の割合



(3) 歯肉の状況 (表10、11)

CPI検査により、歯肉の状況を診断した。歯肉出血に関して、男性全体の34%、女性全体の42%が健全と診断された。20歳未満の男性を除き、加齢とともに健全と診断される割合が減少する傾向にあった。60-64歳では、男女とも67%が出血ありと診断された。

歯周ポケットの最大値(CPI検査の個人コード)に関して、4-5mmは男性43%、女性41%、6mm以上は男性13%、女性8%を占めた。健全と診断される割合は加齢とともに減少し、20-24歳で男性59%、女性71%、60-64歳で男性28%、女性33%であった。

表10. 歯肉出血：個人コード

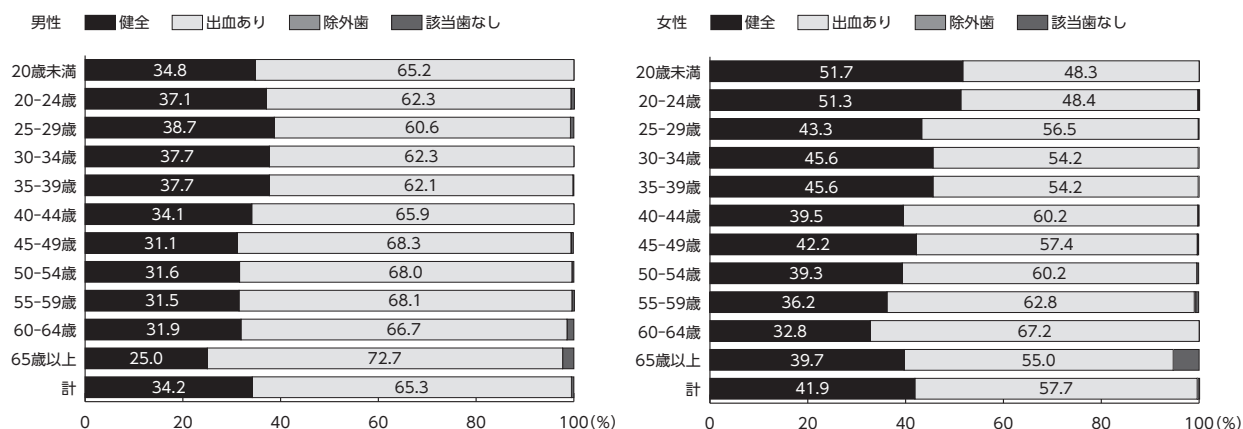
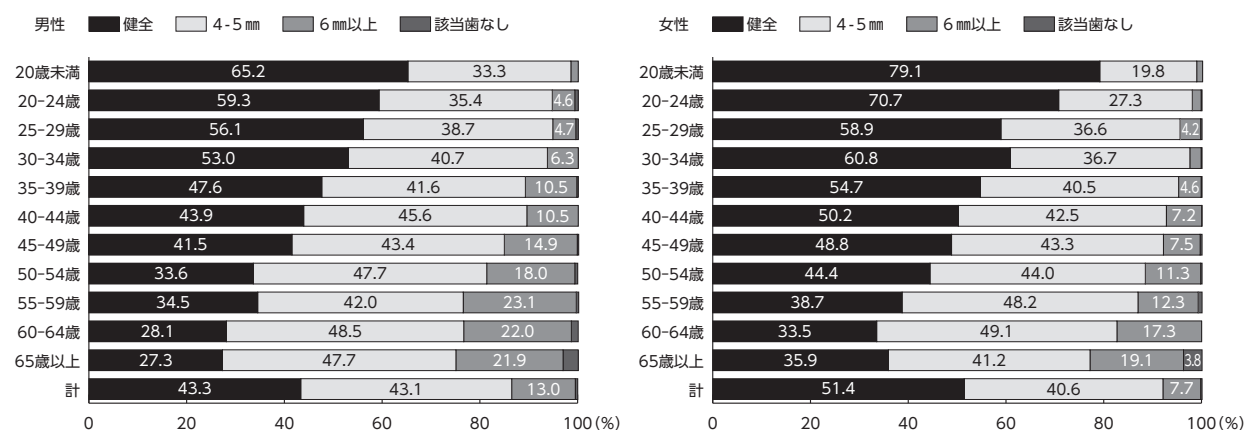


表11. 歯周ポケット：個人コード



(4)口腔清掃および歯石付着状態(表12、13)

口腔清掃状態が不良と判定された者の割合は、男性20%、女性10%であった。いずれの年齢層においても、女性に較べて男性において不良と判定される割合が高く認められた。最も高い割合が示されたのは、男性で20歳未満(33%)、女性で25-29歳(16%)であった。

歯石付着なしと判定された者の割合は、男性17%、女性25%であった。男性に較べて、女性において歯石付着なしと判定される割合が高く認められた。歯石付着が軽度あるいは中程度と判定される割合が最も高く認められたのは、男性60-64歳(87%)、女性55-59歳(82%)であった。

表12. 口腔清掃状態

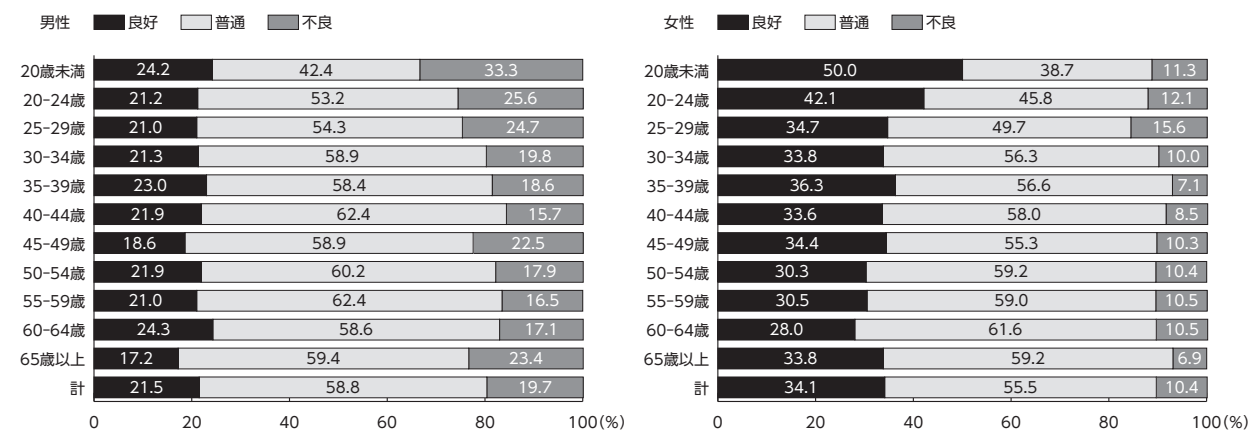
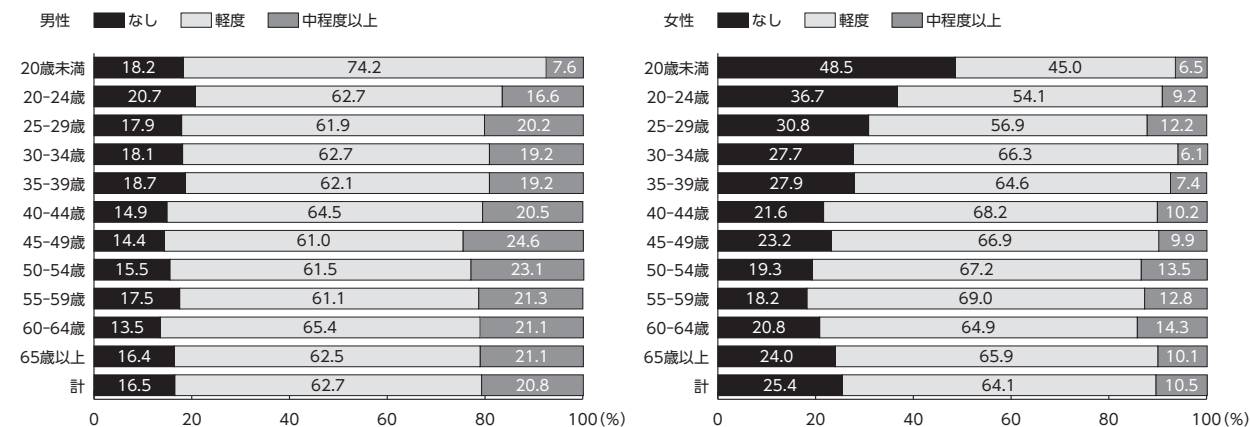


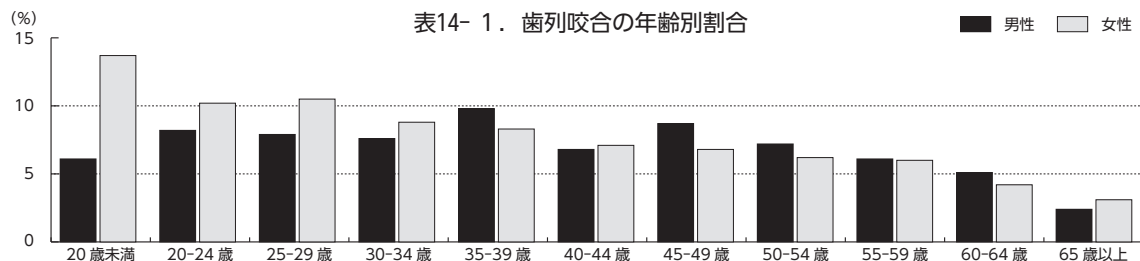
表13. 歯石付着



(5)その他の所見(表14)

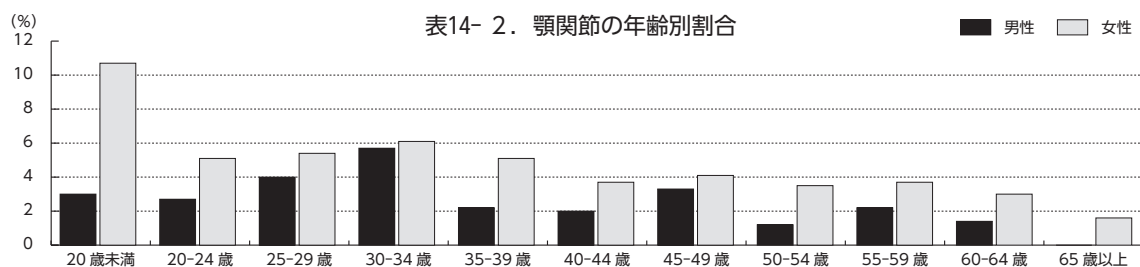
①歯列咬合

歯列咬合に関して「所見あり」と判定された割合は、男女ともに全体の7%であった。女性において、加齢とともに「所見あり」の割合が減少する傾向が認められた。44歳までは男性に較べて女性に高い割合が認められた一方、45-64歳では男性により高い割合が示された。



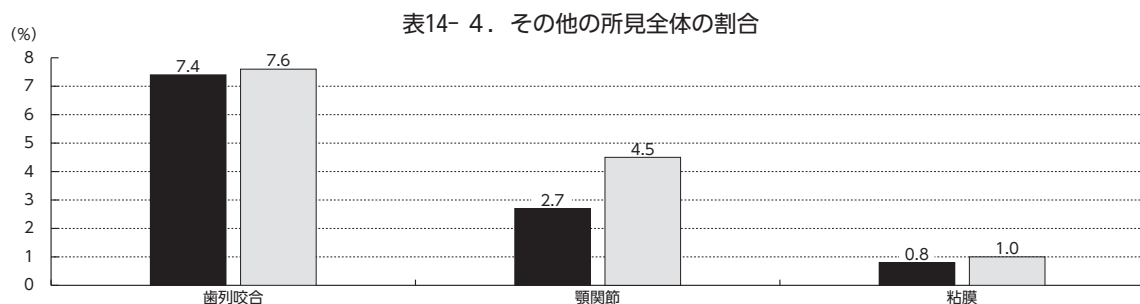
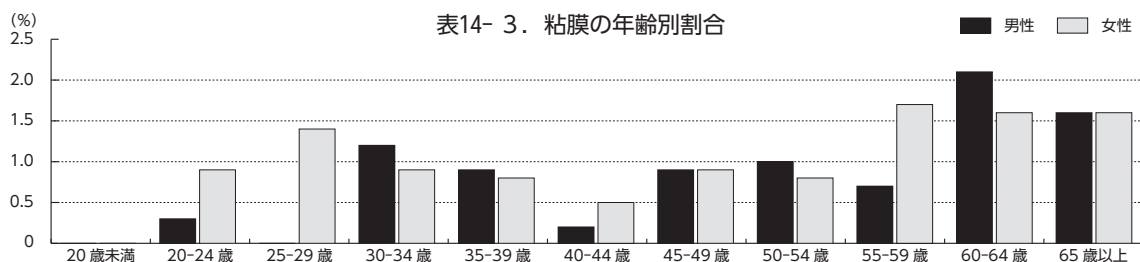
②顎関節

顎関節に関して「所見あり」と判定された割合は、男性3%、女性5%であった。最も高い割合が示されたのは、男性で30-34歳(6%)、女性で20歳未満(11%)であった。全般に、女性が男性より高い割合を示す傾向にあった。



③粘膜

粘膜に関して「所見あり」と判定された割合は、男性0.8%、女性1%であった。60-64歳では、男女ともに全体の2%に所見が認められた。



(6)判定区分(表15-17)

「異常なし」「要指導」「要精密検査」と判定された者の割合は、男性でそれぞれ8%、19%、74%、女性で13%、21%、66%であった。女性に較べて、男性において要精密検査と判定される割合が高く認められた。要精密検査と診断される割合は加齢とともに増加し、20歳未満で男性62%、女性40%、60-64歳で男性79%、女性77%であった。

さらに判定区分を詳細に見ると、男性において「要精密検査：歯周ポケット4-5mm」の割合が最も高く、全体の38%を占めた。同様に、女性でも「要精密検査：歯周ポケット4-5mm」が最も高く、36%を占めた。最も低い割合を示した判定区分は、男女ともに「要指導：口腔衛生状態不良」であり、それぞれ全体の0.1%以下であった。

表15-1. 判定区分(男性)

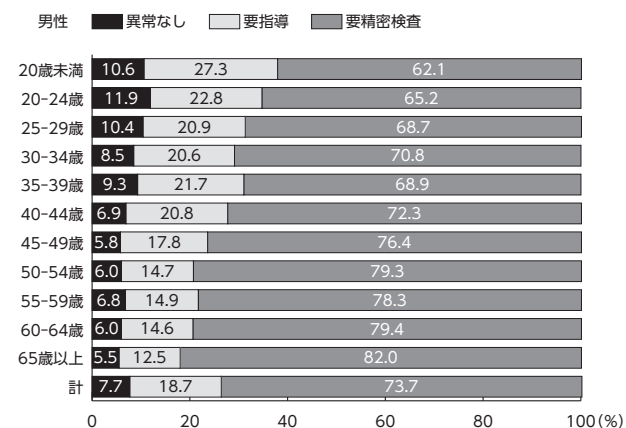


表15-2. 判定区分(女性)

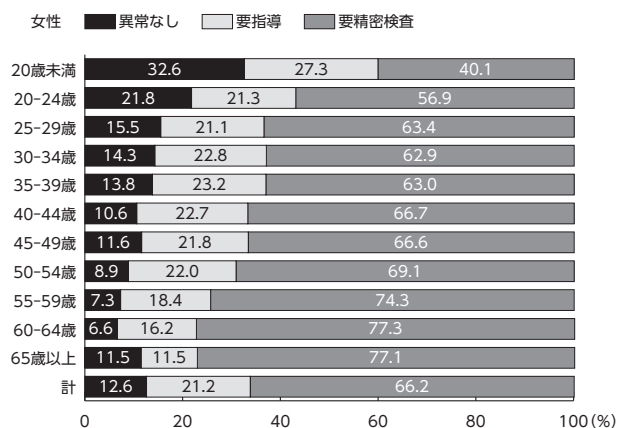


表16. 判定区分(男性)

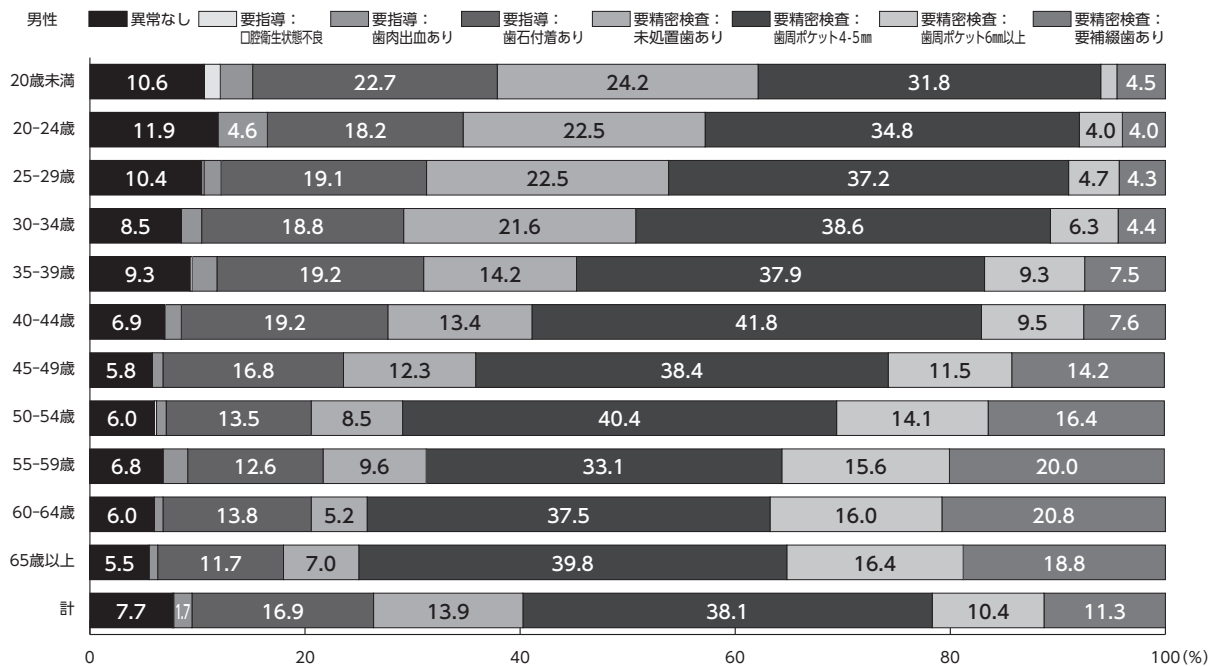
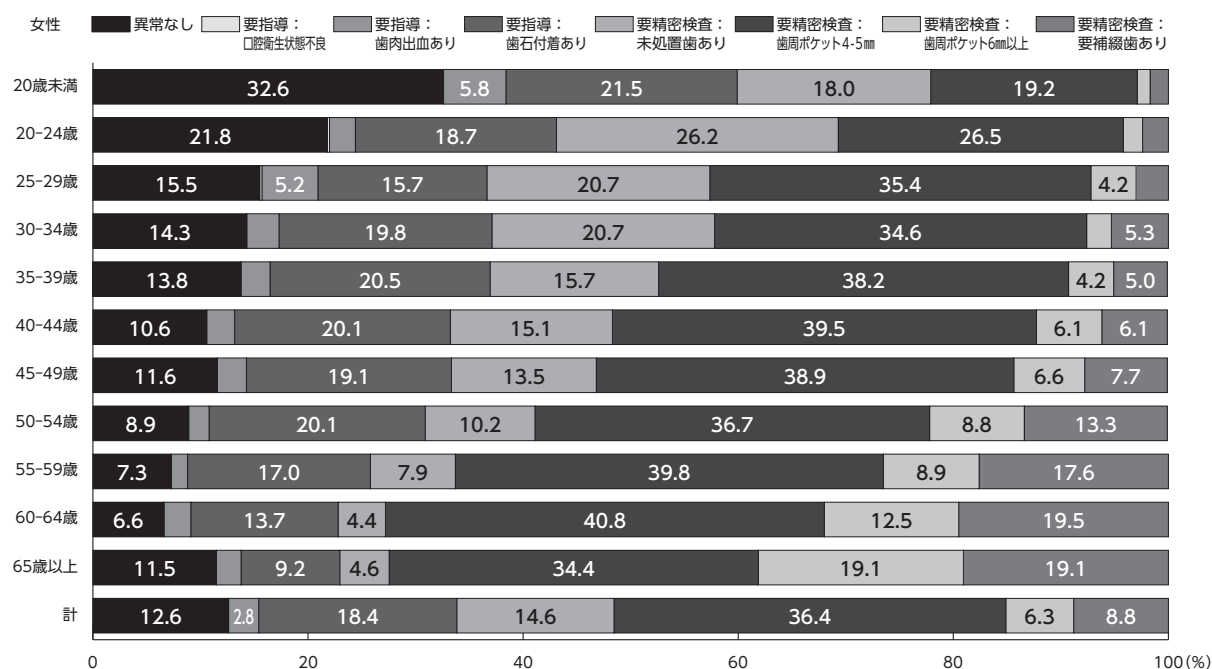


表17. 判定区分(女性)



3. 調査票項目の結果

(1)全身の健康状態について(表18-21)

男性において全体の81%、女性において82%が「とてもよい」あるいは「よい」と回答した。加齢とともに、健康状態がよいと回答する割合が、男女ともに減少した。

主要な疾患の既往に関して、男女ともに高血圧と胃・十二指腸潰瘍が多く認められた。男性では、高血圧15%、胃・十二指腸潰瘍11%と全体の1割を超えていた。女性はそれぞれ8%、7%を占めた。がん、心筋梗塞、脳卒中ならびに糖尿病の割合は、男性1.8%、1.2%、1.4%、5.6%、女性1.5%、0.1%、0.9%、2.0%であった。加齢とともに、疾患既往ありと回答する割合が男女ともに増加する傾向が認められた。

表18. 全身の健康状態(男性)

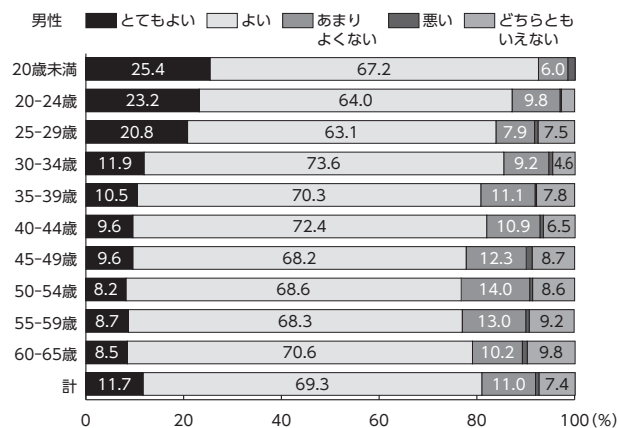


表19. 全身の健康状態(女性)

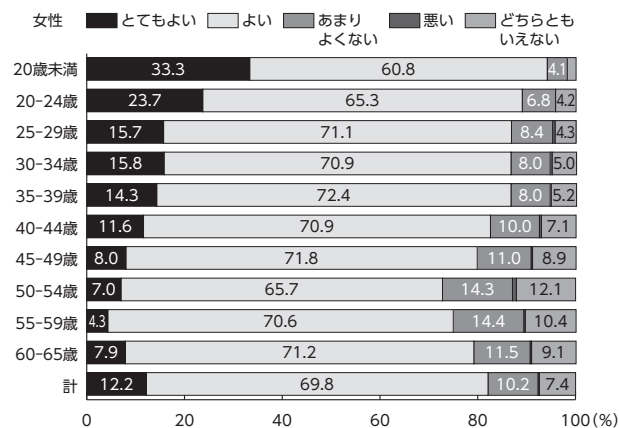


表20. 全身疾患の既往歴あり(男性)

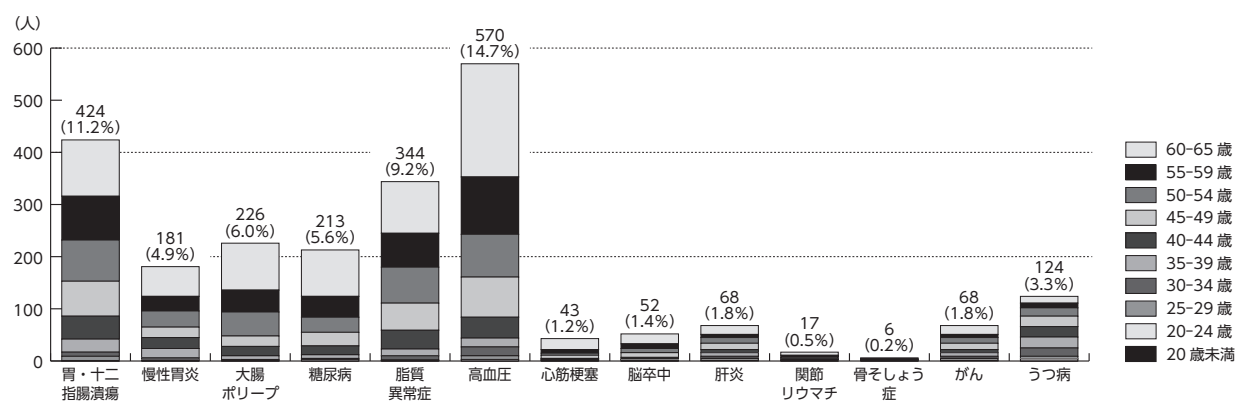
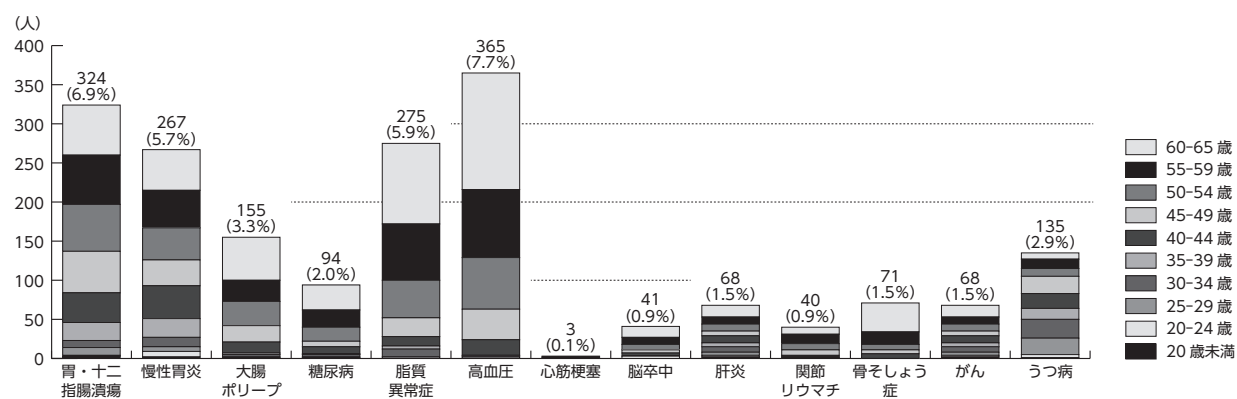


表21. 全身疾患の既往歴あり(女性)



(2)お口の健康について

①口腔の健康状態に対する関心や満足度、気になること(表22-29)

男性において全体の48%、女性において49%が「とてもよい」あるいは「よい」と回答した。加齢とともに、口腔の健康状態がとてもよいと回答する割合が、男女ともに減少傾向にあった。

口腔の健康状態に「かなり関心がある」あるいは「まあまあ関心がある」と回答した割合は、男性74%、女性88%であった。全般に、女性に較べて男性は「かなり関心がある」や「まあまあ関心がある」と回答する割合が低い傾向が認められた。

口腔の健康状態に「充分満足している」あるいは「まあまあ満足している」と回答した割合は、男性54%、女性55%であった。「満足していない」割合の年齢別比較において、男性は20-24歳(14%)、20歳未満(12%)、女性は50-54歳(11%)、55-59歳(11%)に高い割合が示された。

口腔の健康について気になっていることとして、男性ではむし歯(47%)、歯周病(41%)、歯石(36%)、女性ではむし歯(42%)、歯石(42%)、歯周病(41%)に高い回答割合が認められた。口臭は、男性の31%、女性の27%が「気になっている」と回答した。

表22. 口腔の健康状態(男性)

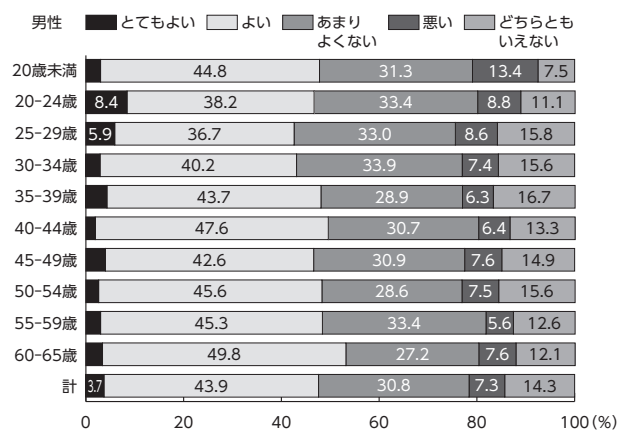


表23. 口腔の健康状態(女性)

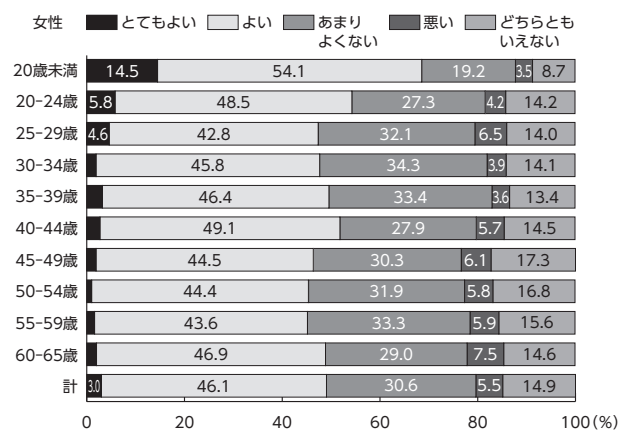


表24. 口腔の健康状態に関心があるか(男性)

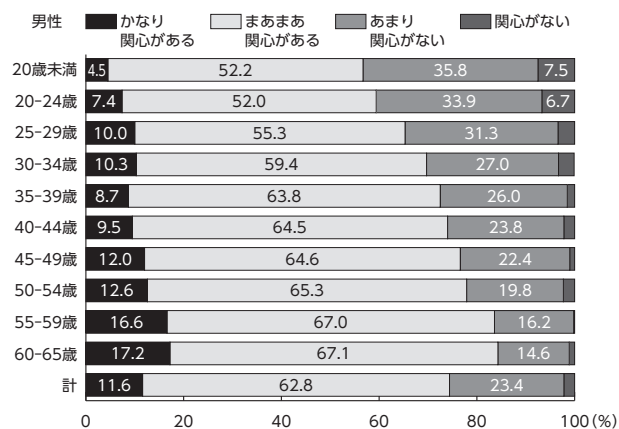


表25. 口腔の健康状態に関心があるか(女性)

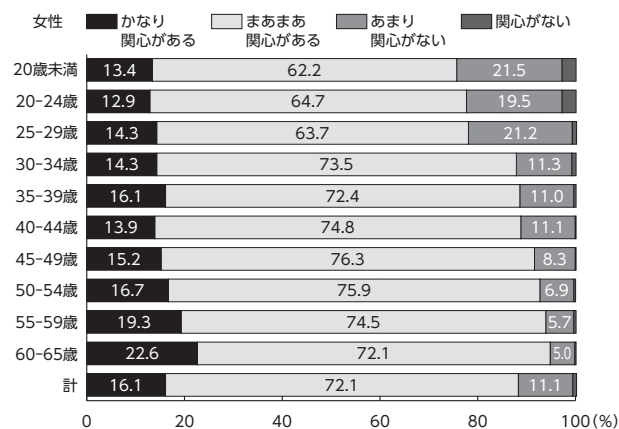


表26. 口腔の健康状態に満足しているか(男性)

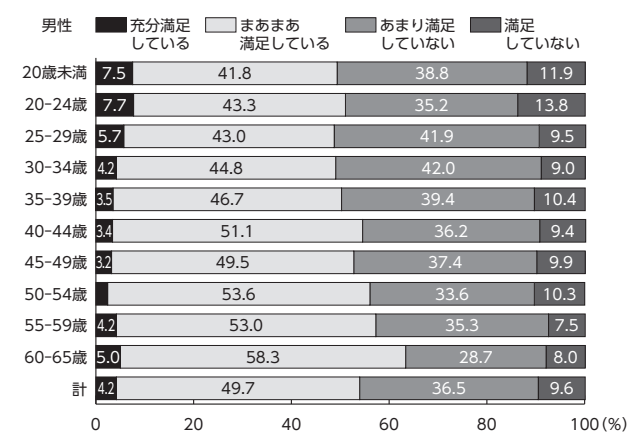


表27. 口腔の健康状態に満足しているか(女性)

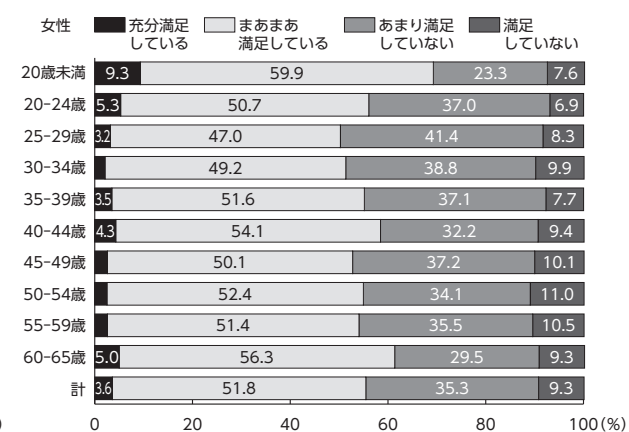


表28. 口の健康で気になっていること(複数回答可) (男性)

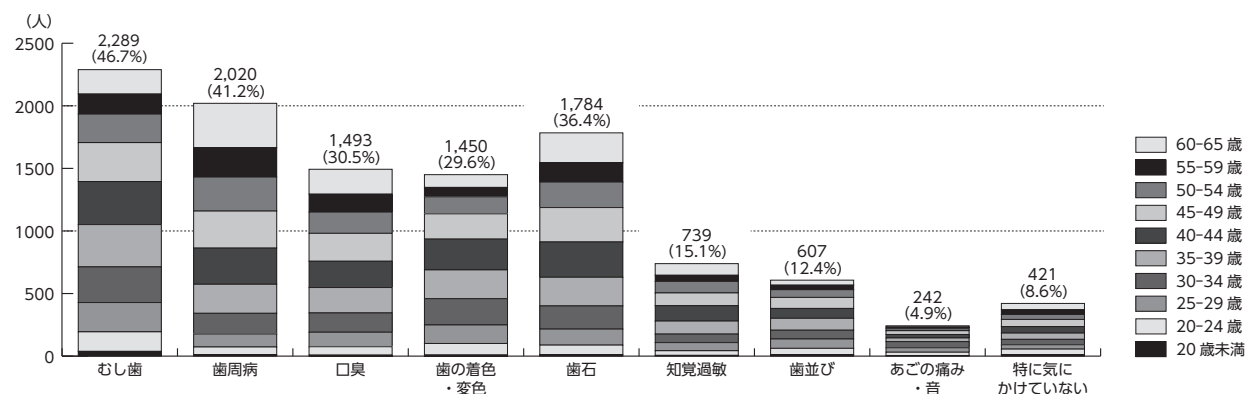
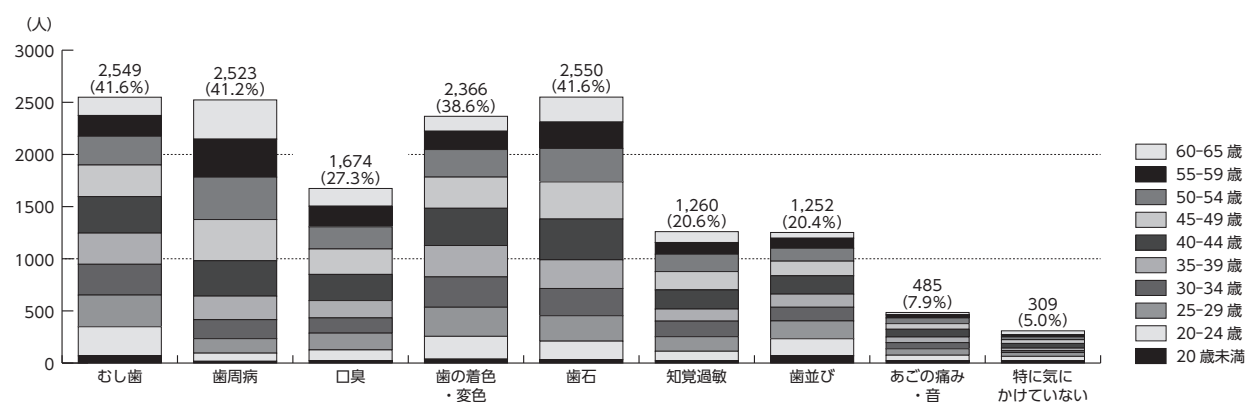


表29. 口の健康で気になっていること(複数回答可) (女性)



②歯科受診状況と受診理由(表30-37)

「歯科治療は症状がひどくなる前に受診するか」に関して、男性55%、女性69%が「受診する」と回答した。「受診する」との回答割合が最も低い年齢層は、男性が30-34歳(45%)、女性が20-24歳(62%)だった。女性は25歳以降の年代で、「受診する」と回答する割合が上昇した。

男性全体の71%、女性の81%が「かかりつけ歯科医院あり」と回答した。そのうち年齢別の比較において、男女ともに25-29歳で最も低い割合(男性51%、女性64%)が認められた。

最近1年間の歯科医院受診に関して、男性60%、女性68%が受診ありと回答した。最も高い割合を示した年齢層は男女ともに60-65歳であり、男性74%、女性81%を占めた。最も低い割合を示した年齢層は、男性20-24歳ならびに25-29歳(47%)、女性25-29歳(58%)であった。

最近1年間の歯科医院受診理由として、男性は「定期検診」(21%)、「詰め物が取れた・歯がかけた」(21%)、「歯石除去」(17%)、女性では「定期検診」(31%)、「歯石除去」(20%)、「詰め物が取れた・歯がかけた」(19%)に高い割合が示された。「歯が抜けた」は男性に、「知覚過敏」「歯並び」「あごの痛み・音」は女性により多く認められる傾向にあった。

表30. 歯科治療は症状がひどくなる前に受診するか(男性)

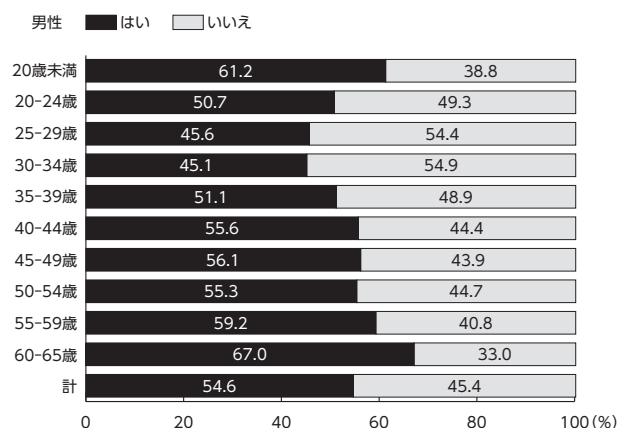


表31. 歯科治療は症状がひどくなる前に受診するか(女性)

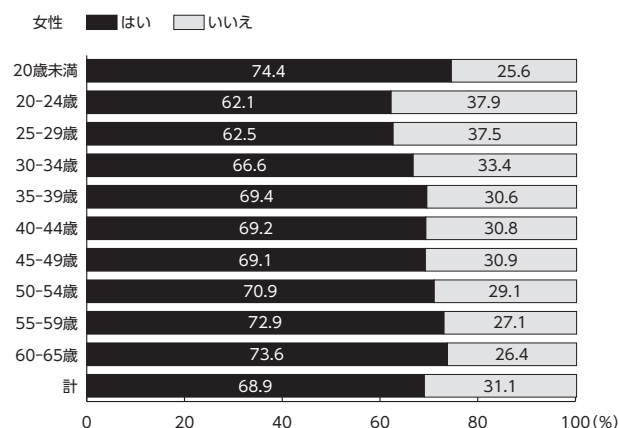


表32. かかりつけ歯科医院の有無(男性)

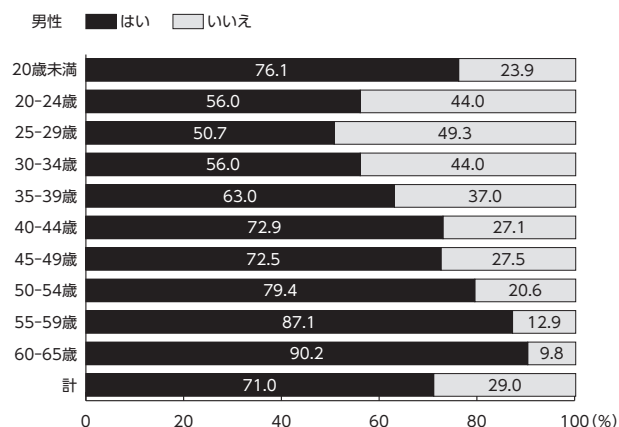


表33. かかりつけ歯科医院の有無(女性)

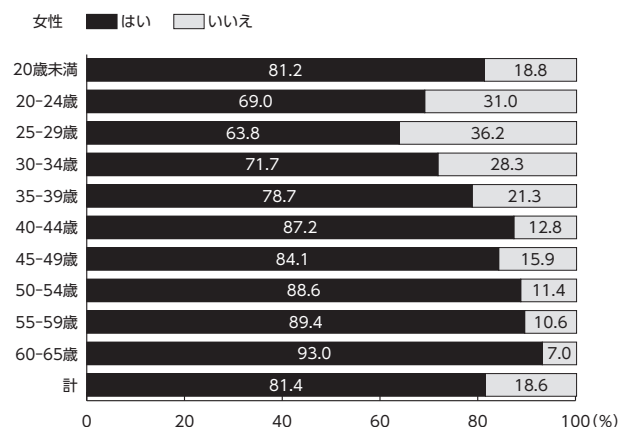


表34. 最近1年間の歯科受診(男性)

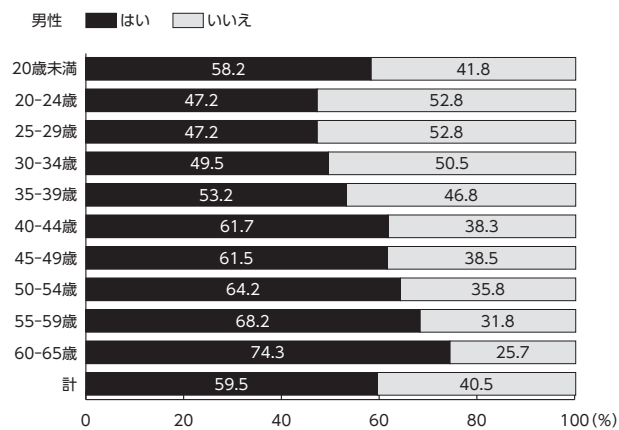


表35. 最近1年間の歯科受診(女性)

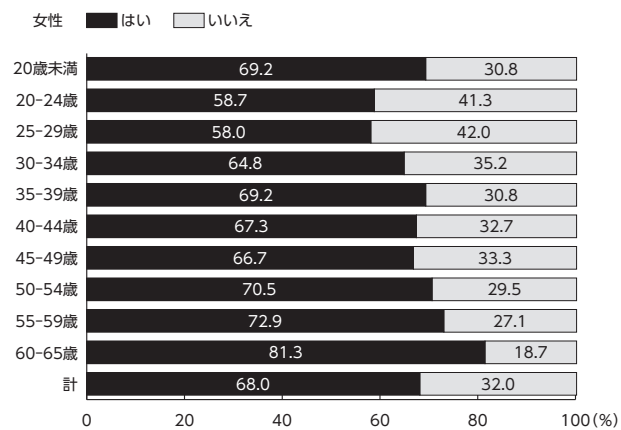


表36. 受診理由(複数回答可)(男性)

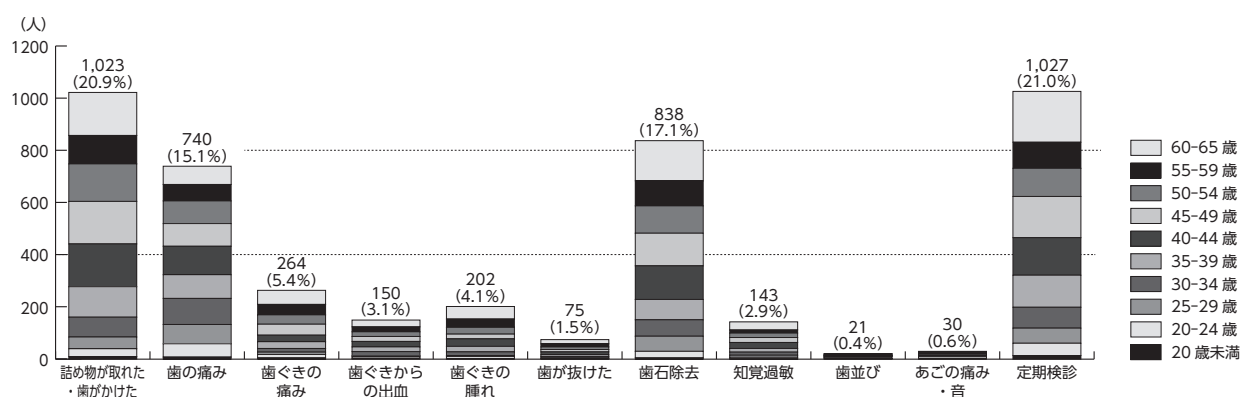
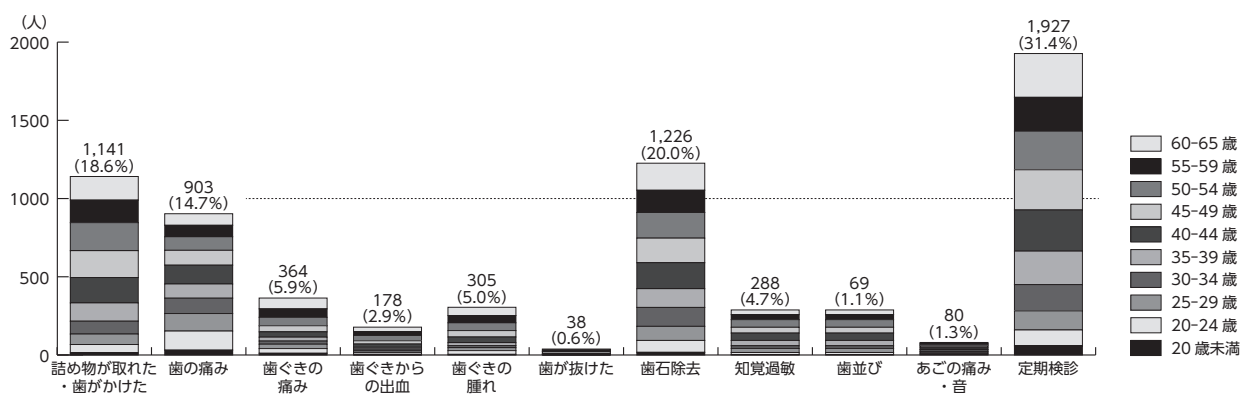


表37. 受診理由(複数回答可)(女性)



③口腔清掃習慣(表38-43)

一日の歯磨き回数として、男女ともに2回が最も高い回答割合が認められた(男性60%、女性53%)。続いて、男性は1回(24%)、女性は3回(38%)に回答割合が高く示された。「毎日磨かない」は男性1.4%、女性0.1%であった。

1回の歯磨き時間は、男性で「3-5分未満」(31%)、「2-3分未満」(25%)、「5-10分未満」(20%)、女性で「3-5分未満」(30%)、「2-3分未満」(25%)、「5-10分未満」(19%)の順に高い割合が示された。

歯磨き時に使用している口腔衛生関連製品として、男性で「歯ブラシ」(90%)、「歯磨き剤」(60%)、「歯間ブラシ」(17%)、女性で「歯ブラシ」(95%)、「歯磨き剤」(70%)、「歯間ブラシ」(30%)の順に高い割合が示された。男性では「電動歯ブラシ」(14%)、女性では「デンタルフロス」(22%)や洗口剤(14%)の使用がより多く認められた。

表38. 1日の歯磨き回数(男性)

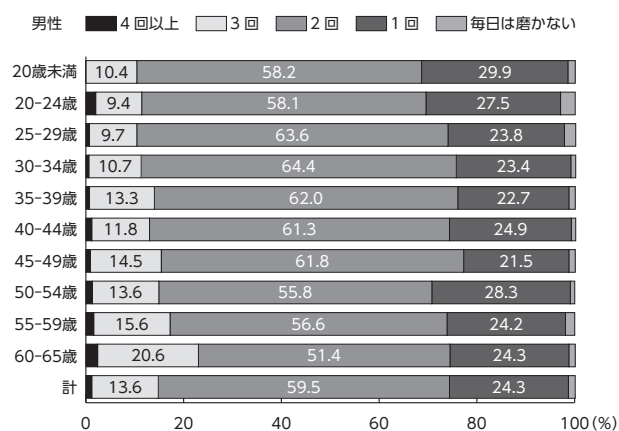


表39. 1日の歯磨き回数(女性)

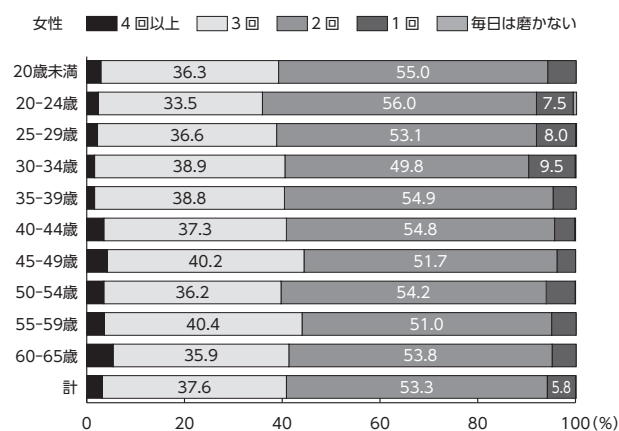


表40. 1回の歯を磨く時間(男性)

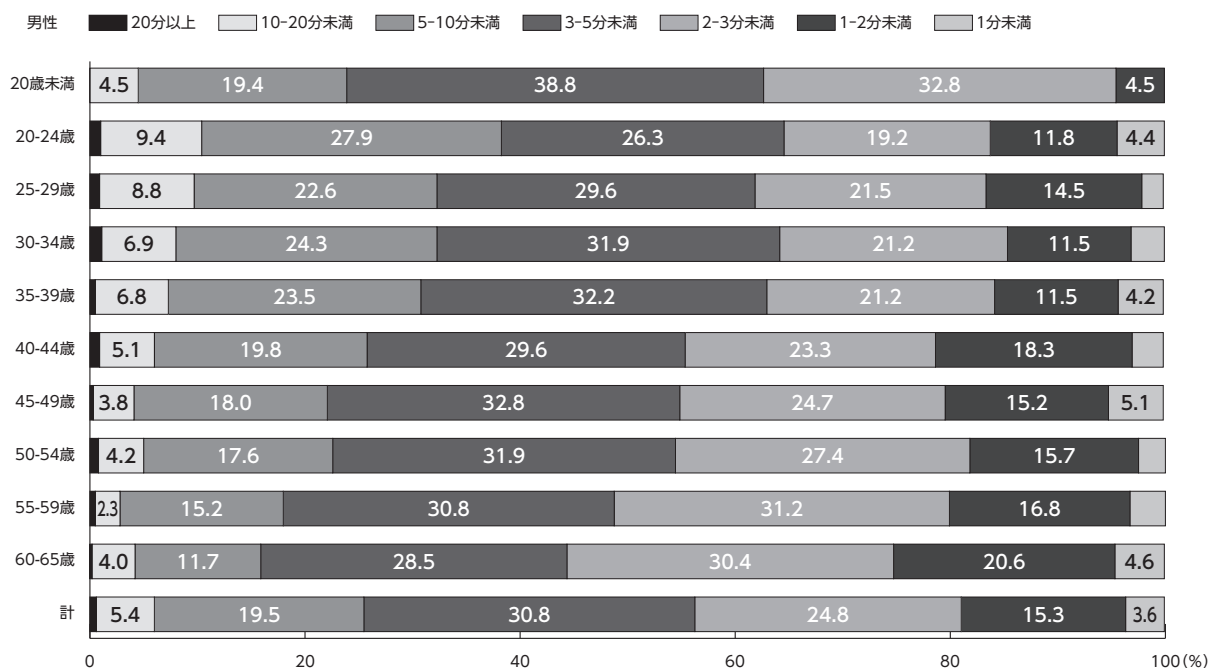


表41. 1回の歯を磨く時間(女性)

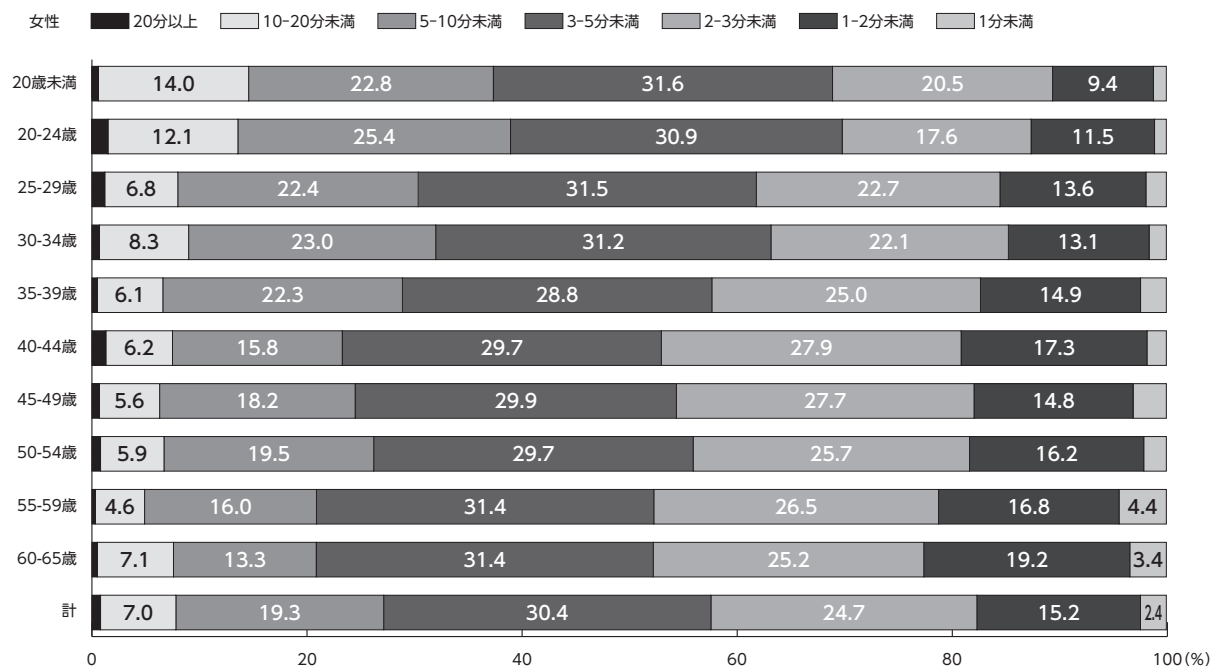


表42. 歯磨き時に使用しているもの(複数回答可) (男性)

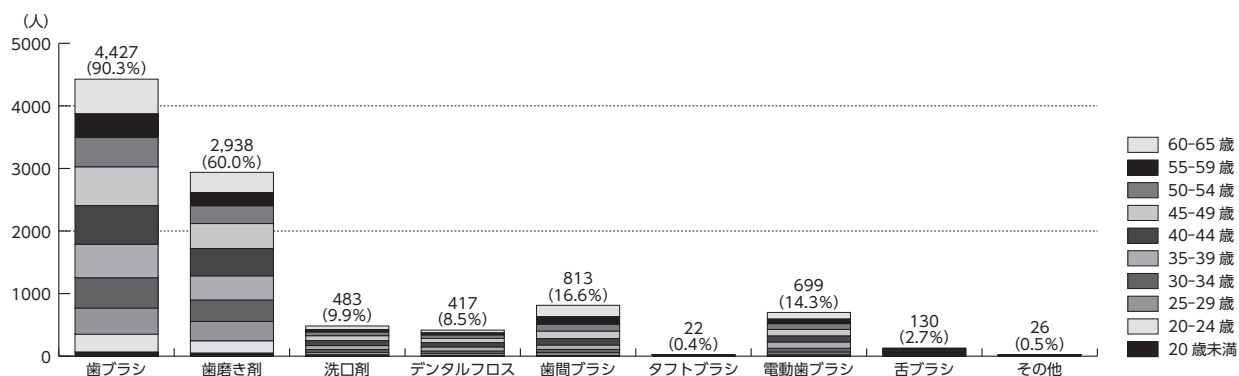
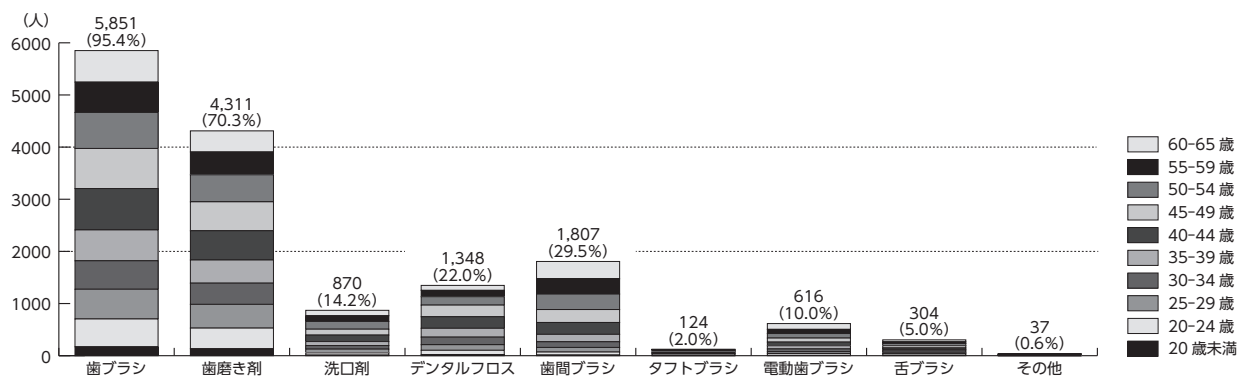


表43. 歯磨き時に使用しているもの(複数回答可) (女性)



④咀嚼やむせ(表44-47)

10食品を提示し、噛めるかどうかについて、各々回答を得た。噛めないと回答した割合の高い食品は、「古たくわん」(男性7%、女性5%)、「酢だこ」(男性6%、女性5%)、「イカの刺身」(男性6%、女性4%)であった。年齢別の比較において、噛めないと回答する割合が集団の10%を超える食品は、「古たくわん」(男性55-65歳、女性60-65歳)と「酢だこ」(男性60-65歳)であった。

お茶や汁物等でむせることが「時々むせる」あるいは「よくむせる」と回答した者の割合は、男性14%、女性11%であった。年齢と回答分布との間に一定の傾向は認められなかった。

表44. かめない食べ物(複数回答可) (男性)

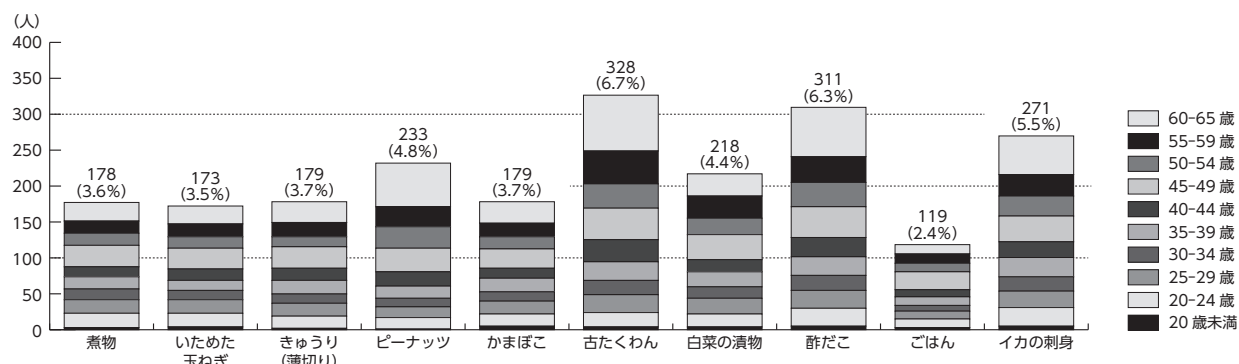


表45. かめない食べ物(複数回答可) (女性)

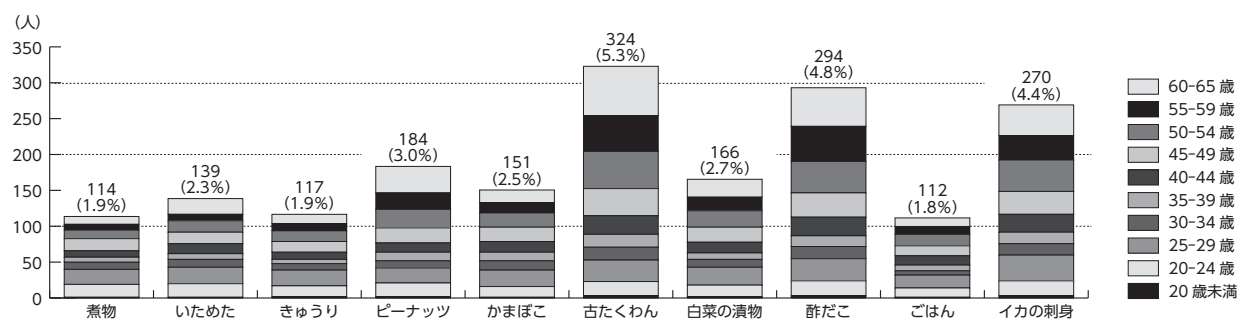


表46. お茶や汁物等でむせることがある(男性)

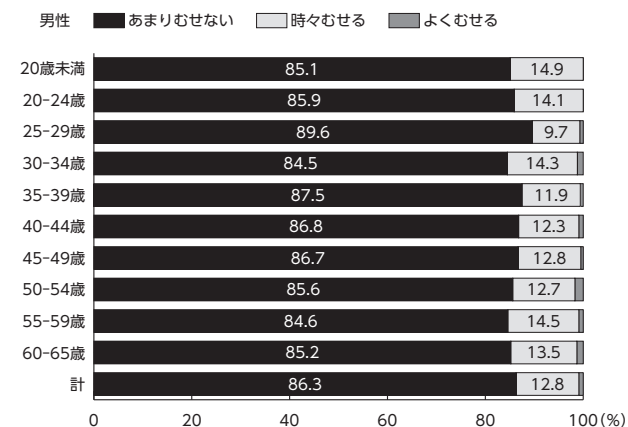
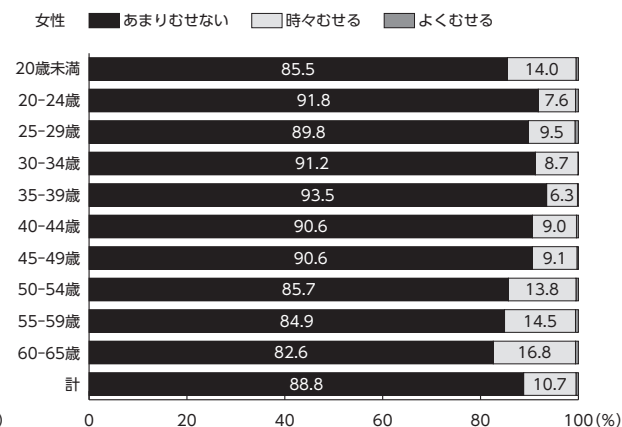


表47. お茶や汁物等でむせることがある(女性)



⑤定期歯科検診(表48-55)

定期歯科検診が必要であると回答した割合は、男性で78%、女性で91%であった。男性では「わからない」と回答する割合が全体の20%を占めていた(女性8%)。女性では、30歳未満では1割以上が「わからない」と回答する一方、30歳以降は年齢の上昇とともに「わからない」と回答する割合が減少していた。

定期歯科検診をまったく受けていないと回答した割合は、男性45%、女性29%を占めた。その一方、年1回以上受けている割合は、男性42%、女性56%であった。20-24歳(男性58%、女性46%)、25-29歳(男性58%、女性41%)に、「まったく受けていない」割合が高く認められた。

表48. 定期歯科検診の必要性(男性)

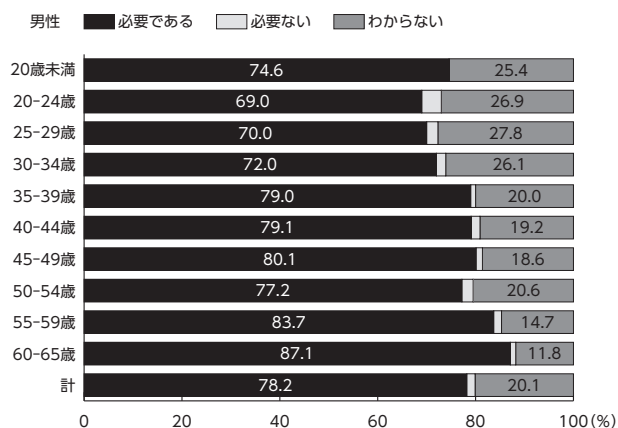


表49. 定期歯科検診の必要性(女性)

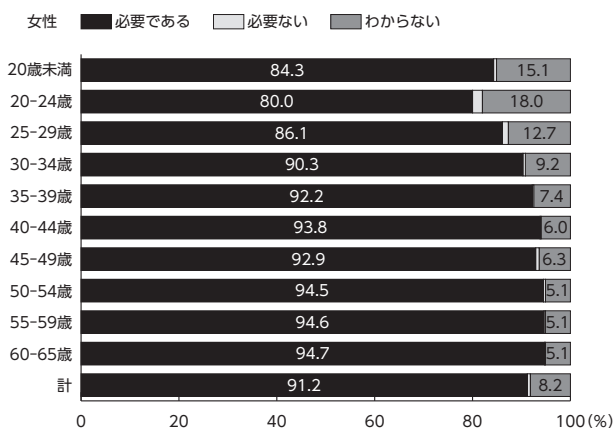


表50. 定期歯科検診の頻度(男性)

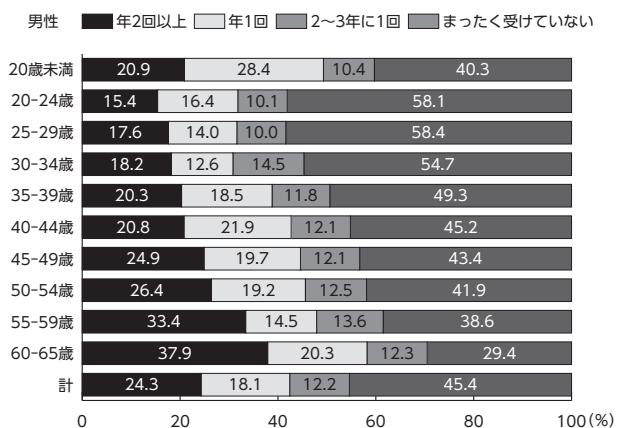
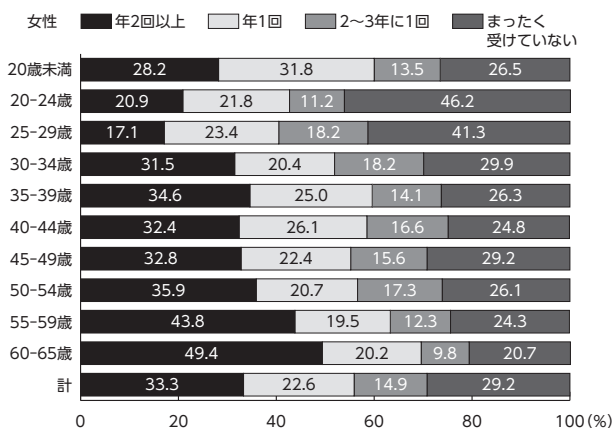


表51. 定期歯科検診の頻度(女性)



定期歯科検診受診者の男性において、受診理由はトップはむし歯予防(68%)、歯石除去(64%)、歯周病予防(46%)と続いた。受診者の女性も同様に、むし歯予防(73%)、歯石除去(69%)、歯周病予防(50%)であった。

定期歯科検診未受診者の男性において、受けない理由のトップは「忙しい・時間が取れない」(51%)、「いつ受けたらいいのかわからない」(33%)、「必要性を感じない」(14%)、「忘れていた」(13%)と続いた。未受診者の女性の理由としては、「忙しい・時間が取れない」(50%)、「いつ受けたらいいのかわからない」(33%)、「忘れていた」(17%)、「歯医者が怖い」(16%)の順であった。「必要性を感じない」と回答した未受診者の女性は7%であった。

表52. 定期歯科検診を受けている理由(複数回答可) (受けている男性のうち)

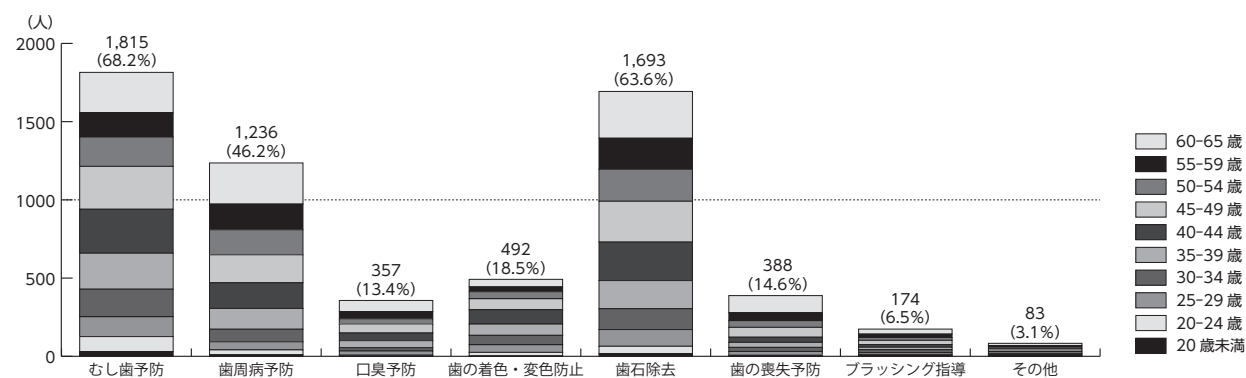


表53. 定期歯科検診を受けている理由(複数回答可) (受けている女性のうち)

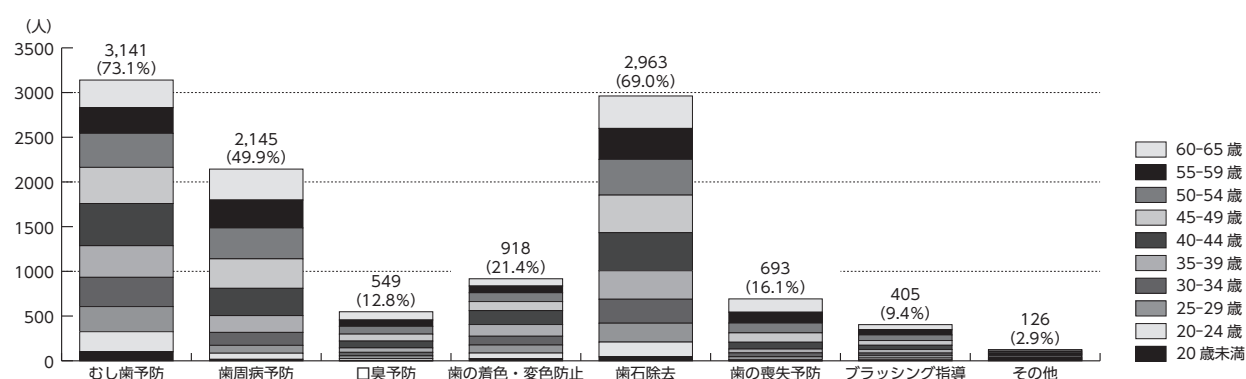


表54. 定期歯科検診を受けていない理由(複数回答可) (受けていない男性のうち)

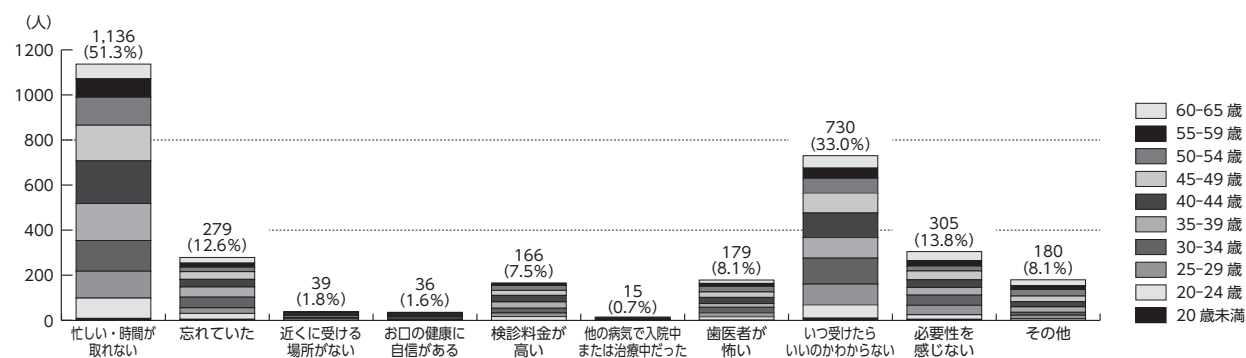
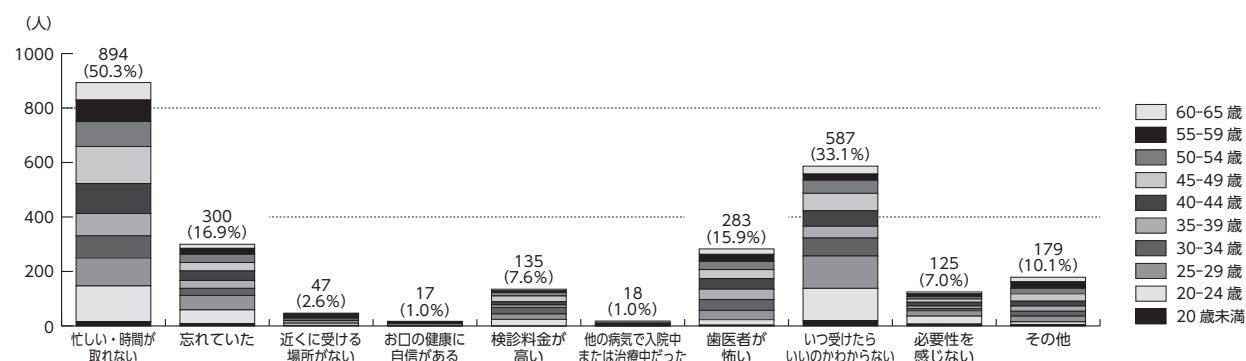


表55. 定期歯科検診を受けていない理由(複数回答可) (受けていない女性のうち)



(3)生活習慣について

①ストレス(表56、57)

ストレスを「多少感じる」あるいは「とても感じる」と回答する者の割合は、男性70%、女性76%であった。「とても感じる」者の割合は、男性では50-54歳、女性では45-49歳まで加齢とともに上昇し、その後、減少に転じていた。

表56. ストレスを感じているか(男性)

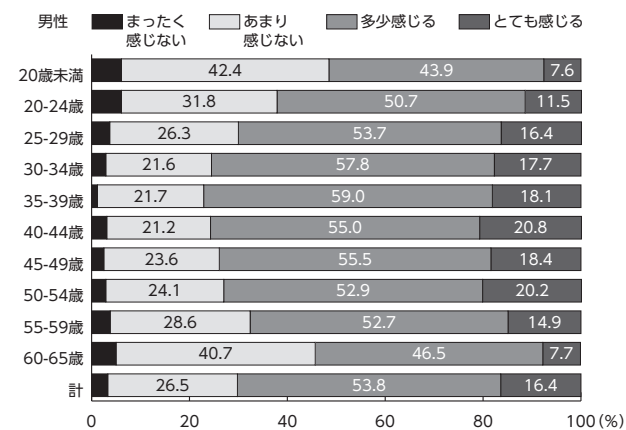
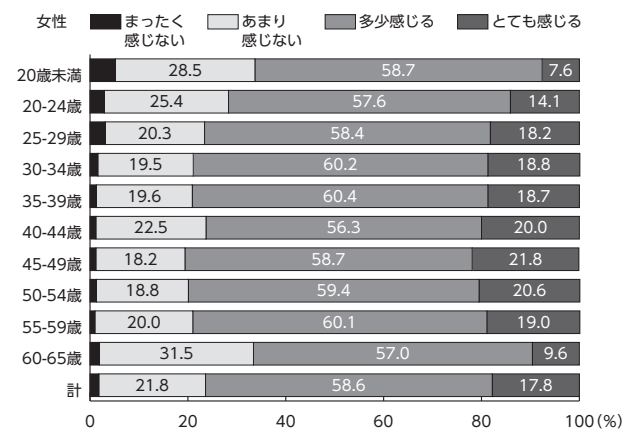


表57. ストレスを感じているか(女性)



②睡眠(表58-61)

男女ともに睡眠時間「5時間以上6時間未満」の割合が最も高かった(男性41%、女性41%)。男性では「6時間以上7時間未満」(36%)、「5時間未満」(11%)、女性では「6時間以上7時間未満」(35%)、「7時間以上8時間未満」(11%)と続いた。

睡眠にかかわる事柄でここ1か月間に週3回以上あったこととして、男性では「日中、眠気を感じた」(44%)、「睡眠時間が足りなかった」(27%)、「睡眠全体の質に満足できなかった」(24%)、女性では「日中、眠気を感じた」(46%)、「睡眠時間が足りなかった」(30%)、「睡眠全体の質に満足できなかった」(23%)の回答がより多く認められた。

表58. ここ1か月間の平均睡眠時間(男性)

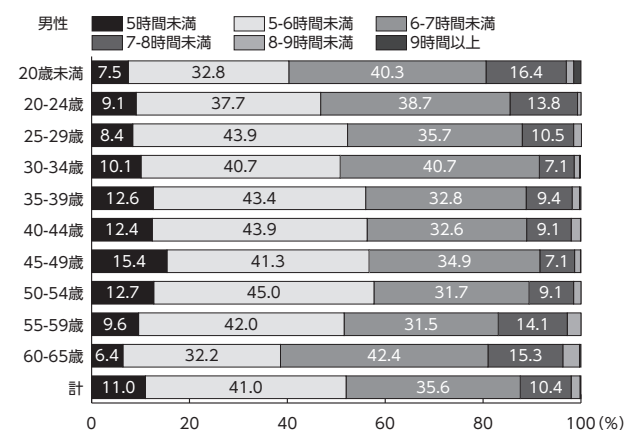


表59. ここ1か月間の平均睡眠時間(女性)

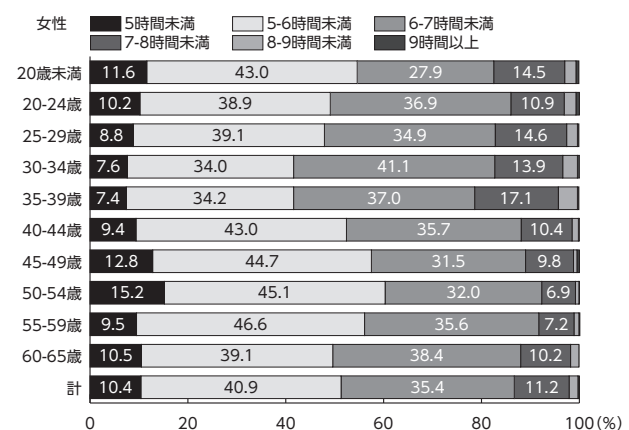


表60. ここ1か月に週3回以上あったこと(複数回答可) (男性)

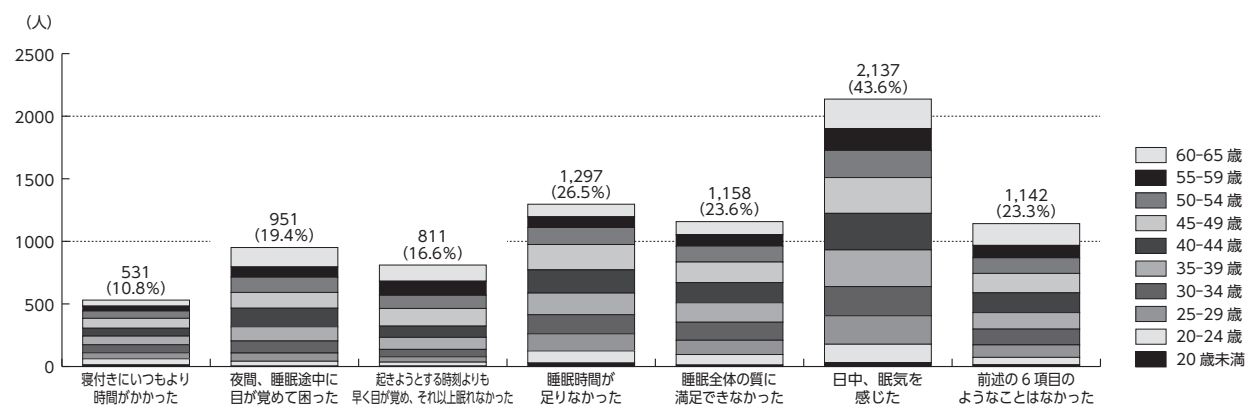
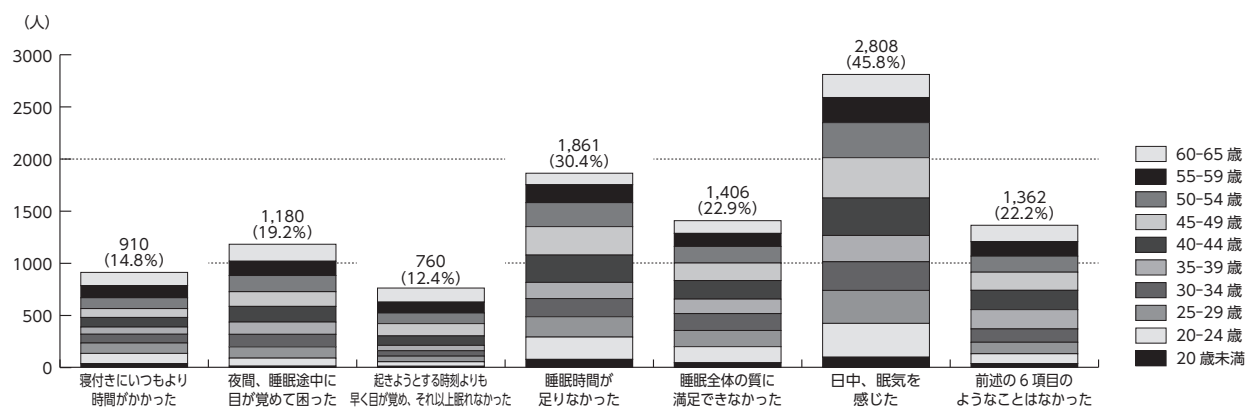


表61. ここ1か月に週3回以上あったこと(複数回答可) (女性)



③趣味(表62、63)

趣味があると回答した割合は、男性83%、女性75%であった。男性に較べて、女性において趣味を持つ者の割合が全般に低い傾向にあった。男性では、いずれの年齢層においてもほぼ80%以上の者が趣味を持っていると回答した。

表62. 趣味はあるか(男性)

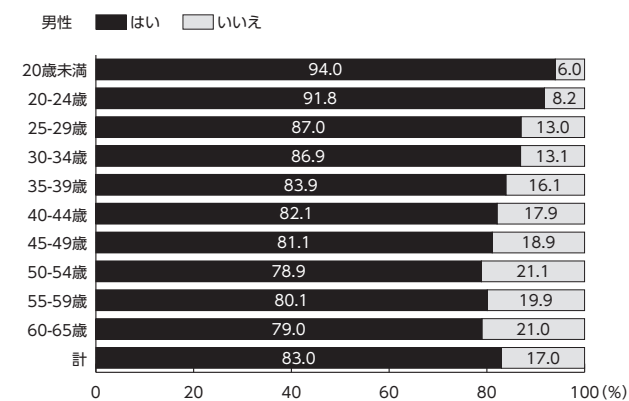
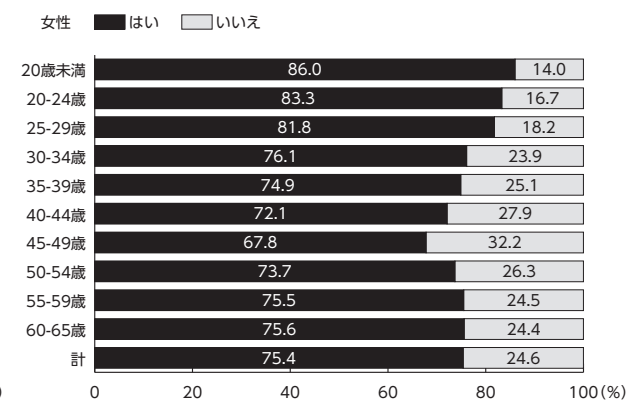


表63. 趣味はあるか(女性)



④運動習慣(表64-66)

一週間の平均運動日数±標準偏差は、男性 1.0 ± 1.7 日、女性 0.8 ± 1.5 日であった。男女ともに30代で日数が減少し、40代以降で増加に転じる傾向が認められた。

運動習慣のある者について、運動する日の平均運動時間は男性 1.5 ± 1.1 時間、女性 1.2 ± 0.9 時間であった。さらに、1年以上継続している者の割合は、男性77%、女性71%であった。

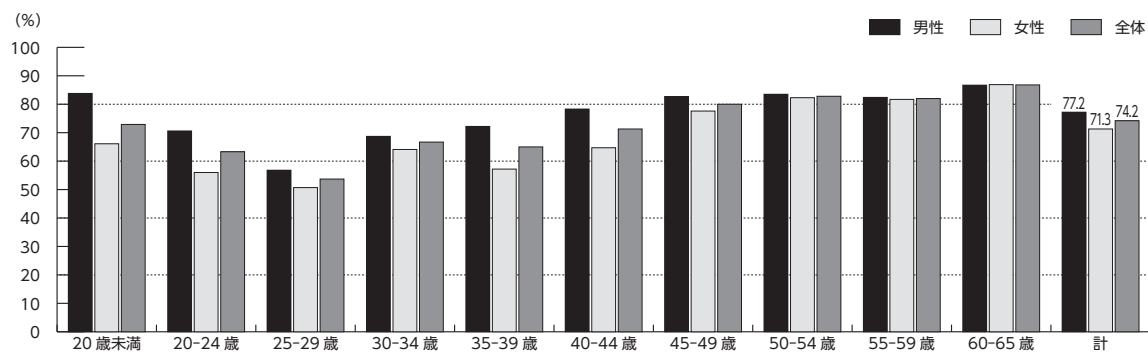
表64. 1週間の平均運動日数

	男性		女性		計	
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差
20歳未満	1.9	2.0	1.1	1.7	1.3	1.8
20-24歳	1.2	1.8	0.6	1.2	0.8	1.5
25-29歳	0.9	1.5	0.7	1.3	0.8	1.4
30-34歳	0.9	1.6	0.6	1.4	0.8	1.5
35-39歳	0.8	1.4	0.6	1.2	0.7	1.3
40-44歳	0.9	1.6	0.7	1.4	0.8	1.5
45-49歳	0.9	1.6	0.9	1.6	0.9	1.6
50-54歳	1.0	1.6	0.9	1.6	0.9	1.6
55-59歳	1.1	1.7	1.1	1.7	1.1	1.7
60-65歳	1.4	2.1	1.3	1.9	1.4	2.0
計	1.0	1.7	0.8	1.5	0.9	1.6

表65. 運動する日の平均運動時間(運動習慣ある者のみ)

	男性		女性		計	
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差
20歳未満	2.2	1.5	1.6	1.6	1.8	1.5
20-24歳	1.6	1.2	1.3	0.9	1.4	1.1
25-29歳	1.6	1.2	1.3	0.9	1.4	1.1
30-34歳	1.5	1.1	1.0	0.8	1.3	1.0
35-39歳	1.4	1.0	1.2	0.8	1.3	0.9
40-44歳	1.4	1.1	1.2	0.9	1.3	1.0
45-49歳	1.4	1.1	1.2	0.8	1.3	0.9
50-54歳	1.4	1.1	1.2	0.7	1.3	0.9
55-59歳	1.4	1.2	1.3	1.1	1.4	1.1
60-65歳	1.4	1.1	1.2	0.8	1.3	1.0
計	1.5	1.1	1.2	0.9	1.4	1.0

表66. 1年以上運動を継続している(運動習慣ある者のうち)



⑤食生活(表67-72)

朝食を「ほとんど毎日食べる」と回答した割合は、男性74%、女性84%であった。その一方、男性16%、女性8%が「ほとんど食べない」と回答した。男性は30歳、女性は25歳以降から、朝食欠食割合が低下する傾向が認められた。

間食の頻度について、男性では「月1回未満」(32%)、「週2～3回」(20%)、「週1回程度」「1日1回」(いずれも13%)の順に、回答が多く認められた。女性では、「1日1回」(30%)、「週2～3回」(18%)、「1日2回以上」(15%)の順であった。

食べる速度は、男性では「やや早い」(40%)、「普通」(33%)、「かなり早い」(16%)の順に、回答が多く認められた。女性では、「普通」(43%)、「やや早い」(32%)、「やや遅い」(14%)の順であった。

表67. ふだん朝食を食べる(男性)

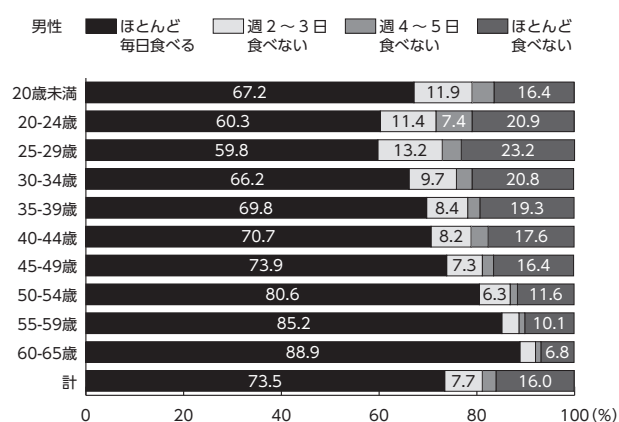


表68. ふだん朝食を食べる(女性)

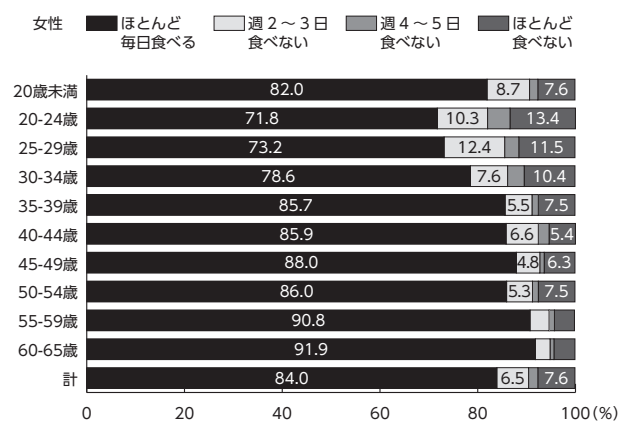


表69. 間食の頻度(男性)

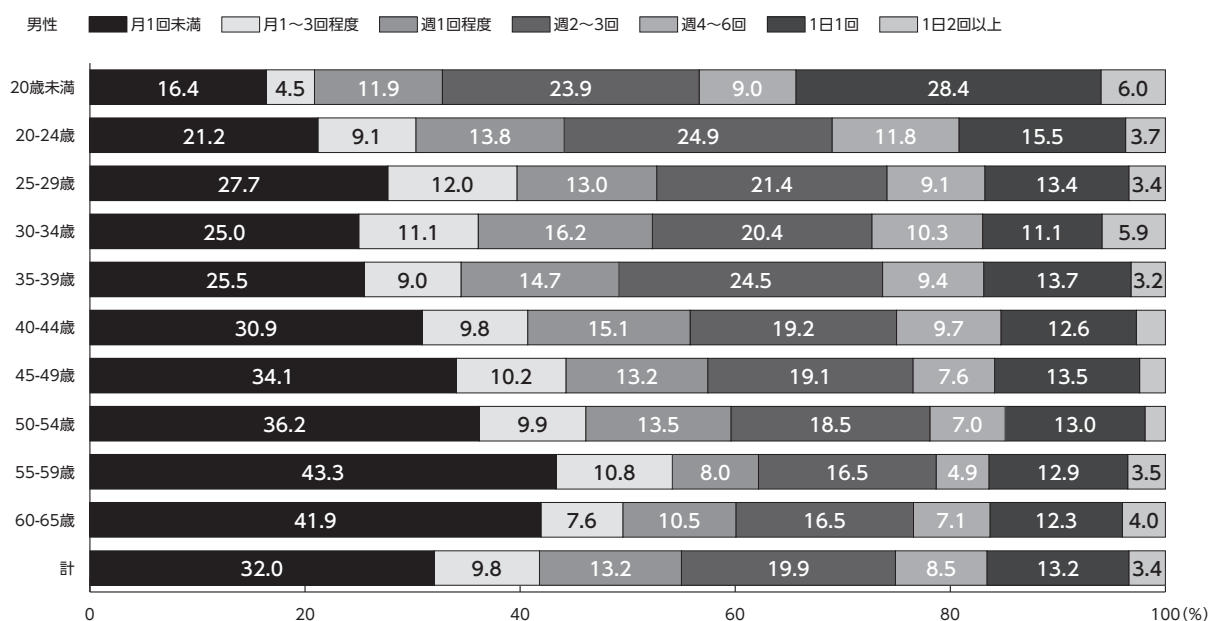


表70. 間食の頻度(女性)

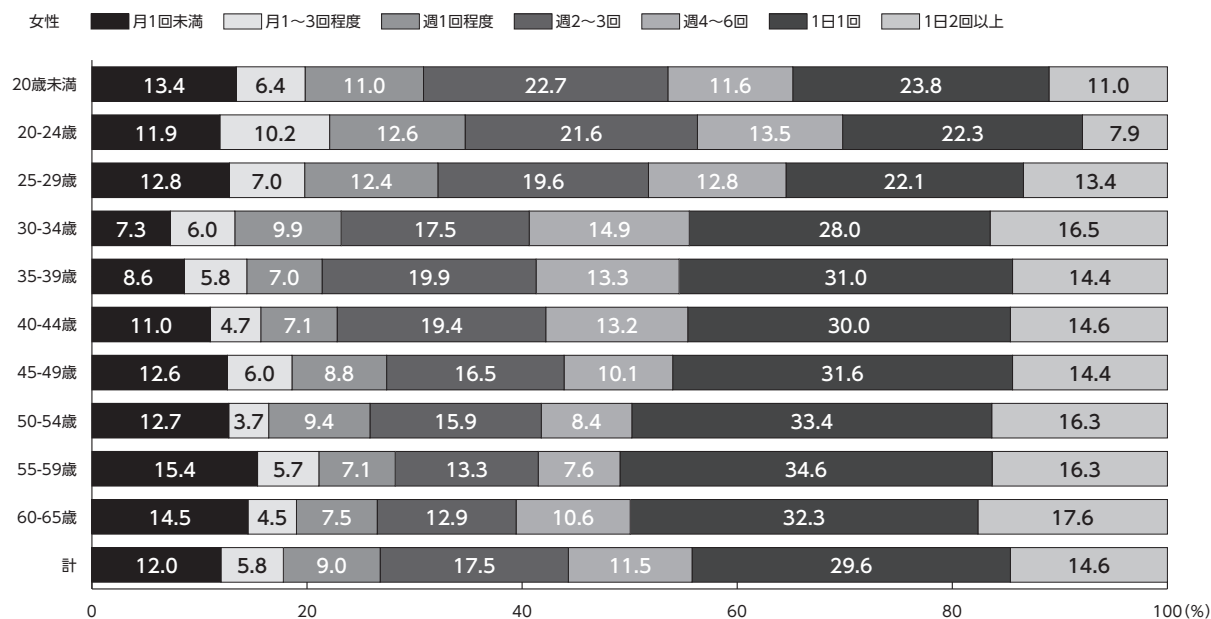


表71. 食べる速度(男性)

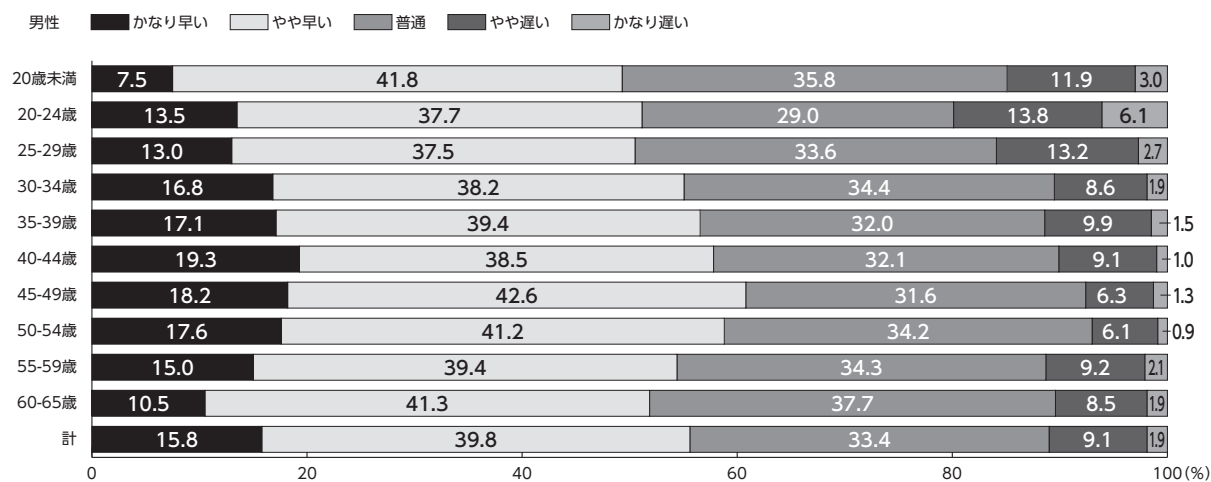
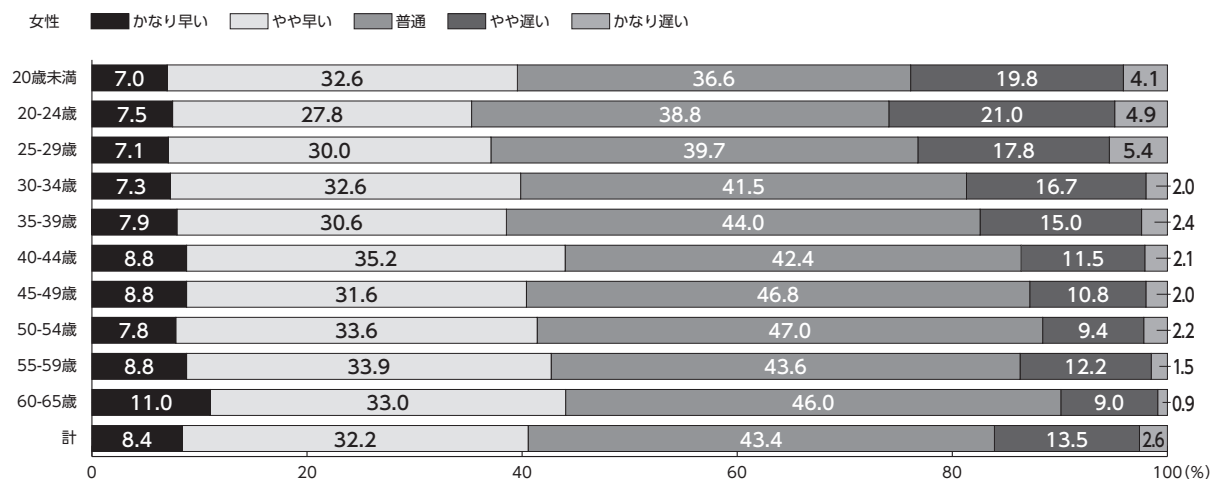


表72. 食べる速度(女性)



⑥飲酒(表73-76)

現在飲酒者の割合は、男性76%、女性59%であった。非飲酒者の割合は、男性22%、女性39%であった。「毎日飲む」あるいは「週5～6日飲む」と回答した者の割合は、男性では全体の21%および8%、女性では全体の7%および4%を占めた。

現在飲酒者の1日当たりの飲酒量は、男性で「1合以上2合未満」(34%)、「1合未満」(28%)、「2合以上3合未満」(22%)、女性で「1合未満」(46%)、1合以上2合未満(33%)、「2合以上3合未満」(14%)の順であった。

表73. 飲酒習慣(男性)

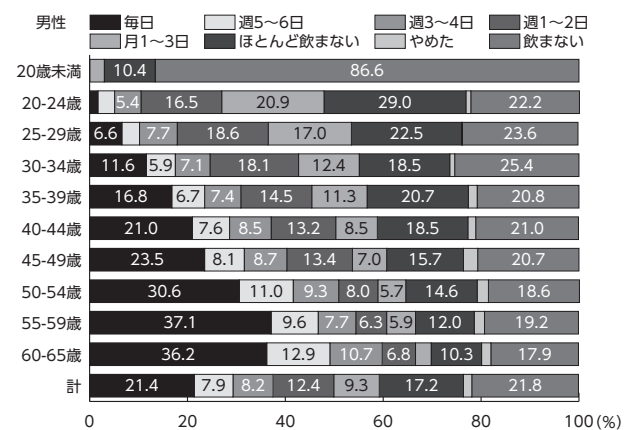


表74. 飲酒習慣(女性)

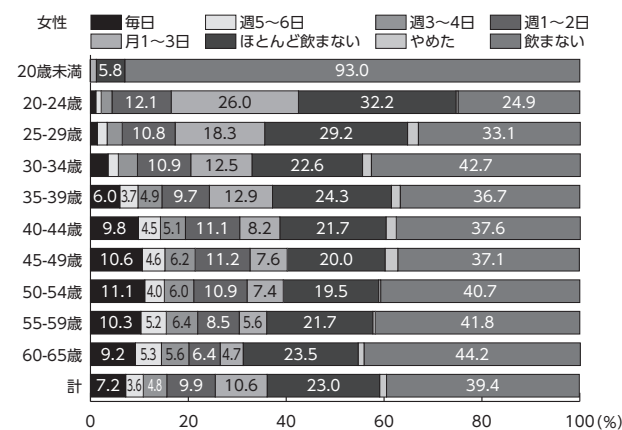


表75. 現在飲酒者の飲酒量(1日あたり)(男性)

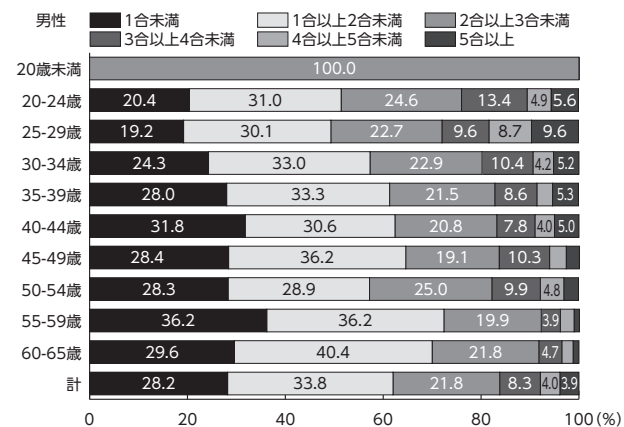
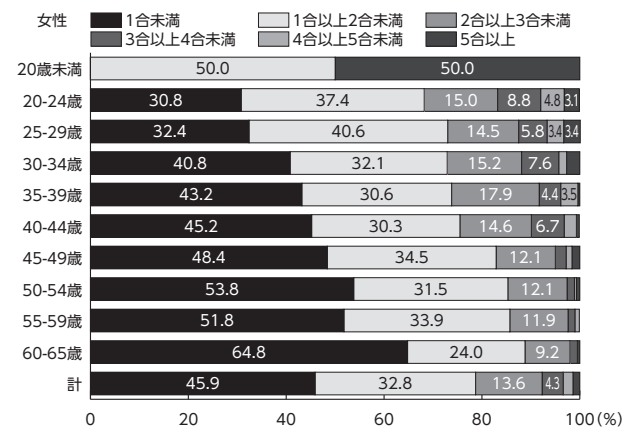


表76. 現在飲酒者の飲酒量(1日あたり)(女性)



⑦喫煙(表77-81)

たばこを習慣的に吸ったことがあると回答した割合は、男性62%、女性21%であった。男性は、年齢の上昇とともに喫煙経験を持つ者の割合が増加した。女性は35-39歳をピークに、喫煙経験を持つ者の割合が低下した。

喫煙経験のある者のうち、毎日吸う者は男性50%、女性35%、この1か月間吸っていない者は男性45%、女性57%を占めた。現在喫煙者の平均喫煙年数は、男性で22±11年、女性で19±10年であった。現在喫煙者の平均喫煙本数は、男性17±8本、女性12±7本であった。

表77. たばこを習慣的に吸ったことがある

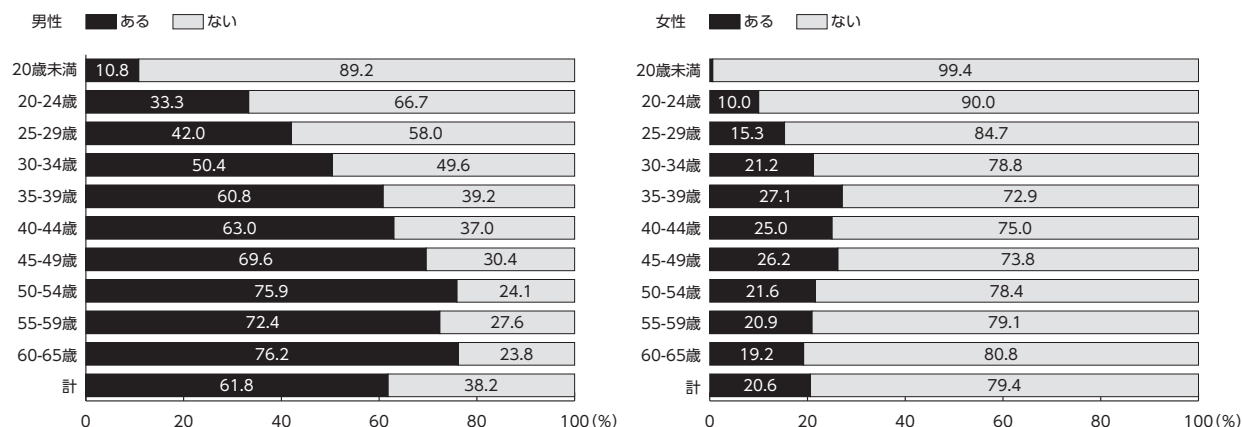


表78. 喫煙の頻度(吸ったことがある者のみ) (男性)

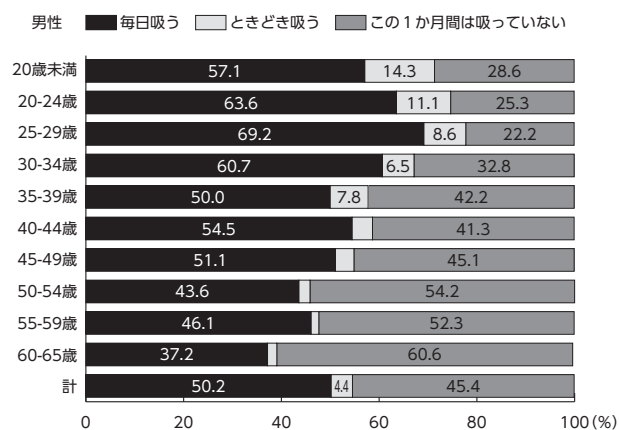


表79. 喫煙の頻度(吸ったことがある者のみ) (女性)

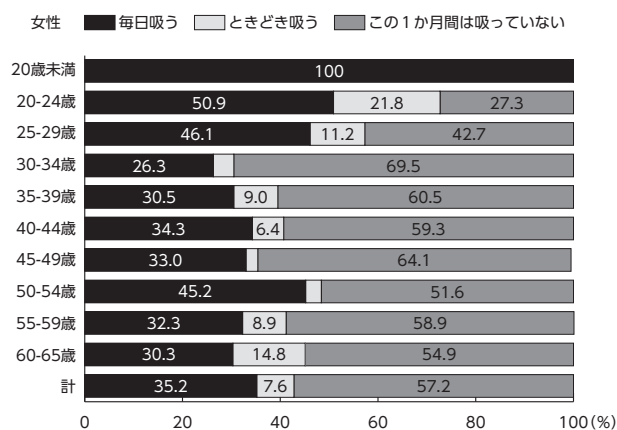


表80. 現在喫煙者の平均喫煙年数

	男性		女性		計	
	年数	標準偏差	年数	標準偏差	年数	標準偏差
20歳未満	2.5	1.9	2.0	—	2.4	1.7
20-24歳	3.1	2.1	3.7	2.8	3.3	2.4
25-29歳	7.6	3.1	7.2	2.5	7.5	3.0
30-34歳	11.9	3.3	11.8	2.9	11.9	3.3
35-39歳	16.8	4.1	14.9	5.6	16.3	4.5
40-44歳	20.4	5.3	19.5	4.2	20.2	5.1
45-49歳	25.6	5.0	21.5	6.8	24.7	5.7
50-54歳	29.8	5.5	26.1	7.9	28.7	6.5
55-59歳	34.1	6.6	27.4	10.5	32.5	8.2
60-65歳	38.8	8.4	27.1	11.1	36.0	10.4
計	22.3	11.4	18.8	10.3	21.4	11.3

表81. 現在喫煙者の平均喫煙本数

	男性		女性		計	
	本数	標準偏差	本数	標準偏差	本数	標準偏差
20歳未満	16.3	2.5	20.0	—	17.0	2.7
20-24歳	10.9	7.0	8.7	6.0	10.1	6.7
25-29歳	13.2	6.7	10.5	5.0	12.5	6.4
30-34歳	14.6	6.5	11.3	6.1	14.0	6.6
35-39歳	15.0	7.8	11.0	6.1	14.1	7.6
40-44歳	17.3	9.0	12.8	7.7	16.3	8.9
45-49歳	18.4	8.4	12.9	6.5	17.2	8.3
50-54歳	18.6	9.0	12.9	5.7	17.0	8.6
55-59歳	18.5	8.1	10.3	5.4	16.5	8.3
60-65歳	18.9	8.5	12.4	8.9	17.4	9.0
計	16.7	8.4	11.7	6.6	15.5	8.3

⑧BMI(表82)

自己申告の体重と身長を用いてBMIを算出した。肥満(BMI25以上)および低体重(BMI18.5以下)の者の割合は、男性28%および5%、女性12%および16%であった。男性は45-49歳(36%)、女性は60-65歳(18%)に、肥満の割合が最も高く認められた。

表82-1. BMI 3カテゴリの性年齢別分布(男性)

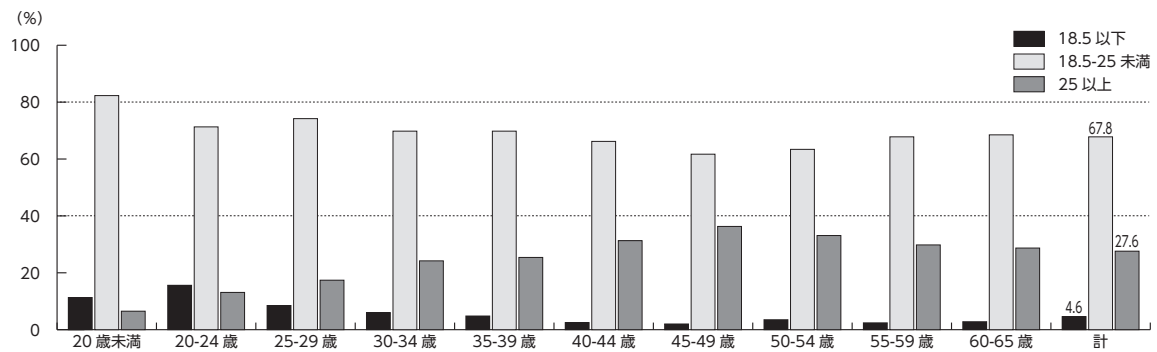


表82-2. BMI 3カテゴリの性年齢別分布(女性)

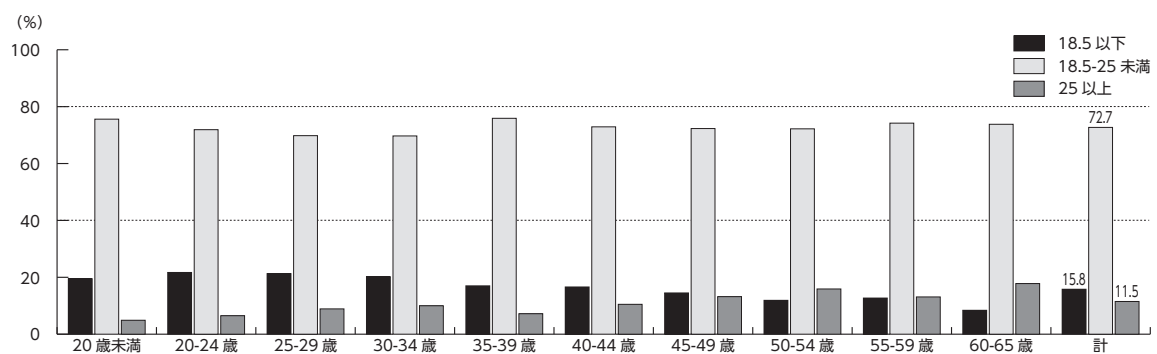
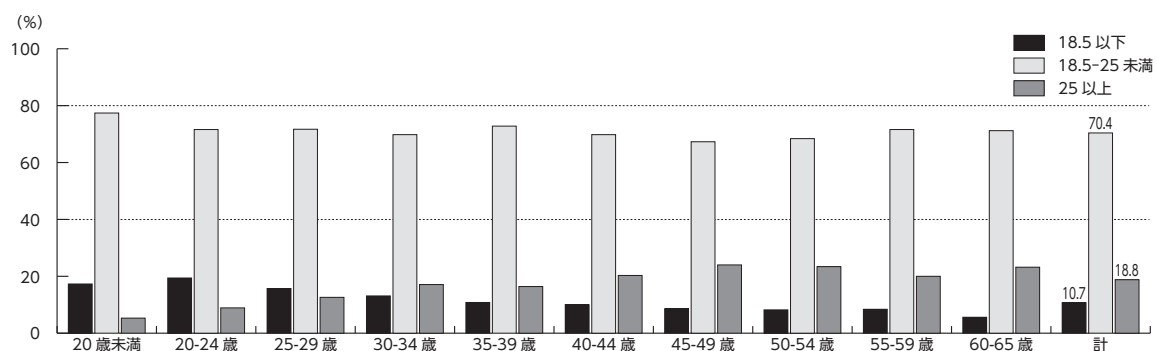


表82-3. BMI 3カテゴリの性年齢別分布(全体)



(4)健康づくりについて

①健康づくりへの意識・支出(表83-90)

以降の項目については、保険証(本人あるいは家族)別を含めた解析を行った。健康づくりへの意識に関して、保険証本人の男性では「かなり意識している」8%、「まあまあ意識している」45%と、両者で50%を超えていた。保険証本人の女性は「かなり意識している」7%、「まあまあ意識している」50%で、両者合わせて男性よりやや高い値を示した。家族の男性は「かなり意識している」13%、「まあまあ意識している」43%、家族の女性は、「かなり意識している」7%、「まあまあ意識している」52%であり、全般に女性により高い値が示された。

健康づくりのために支出してもよい金額(月額)について、保険証本人の男性(48%)、保険証本人の女性(55%)、家族男性(47%)、家族女性(56%)のいずれも「1,000円以上～5,000円未満」の回答が最も多かった。続いて、保険証本人の男性(23%)、保険証本人の女性(20%)、家族男性(17%)は「5,000円以上～10,000円未満」、家族女性(56%)は「1,000円以上～5,000円未満」の回答割合が高く示された。保険証本人の男性10%、保険証本人の女性7%、家族男性13%、家族女性6%が「0円」と回答した。

表83. 健康づくりを意識しているか(男性・保険証本人)

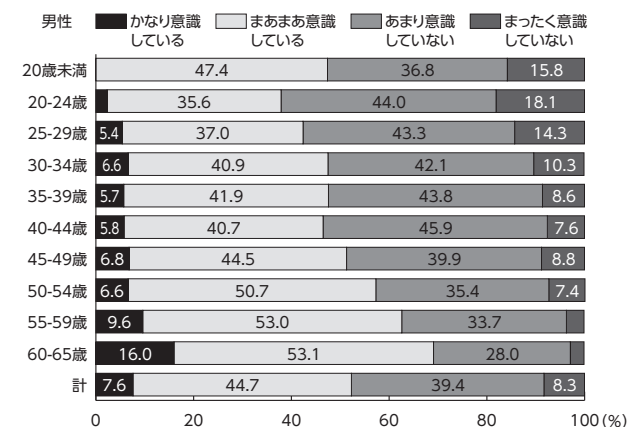


表84. 健康づくりを意識しているか(女性・保険証本人)

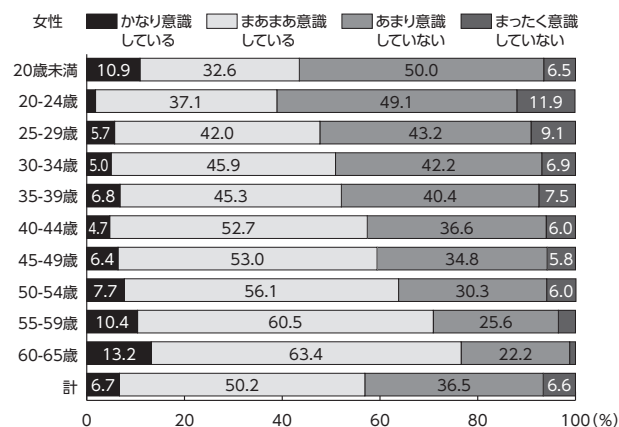


表85. 健康づくりを意識しているか(男性・家族)

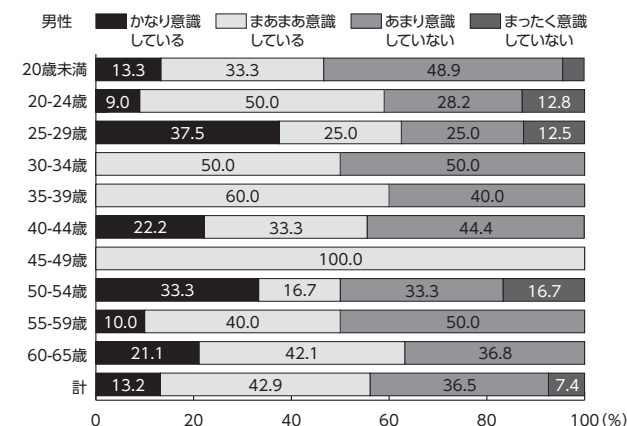


表86. 健康づくりを意識しているか(女性・家族)

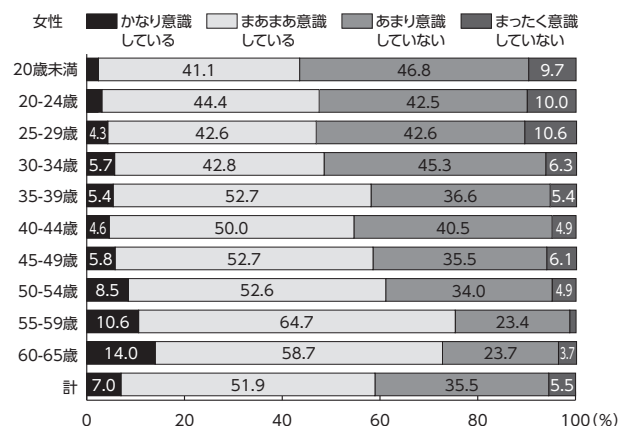


表87. 健康づくりのための支出してもよい金額(月額) (男性・保険証本人)

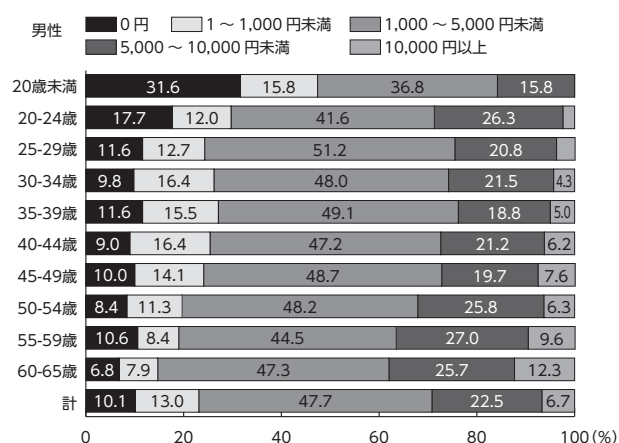


表88. 健康づくりのための支出してもよい金額(月額) (女性・保険証本人)

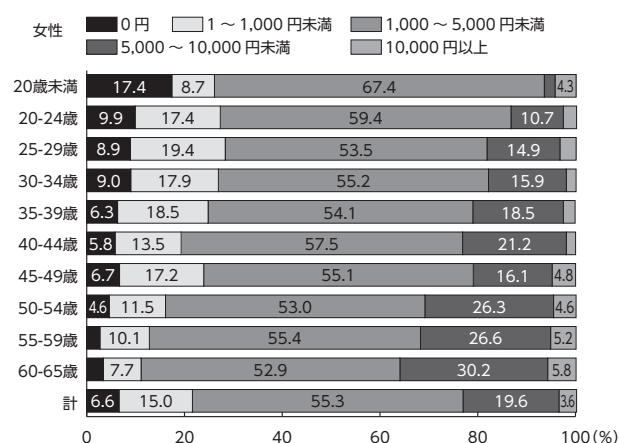


表89. 健康づくりのための支出してもよい金額(月額) (男性・家族)

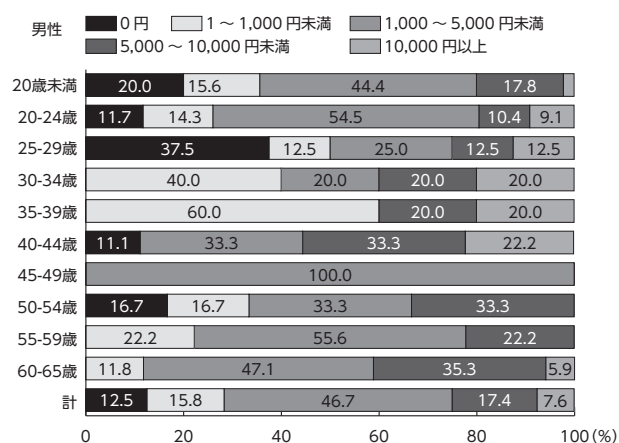
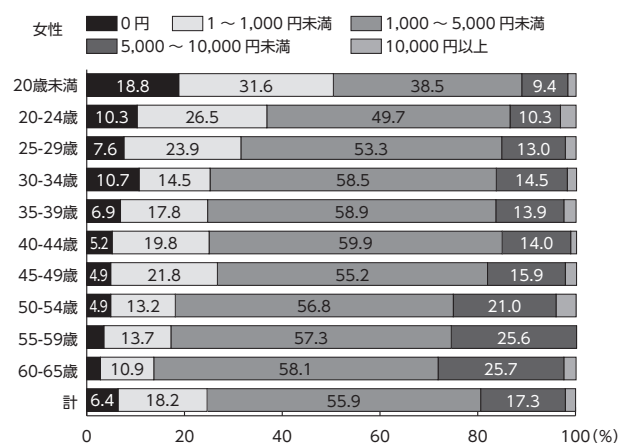


表90. 健康づくりのための支出してもよい金額(月額) (女性・家族)



②特定健診受診(表91-96)

保険証本人の男性では49%、同女性では55%が昨年受診したと回答した。男女ともに、年齢の上昇に連れて受診率が上がっていた。家族の男性では38%、同女性では43%が受診し、保険証本人と較べて低い値が示された。

昨年の受診者のみの分析において、保険証本人の男性では動機付け支援17%、積極的支援8%、同女性では動機付け支援11%、積極的支援5%であった。家族の男性で動機付け支援13%、積極的支援19%、同女性では動機付け支援14%、積極的支援6%であった。

昨年の受診者(健診結果が情報提供のみ除く)の特定保健指導状況として、保険証本人の男性では「最後まで受けた」45%、「1回も受けていない」35%、同女性では「最後まで受けた」39%、「1回も受けていない」42%であった。家族の男性で「最後まで受けた」40%、「1回も受けていない」40%、家族の女性で「最後まで受けた」38%、「1回も受けていない」45%であった。

表91. 昨年の特定健診受診(40歳以上のみ・保険証本人)

	男性		女性	
	受けた	受けていない	受けた	受けていない
40-44歳	247(37.3%)	416(62.7%)	219(46.7%)	250(53.3%)
45-49歳	299(45.2%)	363(54.8%)	241(49.8%)	243(50.2%)
50-54歳	246(47.8%)	269(52.2%)	247(53.3%)	216(46.7%)
55-59歳	242(58.7%)	170(41.3%)	238(63.5%)	137(36.5%)
60-65歳	364(61.4%)	229(38.6%)	211(63.6%)	121(36.4%)
計	1,398(49.1%)	1,447(50.9%)	1,156(54.5%)	967(45.5%)

表92. 昨年の特定健診受診(40歳以上のみ・家族)

	男性		女性	
	受けた	受けていない	受けた	受けていない
40-44歳	4(44.4%)	5(55.6%)	121(35.0%)	225(65.0%)
45-49歳	0	3(100.0%)	111(35.6%)	201(64.4%)
50-54歳	3(50.0%)	3(50.0%)	123(50.0%)	123(50.0%)
55-59歳	2(22.2%)	7(77.8%)	117(50.9%)	113(49.1%)
60-65歳	8(44.4%)	10(55.6%)	149(49.7%)	151(50.3%)
計	17(37.8%)	28(62.2%)	621(43.3%)	813(56.7%)

表93. 昨年の特定健診受診者の健診結果・保険証本人

男性	情報提供のみ	動機付け支援	積極的支援
40-44歳	192(78.4%)	30(12.2%)	23(9.4%)
45-49歳	217(74.8%)	47(16.2%)	26(9.0%)
50-54歳	183(75.0%)	46(18.9%)	15(6.1%)
55-59歳	170(71.7%)	49(20.7%)	18(7.6%)
60-65歳	262(74.6%)	64(18.2%)	25(7.1%)
計	1,024(74.9%)	236(17.3%)	107(7.8%)

女性	情報提供のみ	動機付け支援	積極的支援
40-44歳	181(86.2%)	24(11.4%)	5(2.4%)
45-49歳	201(87.8%)	17(7.4%)	11(4.8%)
50-54歳	200(85.8%)	22(9.4%)	11(4.7%)
55-59歳	185(80.8%)	32(14.0%)	12(5.2%)
60-65歳	153(76.5%)	31(15.5%)	16(8.0%)
計	920(83.6%)	126(11.4%)	55(5.0%)

表94. 昨年の特定健診受診者の健診結果・家族

男性	情報提供のみ	動機付け支援	積極的支援
40-44歳	2(50.0%)	0	2(50.0%)
45-49歳	0	0	0
50-54歳	3(100.0%)	0	0
55-59歳	2(100.0%)	0	0
60-65歳	4(57.1%)	2(28.6%)	1(14.3%)
計	11(68.8%)	2(12.5%)	3(18.8%)

女性	情報提供のみ	動機付け支援	積極的支援
40-44歳	99(83.9%)	13(11.0%)	6(5.1%)
45-49歳	91(85.0%)	14(13.1%)	2(1.9%)
50-54歳	101(84.2%)	14(11.7%)	5(4.2%)
55-59歳	88(76.5%)	20(17.4%)	7(6.1%)
60-65歳	104(73.2%)	24(16.9%)	14(9.9%)
計	483(80.2%)	85(14.1%)	34(5.6%)

表95. 昨年の特定健診受診者の特定保健指導状況・保険証本人

男性	最後まで受けた	途中でしか受けていない	1回も受けていない
40-44歳	29(56.9%)	9(17.6%)	13(25.5%)
45-49歳	24(34.8%)	15(21.7%)	30(43.5%)
50-54歳	25(41.0%)	14(23.0%)	22(36.1%)
55-59歳	32(48.5%)	10(15.2%)	24(36.4%)
60-65歳	40(44.9%)	20(22.5%)	29(32.6%)
計	150(44.6%)	68(20.2%)	118(35.1%)

女性	最後まで受けた	途中でしか受けていない	1回も受けていない
40-44歳	7(25.9%)	5(18.5%)	15(55.6%)
45-49歳	12(46.2%)	3(11.5%)	11(42.3%)
50-54歳	11(35.5%)	6(19.4%)	14(45.2%)
55-59歳	16(38.1%)	12(28.6%)	14(33.3%)
60-65歳	20(45.5%)	7(15.9%)	17(38.6%)
計	66(38.8%)	33(19.4%)	71(41.8%)

表96. 昨年の特定健診受診者の特定保健指導状況・家族

男性	最後まで 受けた	途中までしか 受けていない	1 回も 受けていない	女性	最後まで 受けた	途中までしか 受けていない	1 回も 受けていない
40-44歳	0	0	2(100.0%)	40-44歳	6(31.6%)	3(15.8%)	10(52.6%)
45-49歳	0	0	0	45-49歳	4(26.7%)	4(26.7%)	7(46.7%)
50-54歳	0	0	0	50-54歳	5(31.3%)	3(18.8%)	8(50.0%)
55-59歳	0	0	0	55-59歳	13(50.0%)	3(11.5%)	10(38.5%)
60-65歳	2(66.7%)	1(33.3%)	0	60-65歳	14(40.0%)	6(17.1%)	15(42.9%)
計	2(40.0%)	1(20.0%)	2(40.0%)	計	42(37.8%)	19(17.1%)	50(45.0%)

③健康づくりに関する環境(表97-104)

居住地の自治体における健康づくりへの取り組みについて、保険証本人の男性(58%)、保険証本人の女性(57%)、家族男性(65%)、家族女性(49%)のいずれも「わからない」の回答が最も多かった。保険証本人の男性22%、保険証本人の女性25%、家族男性17%、家族女性32%は、「積極的に取り組んでいる」あるいは「どちらかというに取り組んでいる」と回答した。

勤務先における健康づくりへの取り組みについて(保険証本人のみの分析)、保険証本人の男性(30%)、同女性(28%)のいずれも「どちらかというに取り組んでいる」の回答が最も多かった。「積極的に取り組んでいる」あるいは「どちらかというに取り組んでいる」と回答した割合は、男性39%、女性36%であった。その一方、男性17%、女性22%が「わからない」と回答した。

表97. 居住地の自治体における健康づくりへの取り組み(男性・保険証本人)

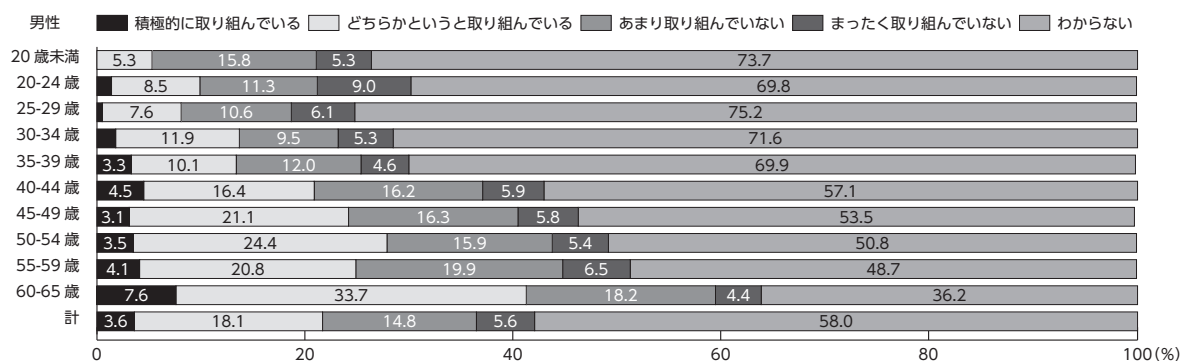


表98. 居住地の自治体における健康づくりへの取り組み(女性・保険証本人)

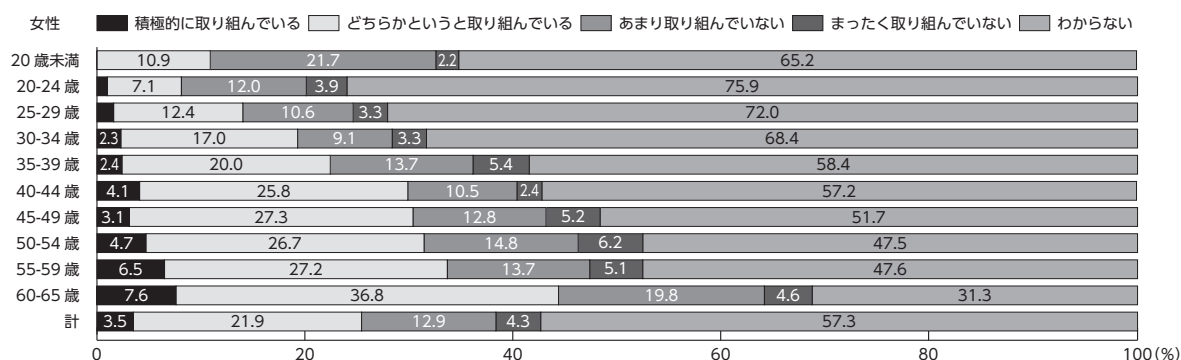


表99. 居住地の自治体における健康づくりへの取り組み(男性・家族)

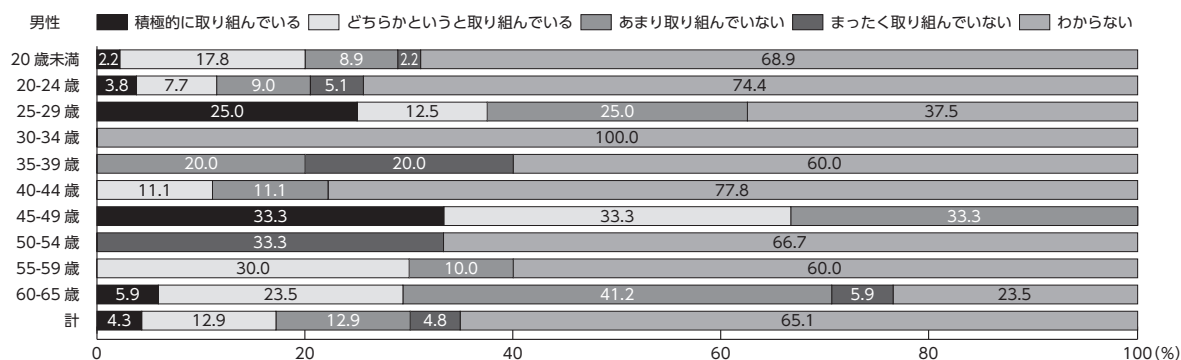


表100. 居住地の自治体における健康づくりへの取り組み(女性・家族)

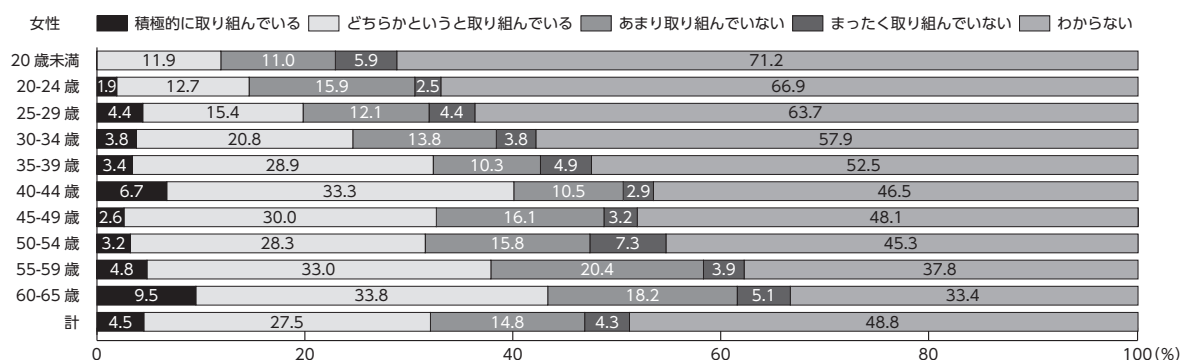


表101. 勤務先における健康づくりへの取り組み(保険証本人・男性)

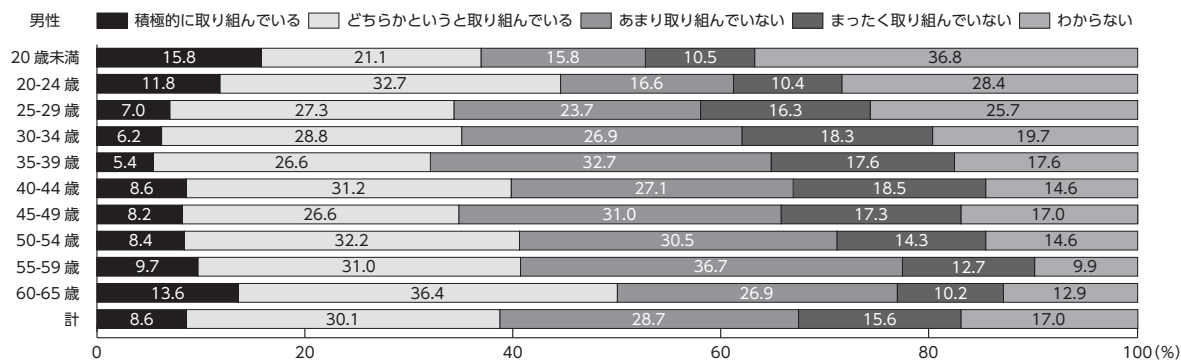
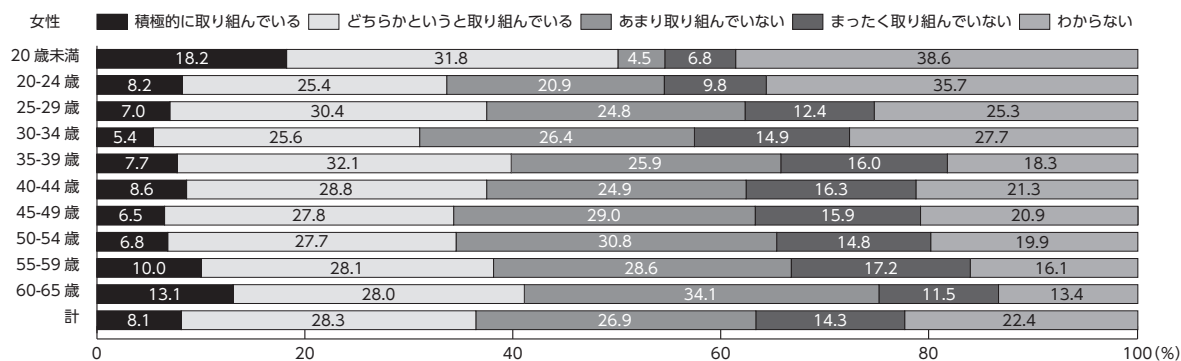


表102. 勤務先における健康づくりへの取り組み(保険証本人・女性)



参加したいと思う健康づくりの催し物や教室について、男性では筋肉トレーニング(21%)、健康体操(20%)、ウォーキング(18%)、女性ではヨガ・太極拳(38%)、健康体操(38%)、ウォーキング(19%)の回答が多かった。男性38%、女性21%は参加しないと回答した。

表103. 参加したいと思う健康づくりの催し物や教室(男性)

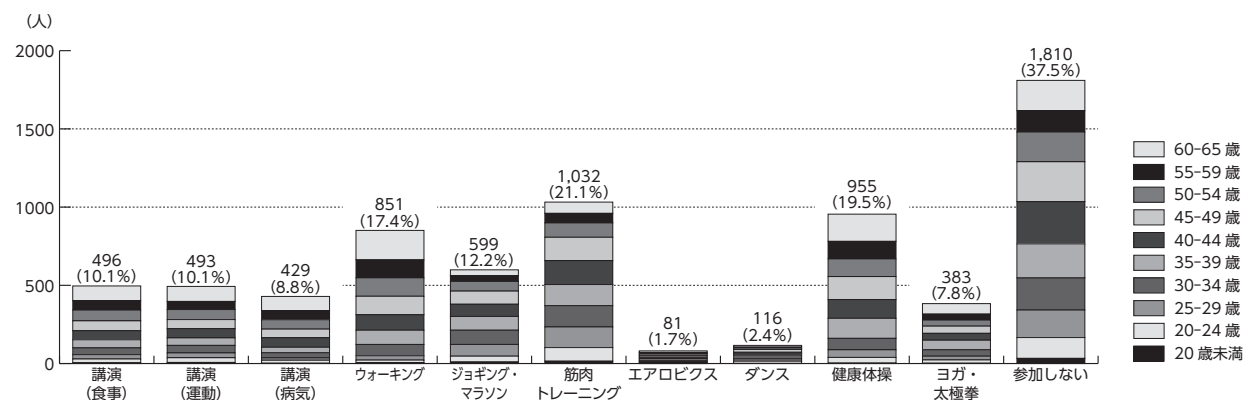
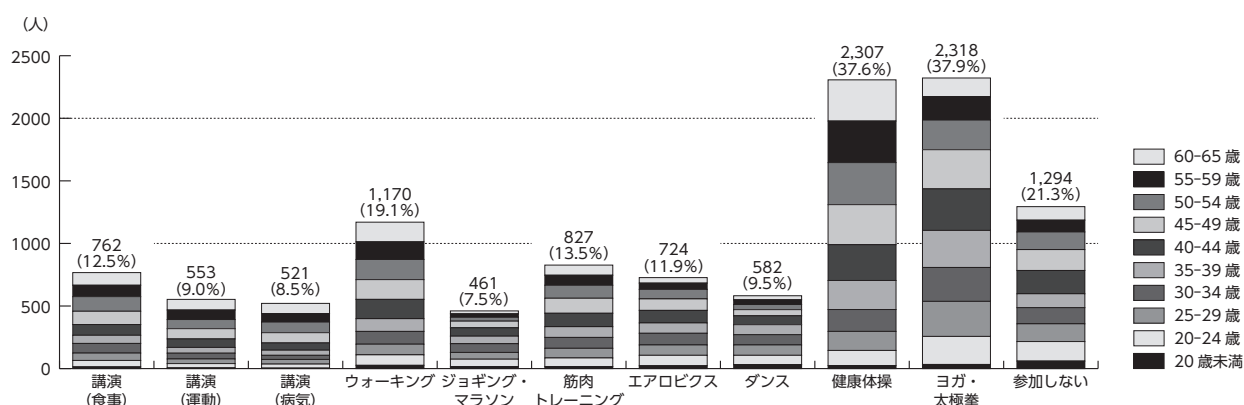


表104. 参加したいと思う健康づくりの催し物や教室(女性)



④健診受診状況(表105-108)

この1年間で受けた健診に関して、保険証本人の男性12%、保険証本人の女性11%、家族男性65%、家族女性43%が「受けていない」と回答した。保険証本人の男性(84%)、保険証本人の女性(80%)、家族男性(11%)では「会社での定期健康診断」、家族女性(25%)では「子宮がん・子宮頸がん検診」に最も高い割合が認められた。

「乳がん検診」「子宮がん・子宮頸がん検診」は、保険証本人の女性で23%および29%、家族女性で22%および25%と、他の検診に較べて高い値が示された。女性に較べて男性は全般に受診率が低く、「会社での定期健康診断」以外での検診受診は10%未満に止まった。

表105. ここ1年間で受けた健診(複数回答可) (男性・本人)

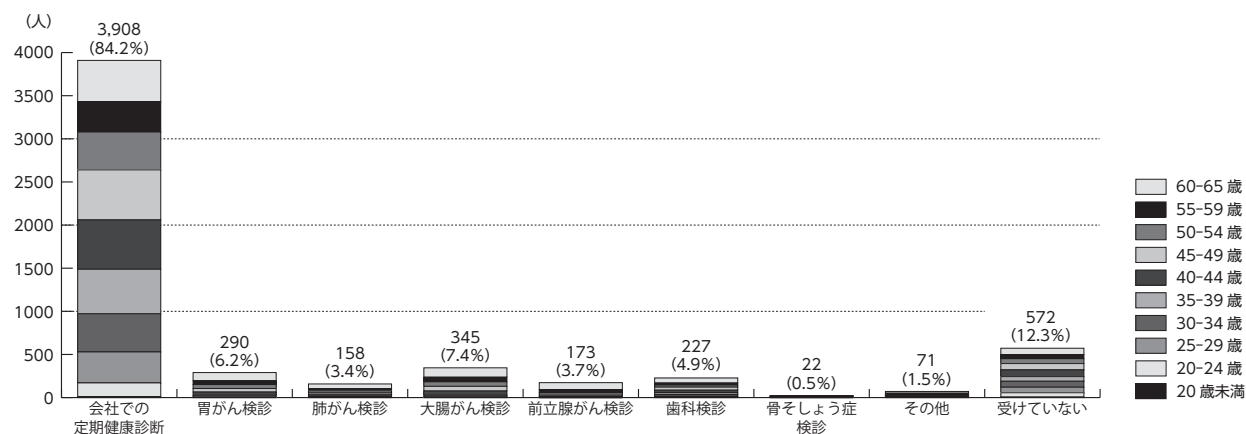


表106. ここ1年間で受けた健診(複数回答可) (男性・家族)

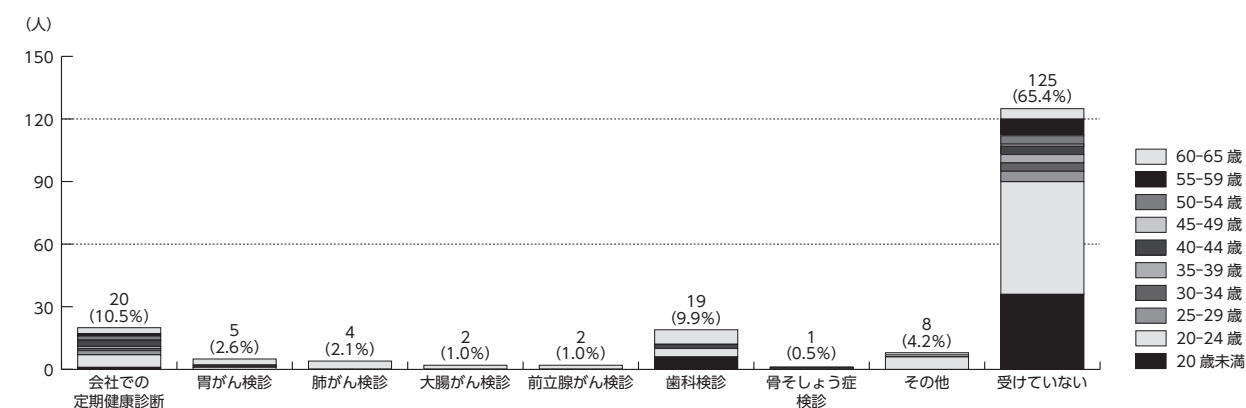


表107. ここ1年間で受けた健診(複数回答可) (女性・本人)

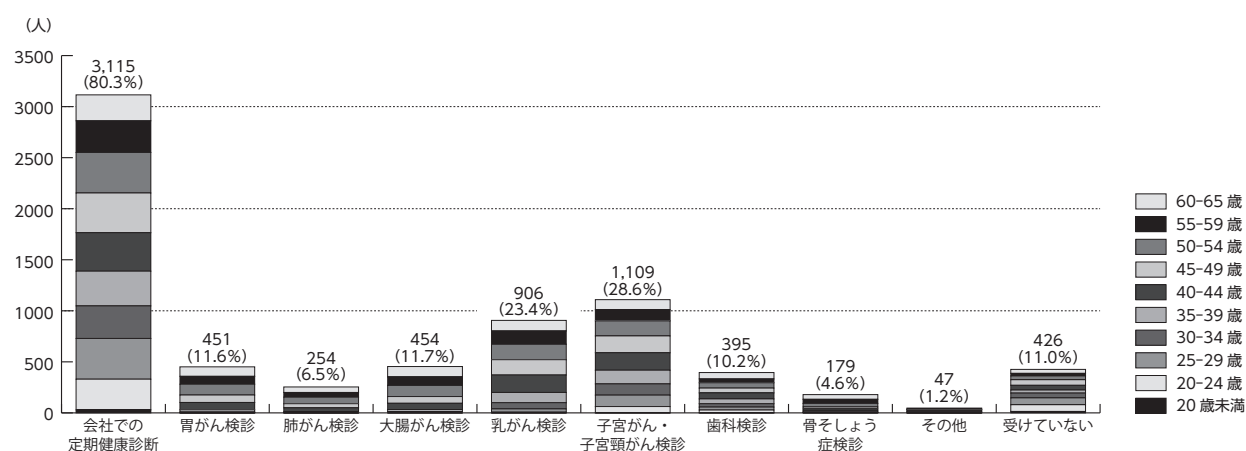
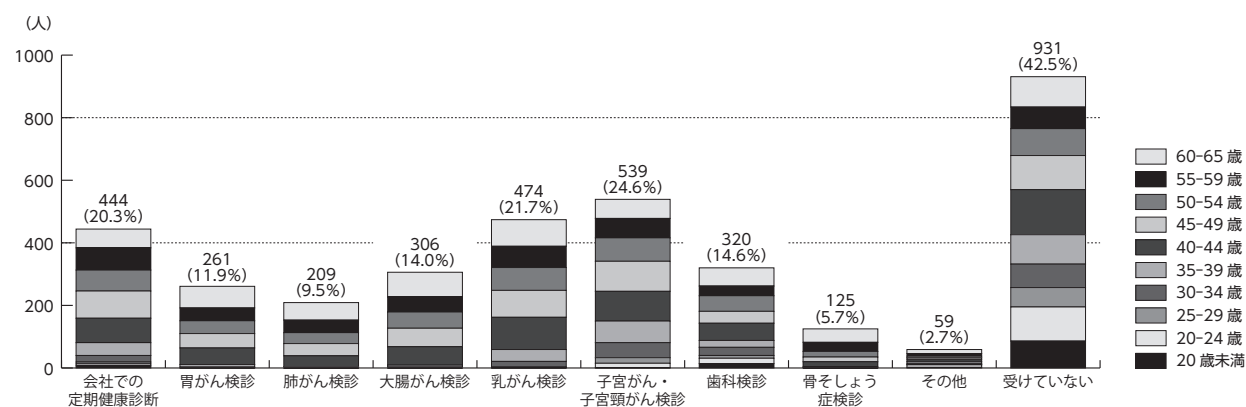


表108. ここ1年間で受けた健診(複数回答可) (女性・家族)



(5)社会経済状況について

①同居の状況(表109、110)

配偶者あるいはパートナーとの同居は男性63%、女性60%、子どもとの同居は男性47%、女性49%であった。独居は男性15%、女性8%であった。

表109. 同居の状況(男性)

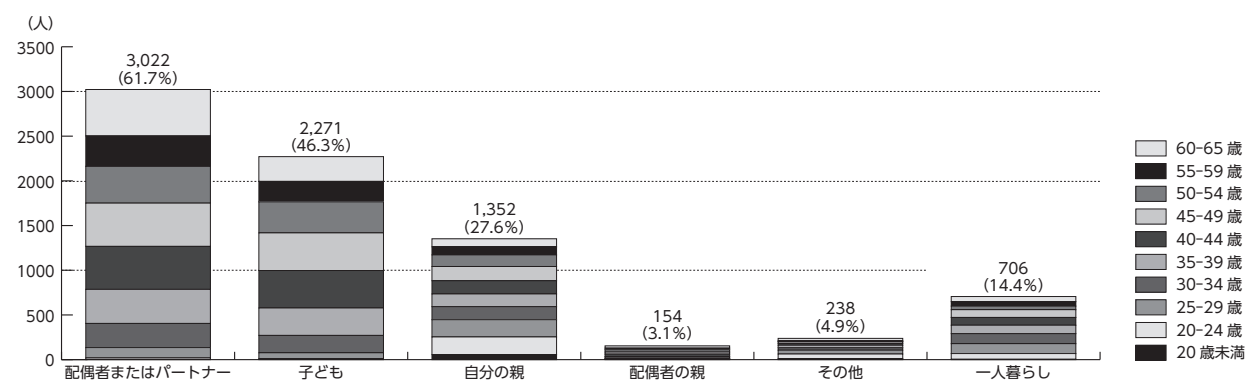
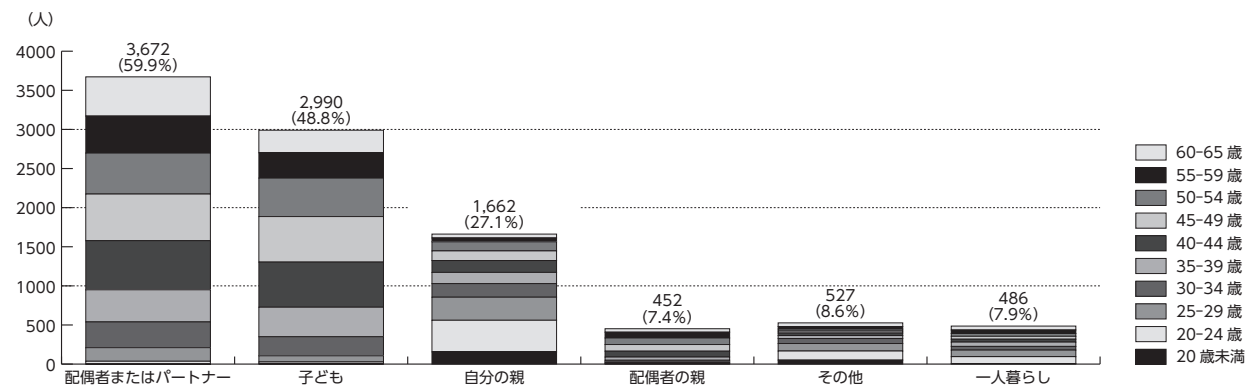


表110. 同居の状況(女性)



②最終学歴(表111、112)

男性では大学(46%)、女性では高校(34%)が最も高い割合を示した。「大学」あるいは「大学院」と回答した割合は男性50%、女性26%、「短大・高専」を含めると男性53%、女性49%であった。

表111. 最終学歴(男性)

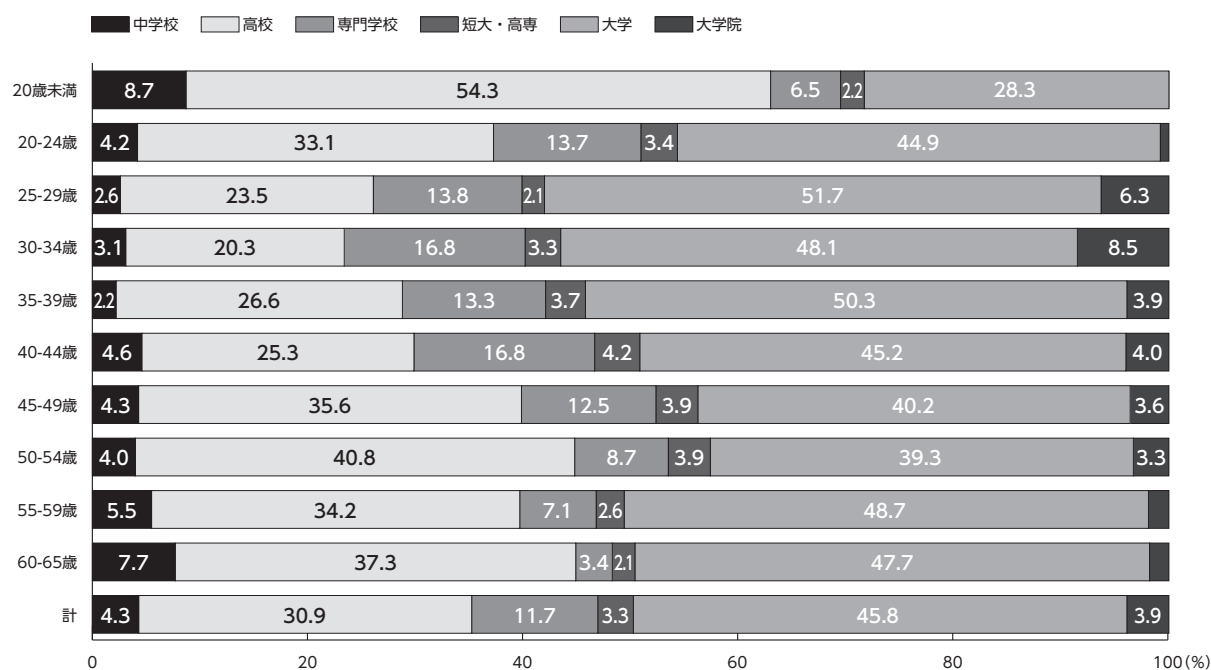
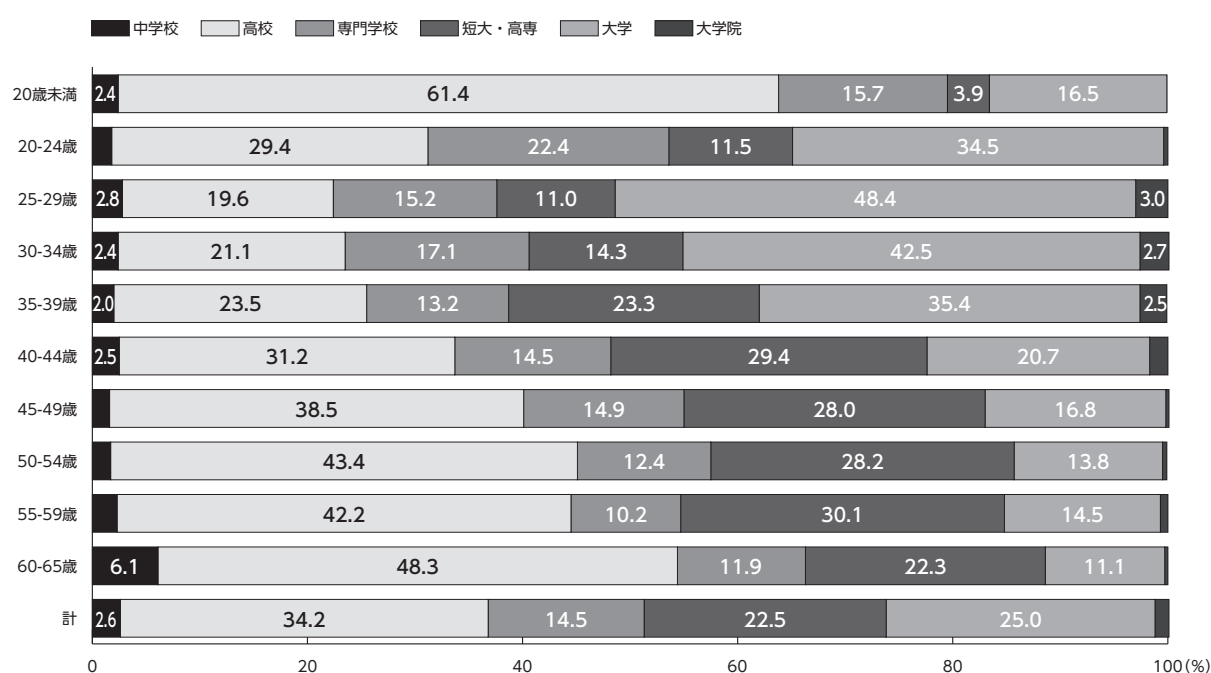


表112. 最終学歴(女性)



③雇用形態(表113、114)

正規の職員・従業員(会社などの役員含む)は、男性全体の89%、女性全体の47%を占めた。また、保険証本人は男性全体の96%、女性全体の64%であった。

表113. 雇用形態(男性)：調査対象者全体に占める割合

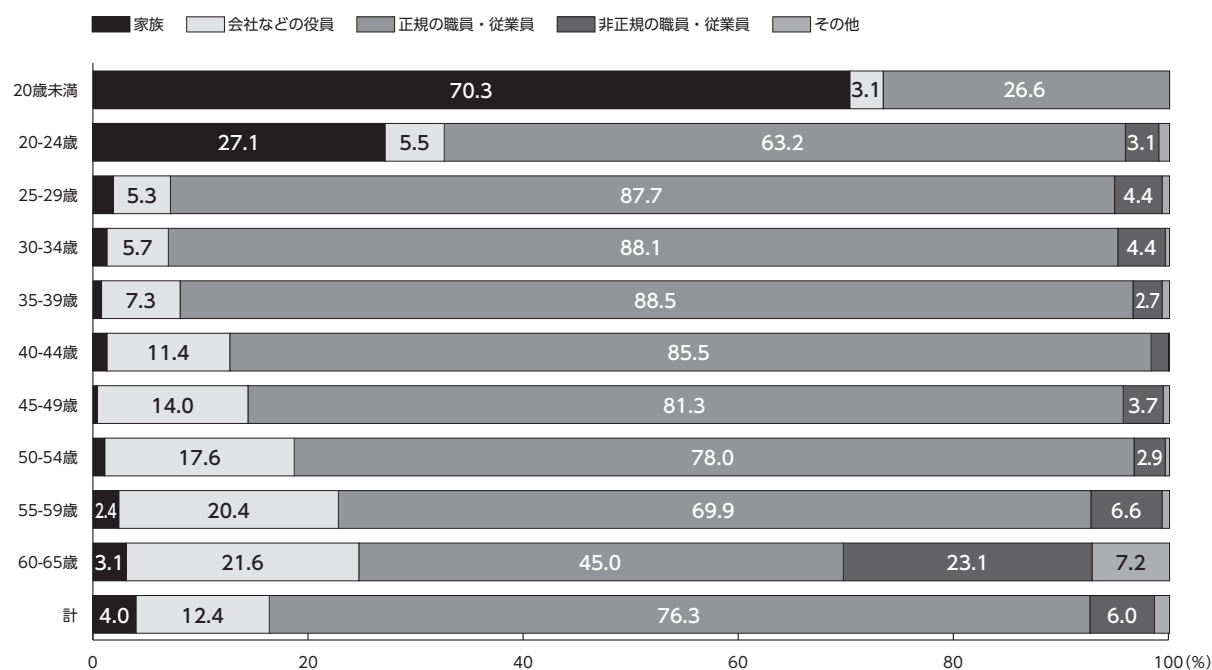
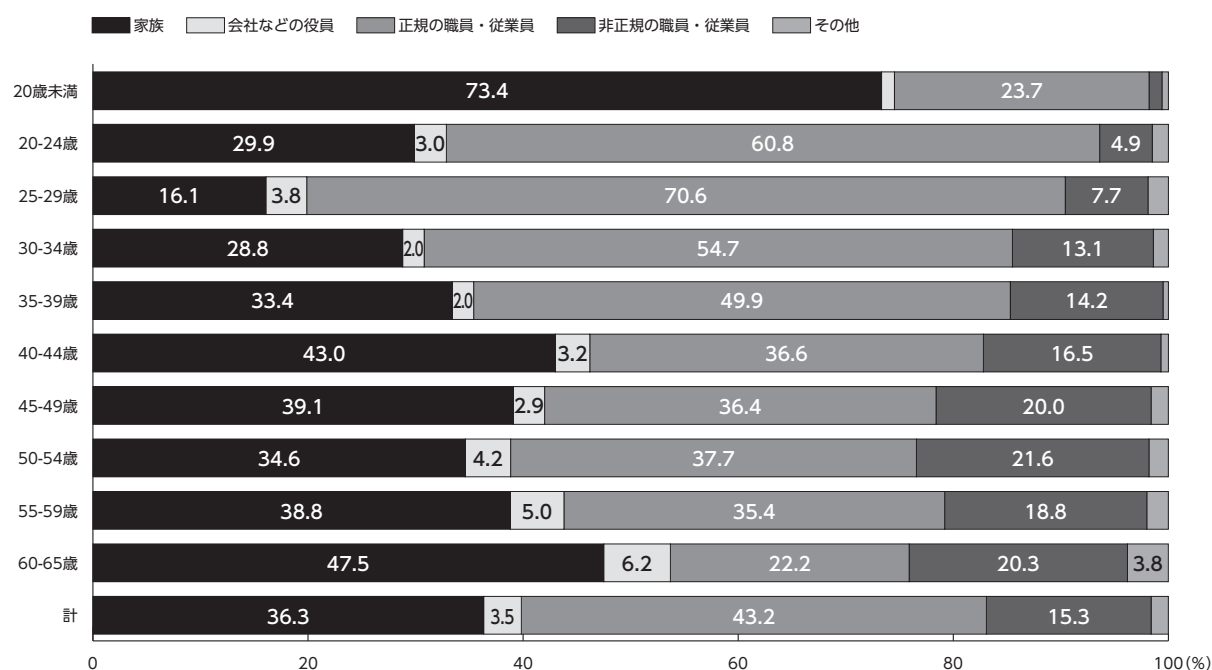


表114. 雇用形態(女性)：調査対象者全体に占める割合



④業種・職種(表115-118)

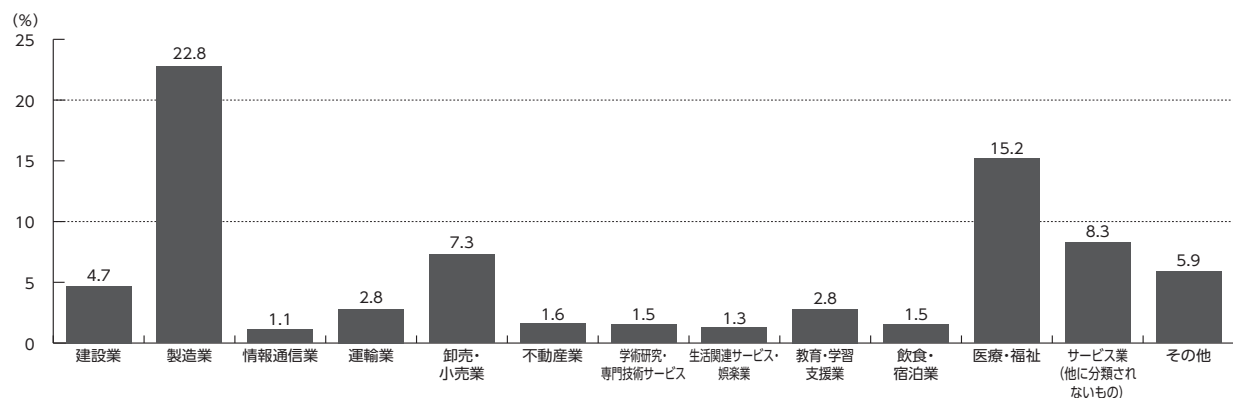
保険証本人の業種および職種に関して分析を行った。業種では製造業が最も多く、調査対象者全体のおよそ4分の1を占めた。次いで、医療・福祉、サービス業の割合が高く認められた。

表115. 業種(保険証本人)：人数

人数	建設業	製造業	情報 通信業	運輸業	卸売・ 小売業	不動産業	学術研究・ 専門技術 サービス	生活関連 サービス・ 娯楽業	教育・ 学習支援業	飲食・ 宿泊業	医療・ 福祉	サービス業 (他に分類さ れないもの)	その他
20歳未満	4	24	0	2	7	0	0	0	0	4	9	7	9
20-24歳	25	193	6	9	49	14	11	8	26	9	156	53	33
25-29歳	37	299	27	18	87	30	18	11	38	7	208	78	52
30-34歳	29	280	25	17	80	23	23	24	24	16	230	88	58
35-39歳	52	313	22	34	95	20	25	15	30	22	188	107	70
40-44歳	105	345	15	56	112	16	24	18	21	21	215	111	77
45-49歳	89	361	12	58	94	18	26	16	46	26	212	124	71
50-54歳	52	295	10	47	102	19	16	20	49	20	180	105	75
55-59歳	52	222	5	35	76	14	8	14	24	13	140	104	73
60-65歳	74	182	4	36	100	20	16	14	48	22	135	142	133
計	519	2,514	126	312	802	174	167	140	306	160	1,673	919	651

表116. 業種(保険証本人)：調査対象者全体に占める割合

%	建設業	製造業	情報 通信業	運輸業	卸売・ 小売業	不動産業	学術研究・ 専門技術 サービス	生活関連 サービス・ 娯楽業	教育・ 学習支援業	飲食・ 宿泊業	医療・ 福祉	サービス業 (他に分類さ れないもの)	その他
20歳未満	1.7	10.0	0.0	0.8	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	3.8	2.9	3.8
20-24歳	2.9	22.6	0.7	1.1	5.7	1.6	1.3	1.0	3.0	1.1	18.2	6.2	3.9
25-29歳	3.6	28.9	2.6	1.7	8.4	2.9	1.7	1.1	3.7	0.7	20.1	7.5	5.0
30-34歳	2.7	25.6	2.3	1.6	7.3	2.1	2.1	2.2	2.2	1.5	21.1	8.1	5.3
35-39歳	4.3	25.6	1.8	2.8	7.8	1.6	2.0	1.2	2.5	1.8	15.4	8.8	5.7
40-44歳	7.0	22.8	1.0	3.7	7.4	1.1	1.6	1.2	1.4	1.4	14.2	7.4	5.1
45-49歳	6.0	24.2	0.8	3.9	6.3	1.2	1.7	1.1	3.1	1.7	14.2	8.3	4.8
50-54歳	4.1	23.4	0.8	3.7	8.1	1.5	1.3	1.6	3.9	1.6	14.3	8.3	6.0
55-59歳	5.0	21.2	0.5	3.3	7.3	1.3	0.8	1.4	2.3	1.2	13.4	10.0	7.0
60-65歳	5.8	14.2	0.3	2.8	7.8	1.6	1.3	1.1	3.8	1.7	10.6	11.1	10.4
計	4.7	22.8	1.1	2.8	7.3	1.6	1.5	1.3	2.8	1.5	15.2	8.3	5.9



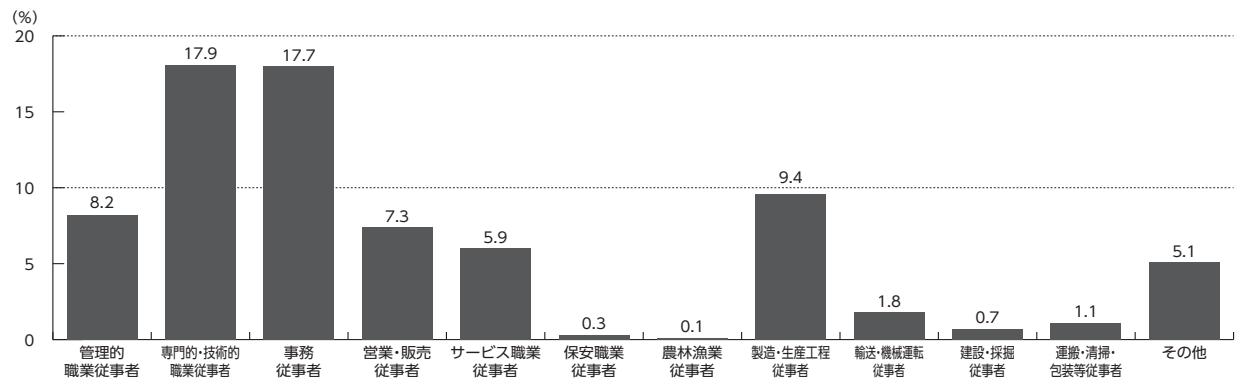
職種では、専門的・技術的職業従事者および事務従事者が最も高い割合を示した。重複回答を除き、両者のいずれかに従事している者は調査対象者全体の36%を占めた。保安職業、農林漁業、輸送・機械運転、建設・採掘、運搬・清掃・包装等の従事者は、それぞれ全体の2%未満であった。

表117. 職種(保険証本人)：人数

人数	管理的職業 従事者	専門的・技術的 職業従事者	事務従事者	営業・販売 従事者	サービス職業 従事者	保安職業 従事者	農林漁業 従事者	製造・生産 工程従事者	輸送・機械 運転従事者	建設・採掘 従事者	運搬・清掃・ 包装等従事者	その他
20歳未満	0	5	12	7	6	0	0	16	2	2	2	6
20-24歳	6	136	138	50	56	2	0	112	4	4	4	47
25-29歳	25	227	216	112	87	3	2	142	7	10	9	53
30-34歳	39	270	221	101	77	6	3	126	9	5	7	47
35-39歳	78	268	243	113	71	1	2	132	26	5	8	45
40-44歳	129	261	293	117	70	3	2	122	33	19	14	59
45-49歳	159	275	263	101	77	0	1	133	36	11	16	75
50-54歳	167	201	218	83	72	4	2	100	32	7	16	66
55-59歳	150	157	163	60	58	1	1	83	19	6	13	70
60-65歳	151	169	190	61	81	12	2	76	33	8	31	90
計	904	1,969	1,957	805	655	32	15	1,042	201	77	120	558

表118. 職種(保険証本人)：調査対象者全体に対する割合

%	管理的職業 従事者	専門的・技術的 職業従事者	事務従事者	営業・販売 従事者	サービス職業 従事者	保安職業 従事者	農林漁業 従事者	製造・生産 工程従事者	輸送・機械 運転従事者	建設・採掘 従事者	運搬・清掃・ 包装等従事者	その他
20歳未満	0.0	2.1	5.0	2.9	2.5	0.0	0.0	6.7	0.8	0.8	0.8	2.5
20-24歳	0.7	15.9	16.1	5.8	6.5	0.2	0.0	13.1	0.5	0.5	0.5	5.5
25-29歳	2.4	21.9	20.8	10.8	8.4	0.3	0.2	13.7	0.7	1.0	0.9	5.1
30-34歳	3.6	24.7	20.2	9.2	7.1	0.5	0.3	11.5	0.8	0.5	0.6	4.3
35-39歳	6.4	21.9	19.9	9.3	5.8	0.1	0.2	10.8	2.1	0.4	0.7	3.7
40-44歳	8.5	17.3	19.4	7.7	4.6	0.2	0.1	8.1	2.2	1.3	0.9	3.9
45-49歳	10.6	18.4	17.6	6.8	5.2	0.0	0.1	8.9	2.4	0.7	1.1	5.0
50-54歳	13.3	16.0	17.3	6.6	5.7	0.3	0.2	7.9	2.5	0.6	1.3	5.2
55-59歳	14.4	15.0	15.6	5.7	5.6	0.1	0.1	7.9	1.8	0.6	1.2	6.7
60-65歳	11.8	13.3	14.9	4.8	6.3	0.9	0.2	5.9	2.6	0.6	2.4	7.0
計	8.2	17.9	17.7	7.3	5.9	0.3	0.1	9.4	1.8	0.7	1.1	5.1



⑤家族の就労状況(表119、120)

保険証の家族を対象に分析を行った。男性は「学生」(63%)、女性は「パート・アルバイト」(50%)が最も高い割合を示した。女性において、「パート・アルバイト」あるいは「学生」と回答した割合は63%であった。

表119. 就労状況(保険証家族・男性)

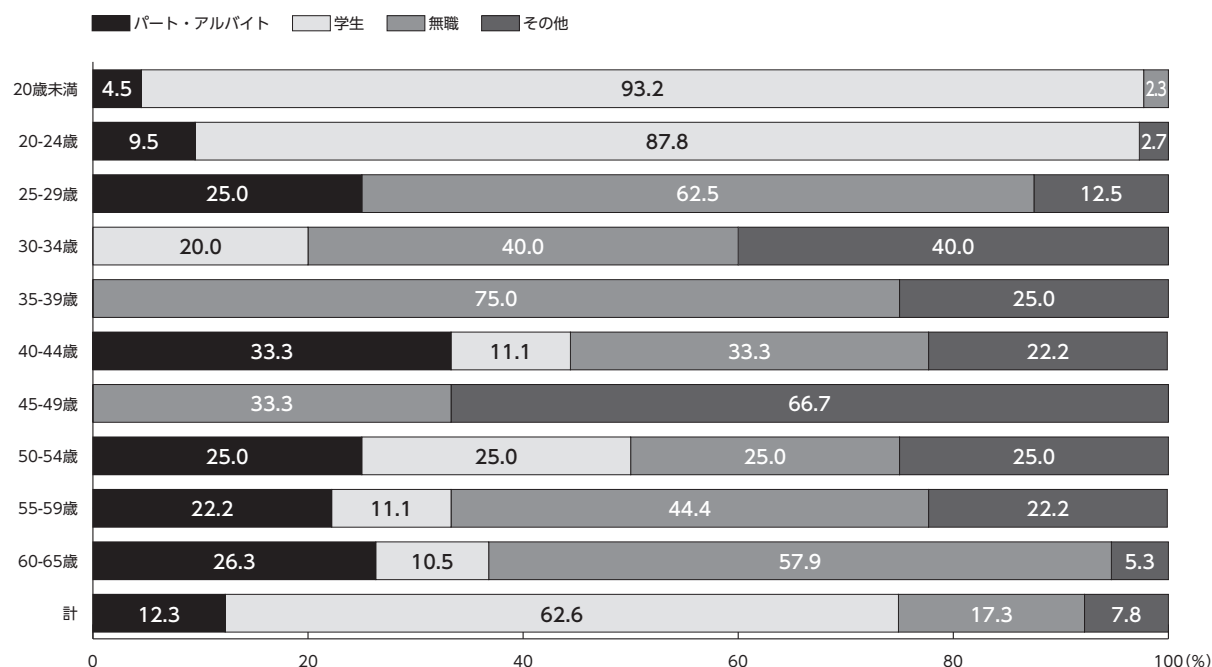
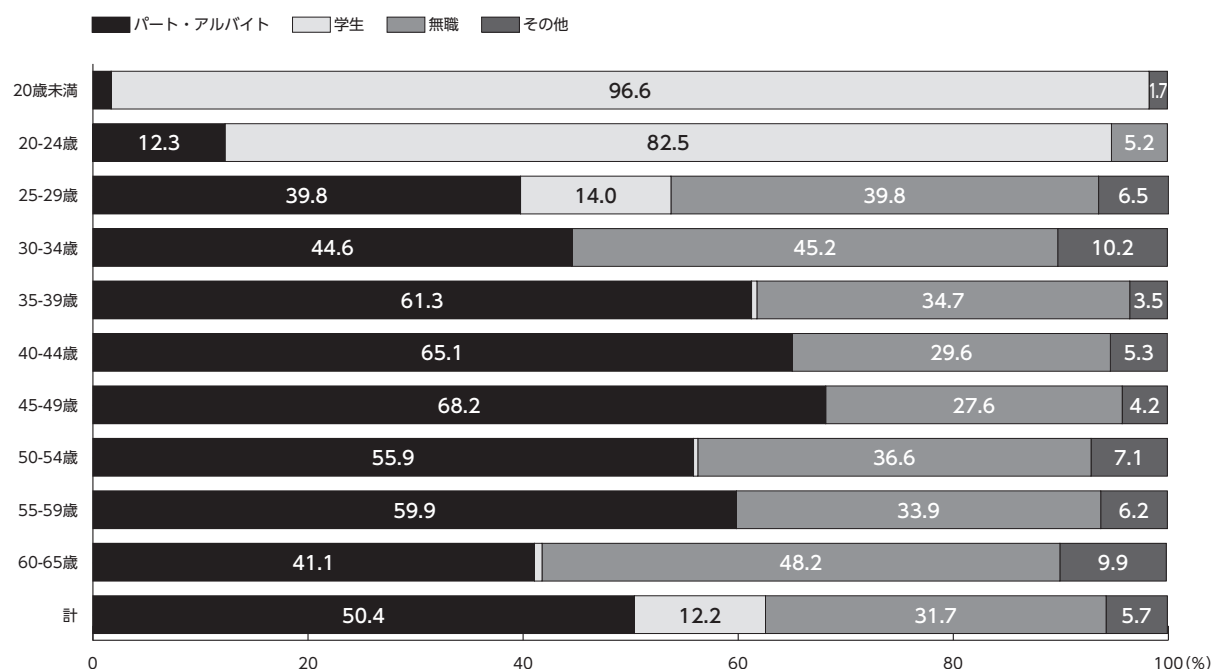


表120. 就労状況(保険証家族・女性)



Ⅱ. 項目間分析(図1-23、表121-124)

1. 現在歯数と喫煙状況(図1-3)

平均現在歯数は、40-44歳男性で28.2本、同女性で28.1本、55-59歳男性と女性ともに26.0本で、年齢の上昇とともに有意に減少した。性および年齢調整後の喫煙状況の分析より、非喫煙者に較べて、毎日喫煙している者は有意に現在歯数が少なかった($P<0.01$)。さらに、非喫煙者は喫煙者に較べて、歯周状況がより健全であることが示された。毎日喫煙群に対する非喫煙者のオッズ比は1.6(95%信頼区間:1.4-1.8)であった。

図1. 現在歯数(年齢カテゴリ)

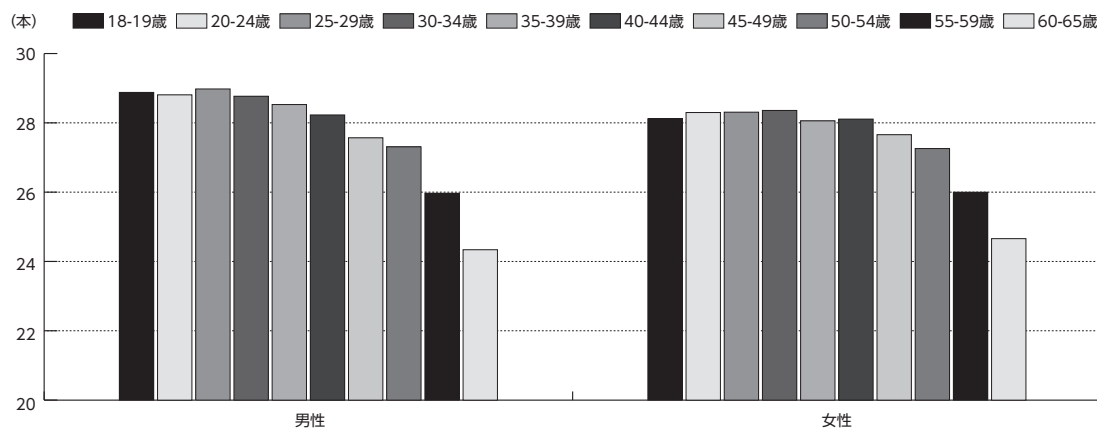


図2. 喫煙状況と現在歯数(性・年齢調整後)

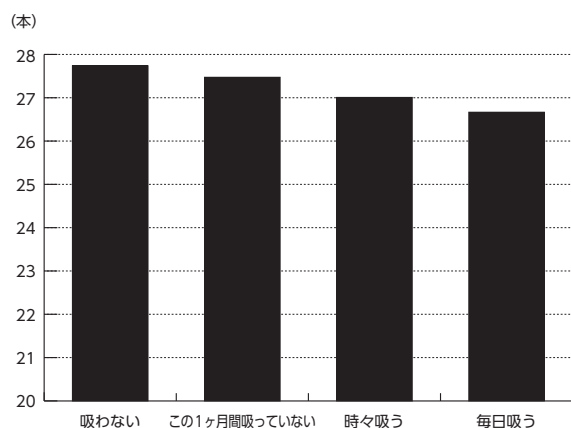
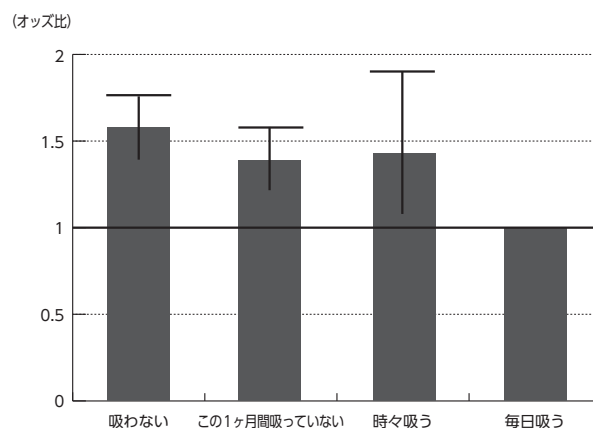


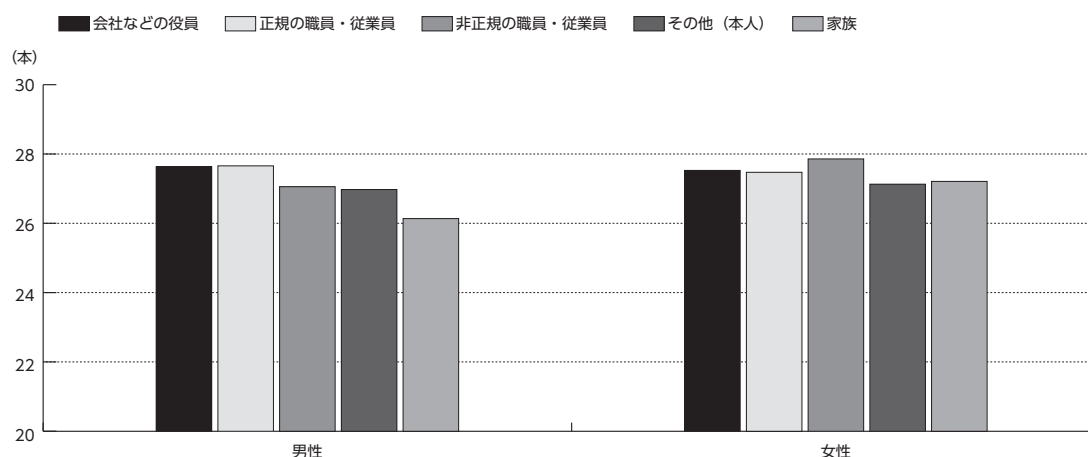
図3. 喫煙状況と健全な歯周状況(性・年齢調整後)



2. 現在歯数と就労状況(図4)

就労状況と口腔内状況の関連について、年齢調整後の平均現在歯数により検討した。男性では、「正規の職員・従業員」が最も歯数が多く、「家族」が最も少なかった。女性では、「非正規の職員・従業員」が最も歯数多く、正規あるいは非正規職員・従業員のいずれにも属さない保険者本人が最も少なかった。男女ともに、就労状況による5群間に有意な差が認められた($P<0.01$)。

図4. 職業と現在歯数(年齢調整後)



3. 定期歯科検診、特定健診受診と歯科判定区分(図5-8)

男女別の定期歯科検診頻度と判定区分を示す。男女ともに、要精密検査と判定された者に歯科検診を「まったく受けていない」と回答する割合がより高く示された。この傾向は、女性に較べて男性により明確であった。異常なしと判定された者のうち、年1回以上歯科検診を受けている者の割合は男性で55%、女性で61%であった。

特定健診受診割合を歯科判定区分別に比較したところ、いずれの判定区分においても男女ともに約50%であった。さらに、歯科判定区分別に特定健診結果を見たところ(特定健診受診者のみ)、女性の「異常なし」群では、他群と比較して「情報提供のみ」が占める割合が高かった。歯科判定区分別の特定保健指導受診状況について(「動機付け支援」「積極的支援」対象者のみ)、男性では「異常なし」群に「1回も受けていない」者の割合がより低く認められた。女性では、「要精密検査」群に「最後まで受けた」および「1回も受けていない」者の割合がより高く認められた。

図5. 定期歯科検診の頻度と歯科判定区分

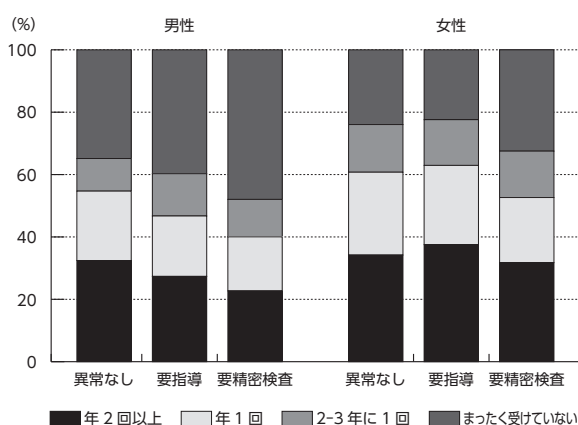


図6. 歯科判定区分別の特定健診受診割合

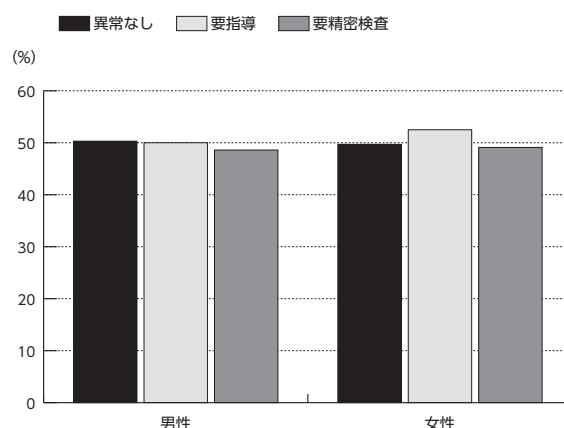


図7. 歯科判定区分別の特定健診結果
(特定健診受診者のみ)

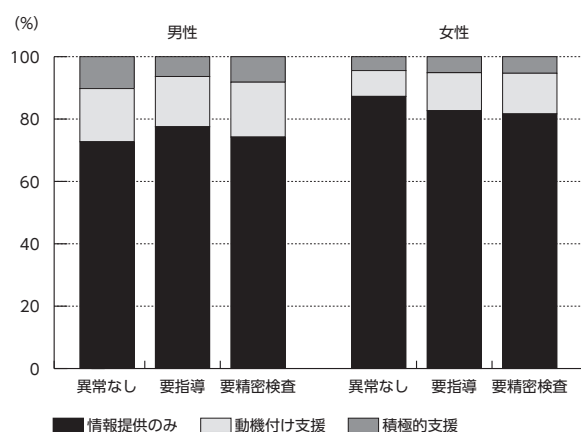
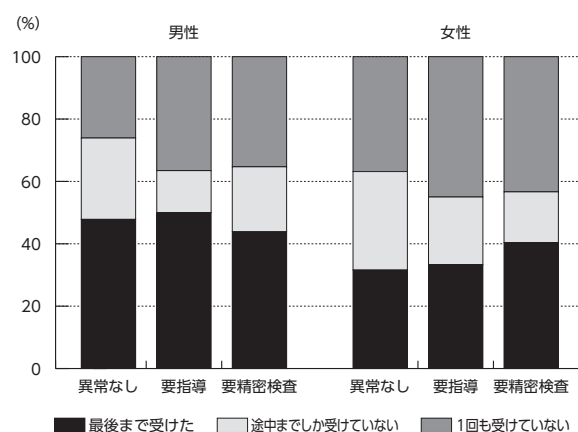


図8. 歯科判定区分別の特定保健指導受診状況
(「動機付け支援」「積極的支援」対象者のみ)



4. 間食と食べる速さ、歯磨き頻度(図9-12)

食べる速さを主観的に5段階で評価し、間食頻度との関連を検討した。男性では、食べる速さにかかわらず、間食頻度が週1回以下の者がおよそ半数を占めた。食べる速さが「やや遅い」群に間食が「週2～6回」、「かなり遅い」群に間食が「1日1回以上」と回答する割合が、他群に較べてより高く認められた。女性では、食べる速さにかかわらず、45%前後の者が日に1回以上間食を摂ると回答した。食べる速さが「普通」群に、間食頻度が週1回以下の割合がより高く認められた。

また、一日の歯磨き回数と間食頻度の関連について分析した。男性において、「1日に4回以上」歯磨きする群は他群に較べて、間食頻度が「月1回未満」と回答する割合が高かった。また、歯磨き回数が「1日に1回未満」の男性は、間食頻度が「週2～3回」あるいは「週4～6回」と回答する割合がより高かった。女性において、「1日に4回以上」歯磨きする群は他群に較べて、間食頻度が「月1回未満」あるいは「1日2回以上」と回答する割合が高く認められた。「1日に1回」歯磨きする群では、間食が「1日2回以上」と回答する割合がより高く示された。

図9. 間食の頻度と食べる速さ(男性)

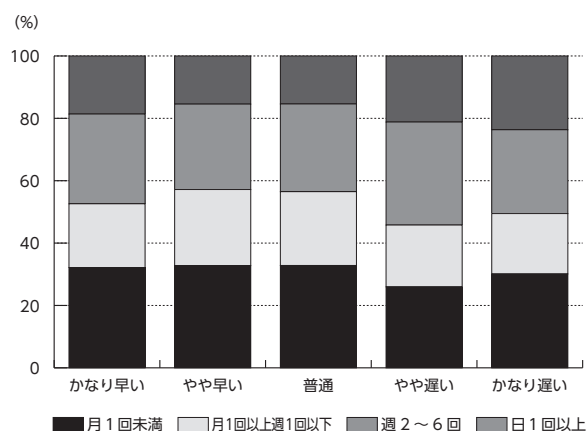


図10. 間食の頻度と食べる速さ(女性)

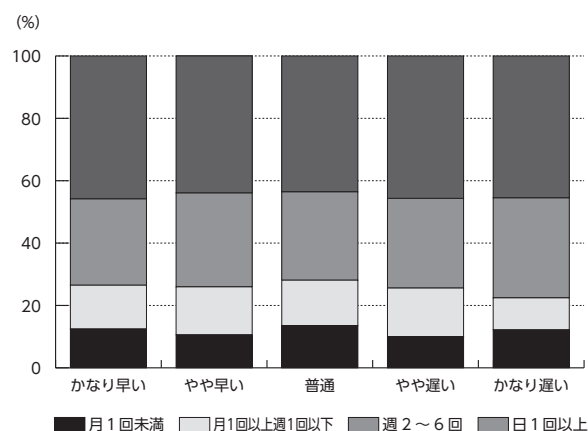


図11. 間食頻度と一日の歯磨き頻度(男性)

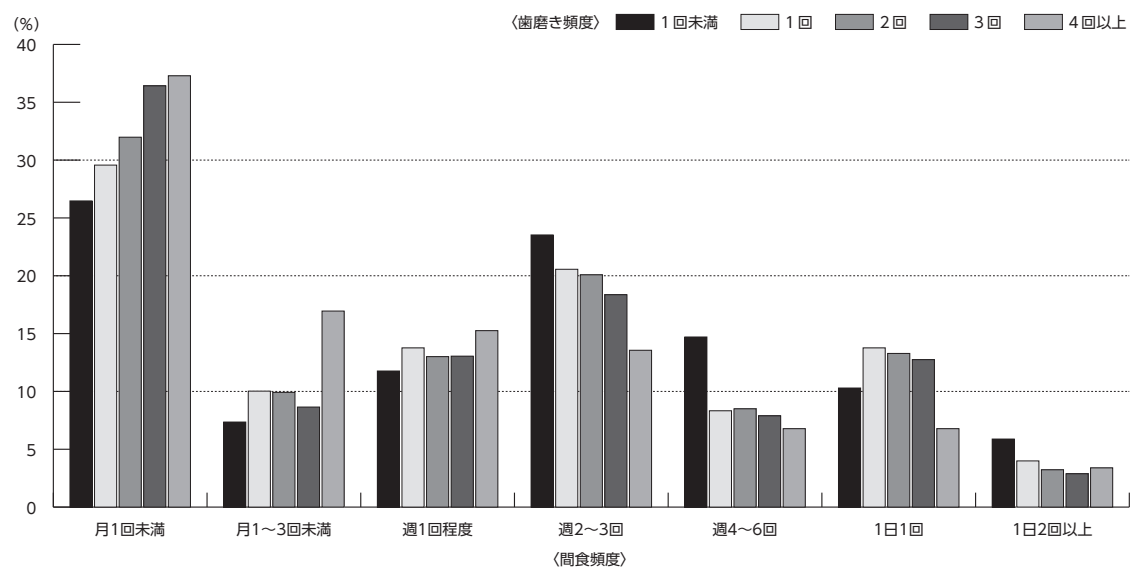
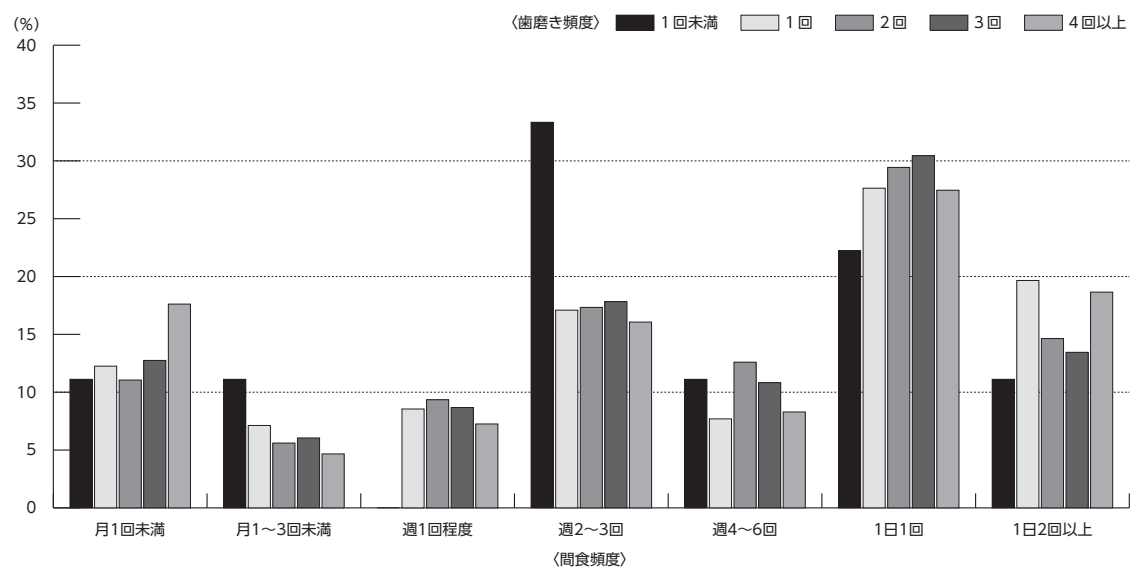


図12. 間食頻度と一日の歯磨き頻度(女性)

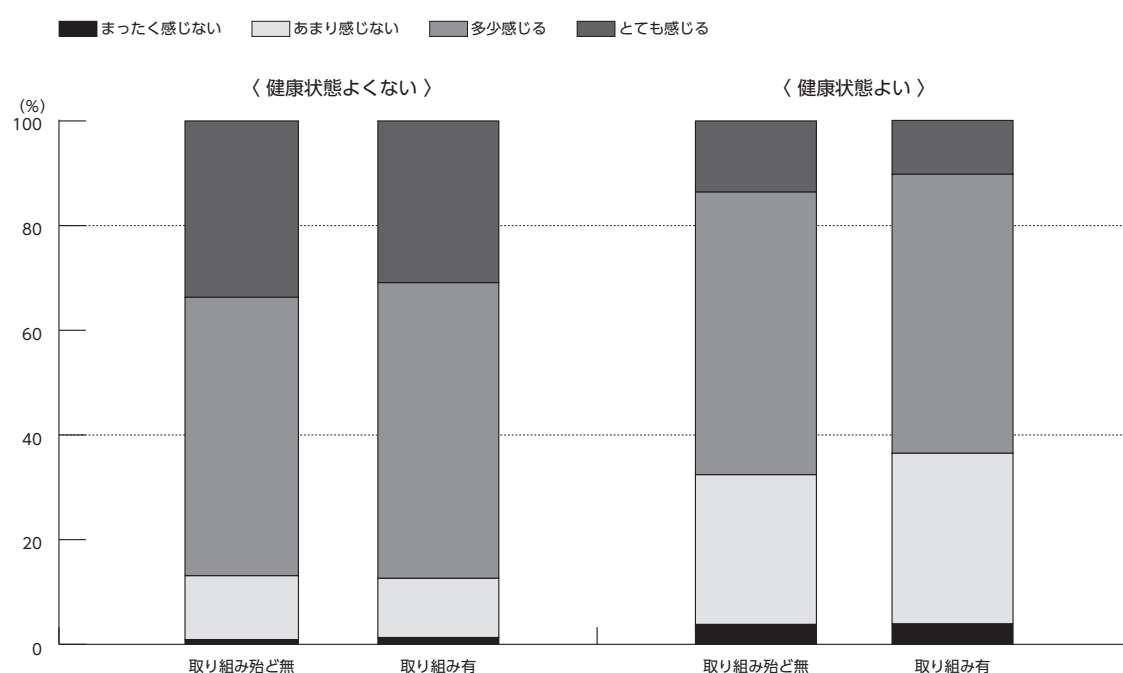


5. 全身の健康状態、ストレスと勤務先での健康づくりの取り組み(図13)

主観的な健康状態とストレスの有無、勤務先での健康づくりの取り組みについて検討した。主観的な健康状態は、「とても良い」あるいは「良い」と回答した者を「よい」、それ以外の者を「よくない」の2群に分けて分析した。勤務先での健康づくりの取組みは、「積極的に取り組んでいる」あるいは「どちらかという取組んでいる」を「取り組みあり」、それ以外の回答を「取り組み殆どなし」とした。

健康状態が「よい」群は「よくない」群と較べて、ストレスを感じる割合が低かった。また、勤務先での健康づくりの「取り組みあり」群は「殆どなし」群に較べて、ストレスを感じる割合がさらに低下していた。

図13. 全身の健康状態・ストレスの有無・勤務先での健康づくりの取り組み



6. 業種と口腔内状況(図14-17)

40歳以上60歳未満の対象者について、年齢を「40歳未満」、「40-59歳」の2カテゴリに分けて分析した。現在歯数28歯以上を「喪失歯なし」、CPI検査による歯周ポケット評価のスコアが0であった者を「歯周状況が健全」として解析した。

男性において、喪失歯なしの割合がより低い業種は、40歳未満は「生活関連サービス・娯楽業」、40-59歳で「運輸業」「飲食・宿泊業」「建設業」であった。女性では、40歳未満は「生活関連サービス・娯楽業」「不動産業」、40-59歳で「飲食・宿泊業」であった。

歯周状況が健全な者の割合がより低い業種は、男性の40歳未満で「飲食・宿泊業」、40-59歳で「飲食・宿泊業」「情報通信業」「学術研究・専門技術サービス」であった。女性の40歳未満で「飲食・宿泊業」、40-59歳で「教育・学習支援業」「建設業」「運輸業」であった。

図14. 業種と現在歯数(60歳未満 男性)

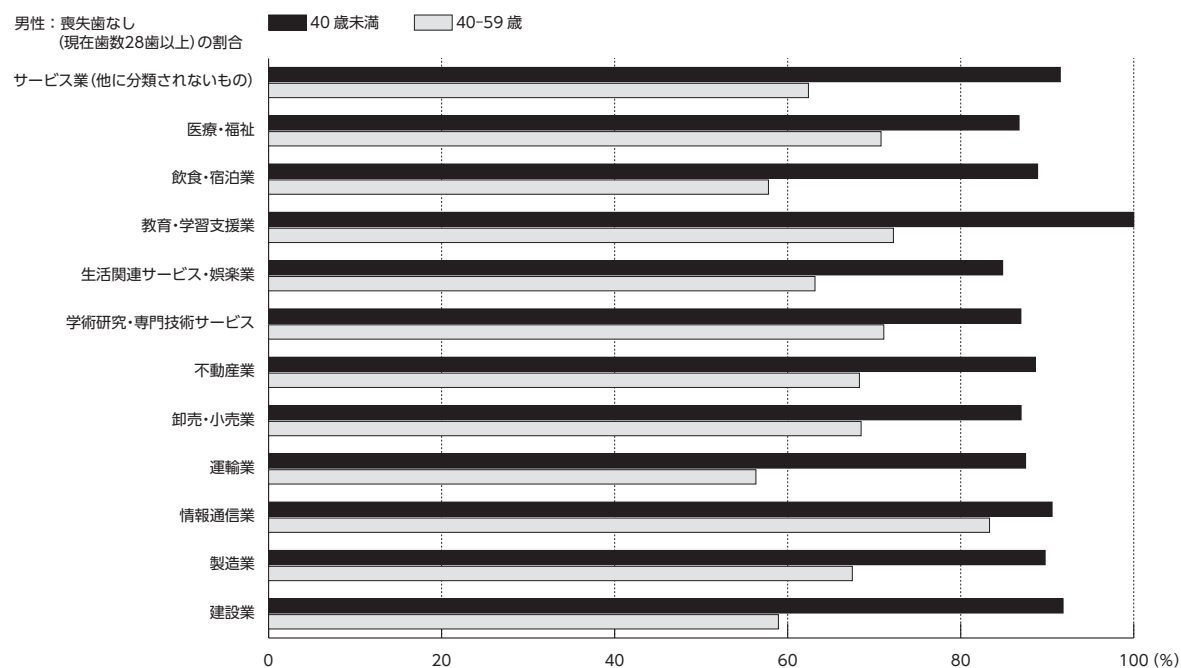


図15. 業種と現在歯数(60歳未満 女性)

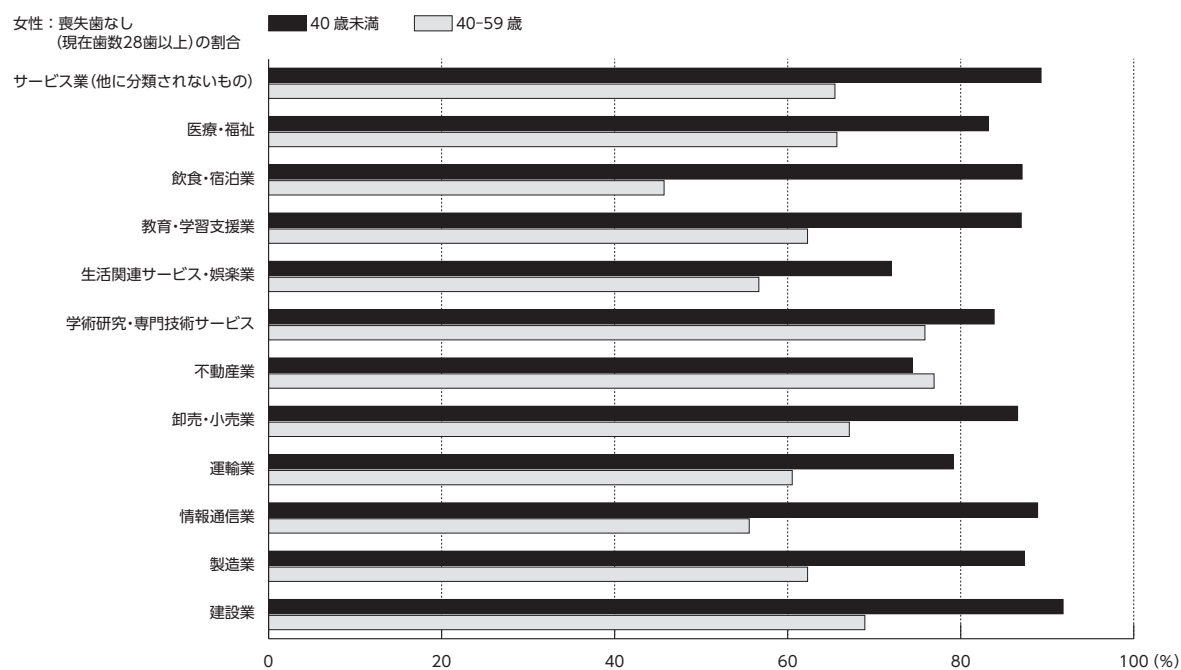


図16. 業種と歯周状況(60歳未満 男性)

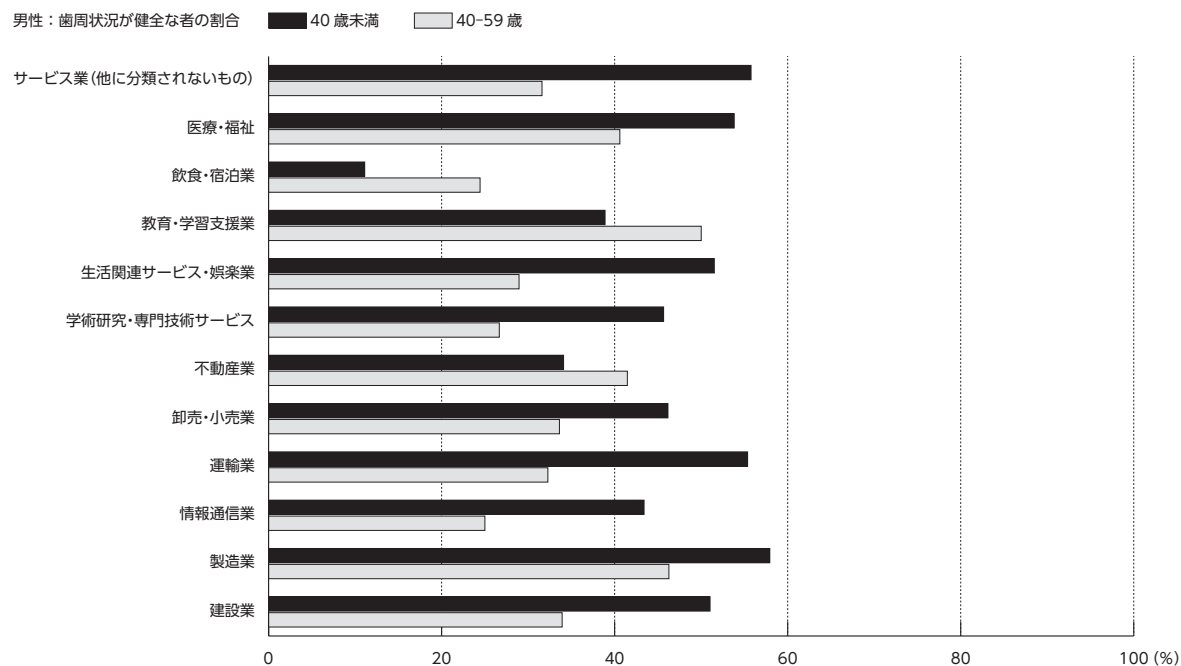
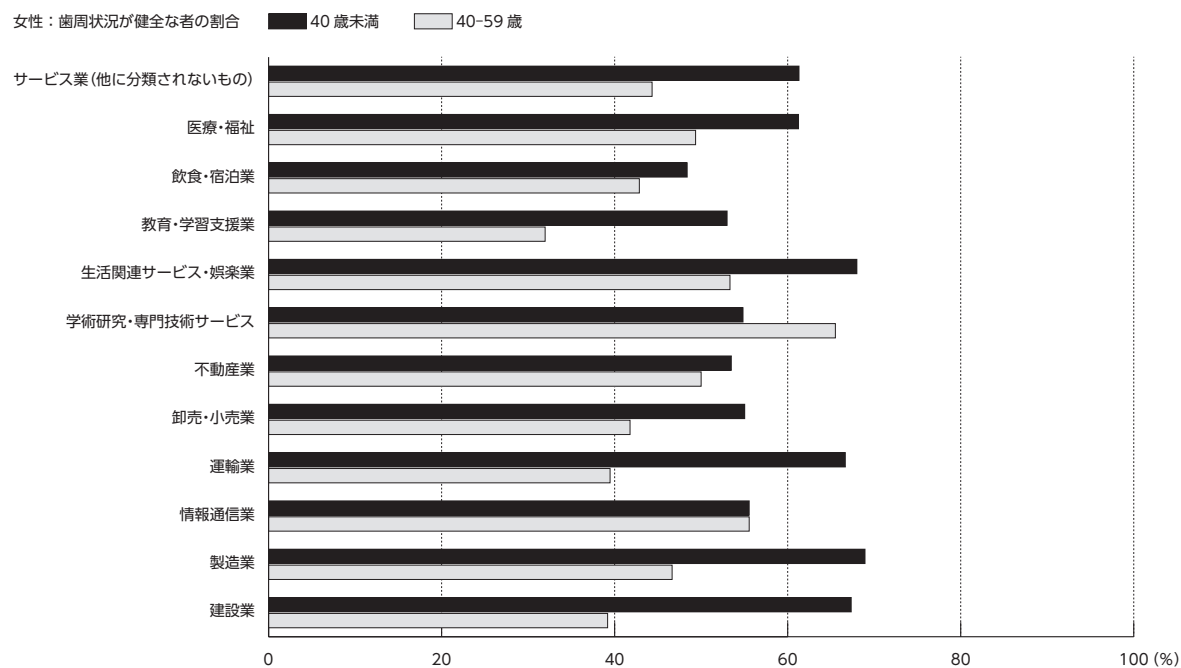


図17. 業種と歯周状況(60歳未満 女性)



7. 特定健診受診と口腔内状況(図18-19)

特定健診受診に関して、「受診なし」「受診あり：情報提供のみ」「受診あり：動機付け支援」「受診あり：積極的支援」の4群に分けて分析した。24歯以上有する者の割合および歯周状況が健全な者の割合を、性・年齢(2群)別にそれぞれ比較した。

男性において、24歯以上有する者の割合は4群で有意な差は認められなかった。40-59歳の女性では群間に有意な差が認められ($P<0.05$)、「受診あり：積極的支援」で24歯以上有する者の割合がより低く示された。

歯周状況が健全な者の割合は60歳以上の「受診あり：動機付け支援」男性、60歳以上の「受診なし」女性により低く示されたが、性・年齢別の比較において有意な差は認められなかった。

図18. 特定健診受診と現在歯数

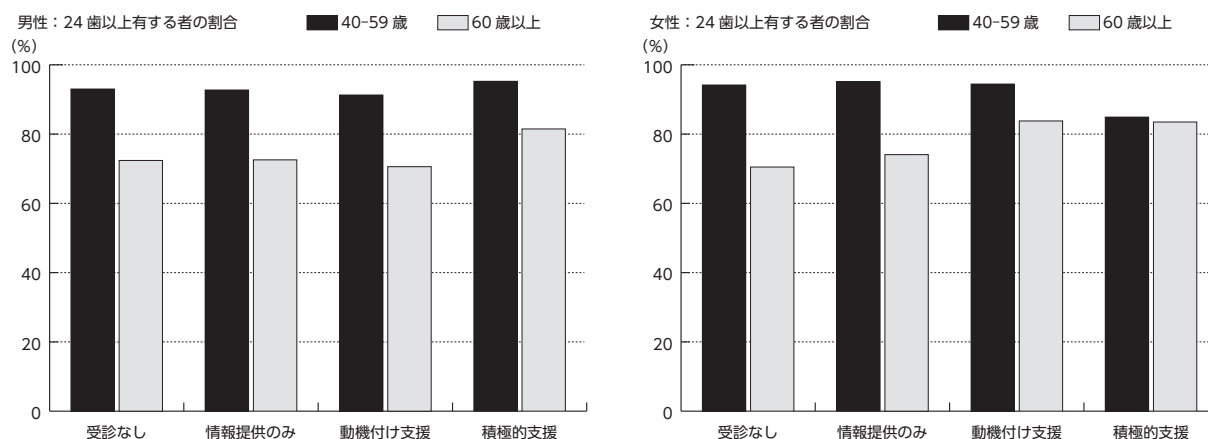
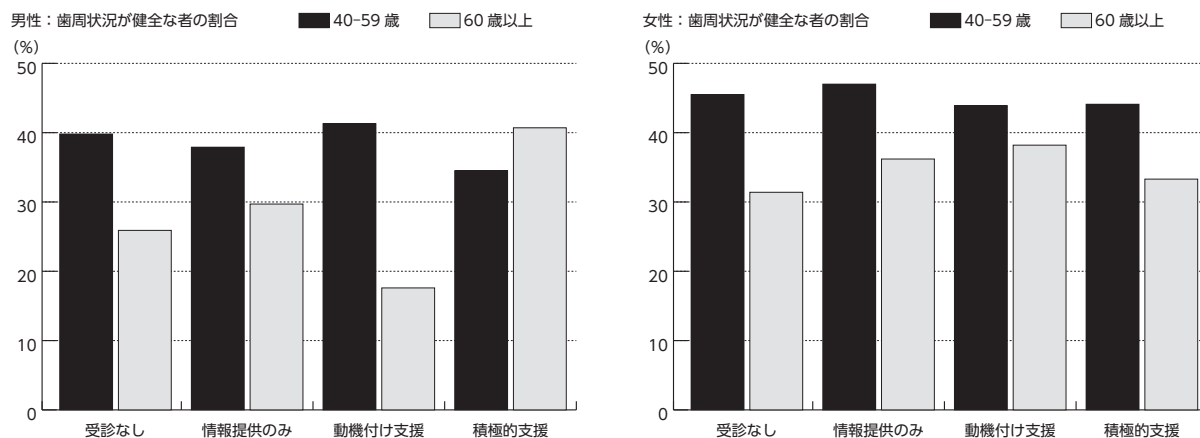


図19. 特定健診受診と歯周状況



8. 特定健診受診と定期歯科検診頻度(図20-21)

男女ともに、特定健診受診なし群に定期歯科検診受診が「まったくない」と回答する割合が最も高く示された。40-59歳では4群間に有意($P<0.01$)、60歳上では境界有意($P<0.1$)な差が認められた。特定健診受診なし群は年1回以上定期歯科検診を受ける割合がより低く、60歳以上においてその傾向はより明らかであった。

図20. 定期歯科検診頻度と特定健診受診(男性)

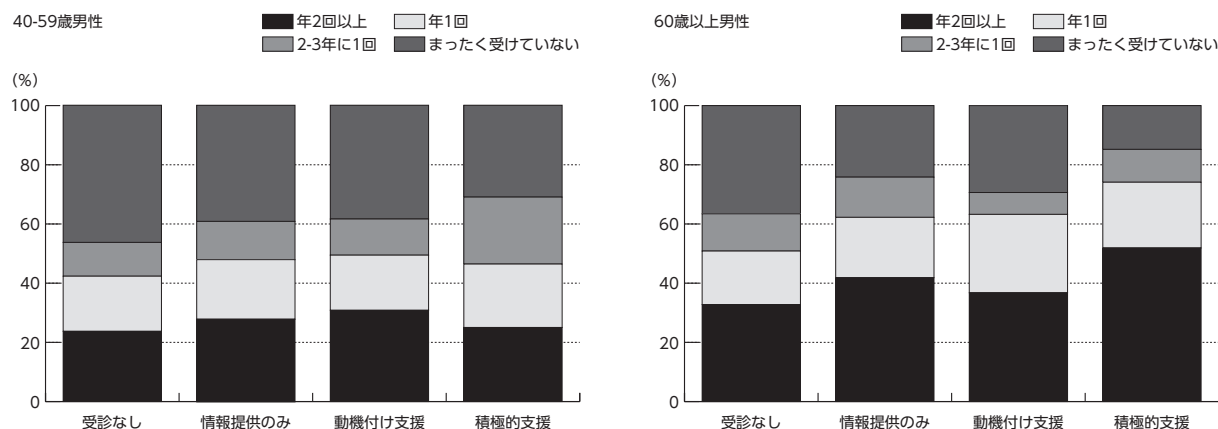
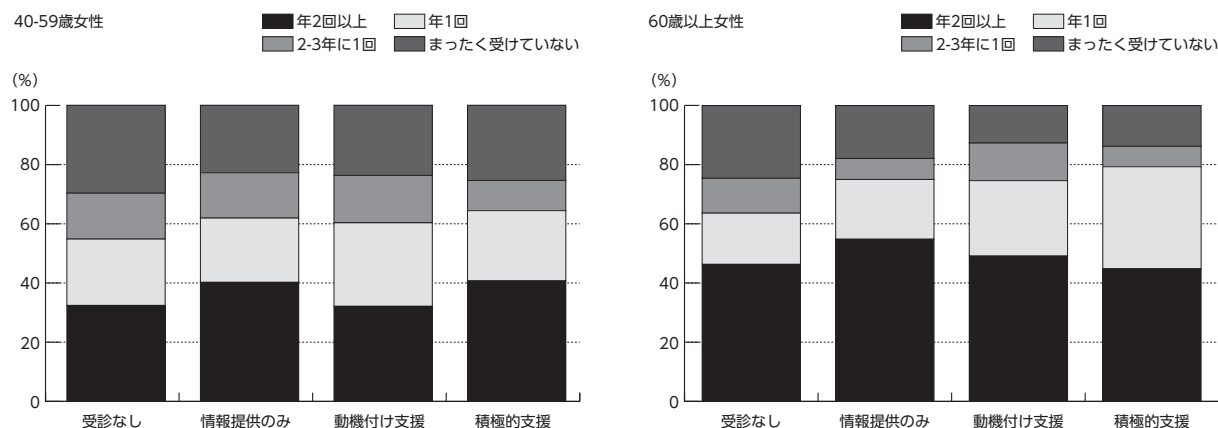


図21. 定期歯科検診頻度と特定健診受診(女性)



9. 特定保健指導受診と口腔内状況(図22-23)

特定健診受診者のうち「動機付け支援」あるいは「積極的支援」であったと回答した者を対象に、分析を行った。特定保健指導は「最後まで受けた」「途中でしか受けていない」「1回も受けていない」の3カテゴリで分析した。

特定保健指導を途中でしか受けていない群では、60歳以上男性および40-59歳女性において、現在歯数24歯以上の者の割合が低下していた。40-59歳女性では、3群間に有意な差が認められた($P<0.05$)。

特定保健指導を最後まで受けた群で、60歳以上男性、40-59歳および60歳以上女性において歯周状況が健全な者の割合がより低く認められた。性・年齢別の群間比較において、有意な差は示されなかった。

図22. 特定保健指導受診と現在歯数(「動機付け支援」「積極的支援」対象者のみ)

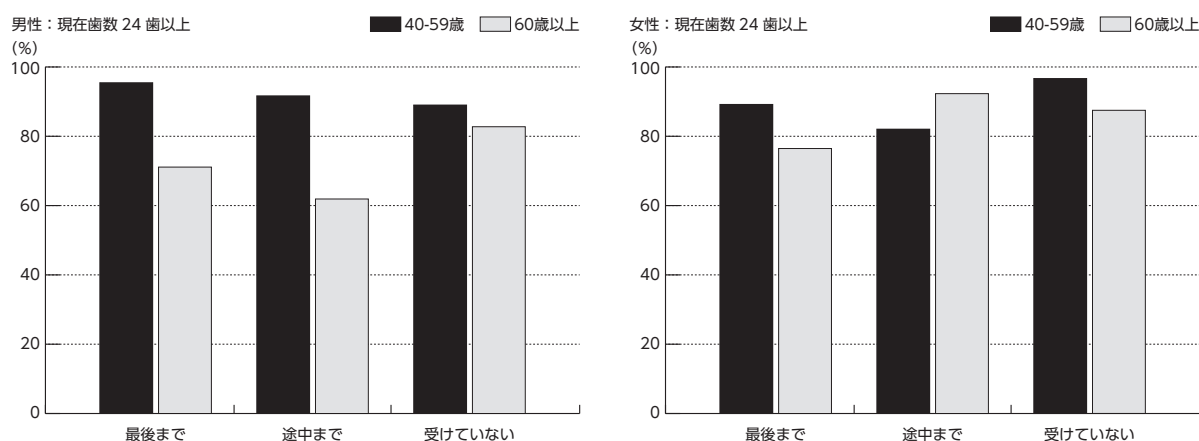
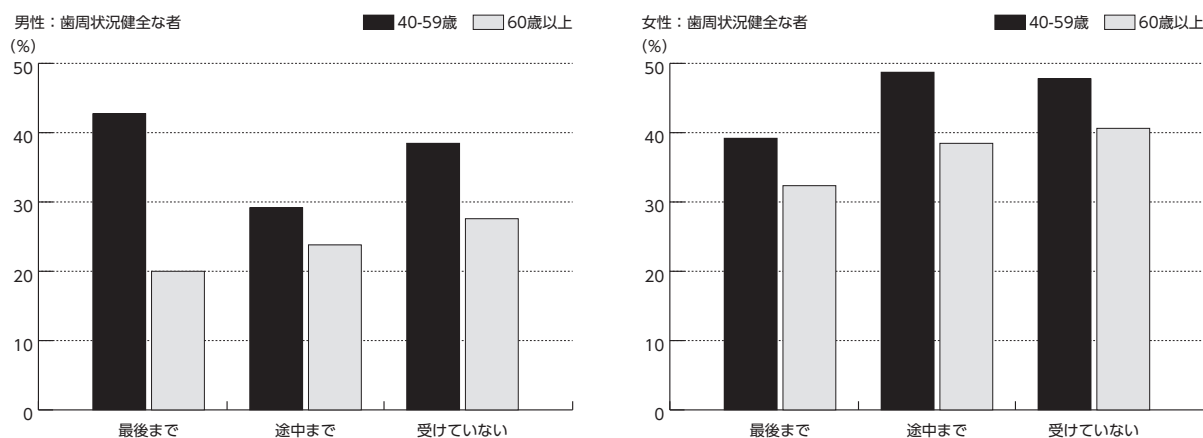


図23. 特定保健指導受診と歯周状況(「動機付け支援」「積極的支援」対象者のみ)



10. 疾患既往と口腔内状況(表121-124)

各々の疾患について、医師の診断を受けたことがある、あるいは治療中と回答した者を「既往あり」、なかったことがないと回答した者を「既往なし」として分析を行った。

40-59歳の男性において、糖尿病、心筋梗塞あるいは脳卒中の既往を持つ者は持たない者に較べて、24歯以上有する割合が有意に低下していた($P<0.01$)。40歳未満の女性では糖尿病、40-59歳の女性では胃・十二指腸潰瘍、大腸ポリープ、糖尿病、脂質異常症、高血圧の既往者において、24歯以上有する割合が有意に低かった($P<0.05$)。

40歳未満および40-59歳の男性において、糖尿病の既往を持つ者は持たない者に較べて、歯周状況が健全な者の割合が有意に低下していた($P<0.05$)。40-59歳女性では、高血圧既往者において、歯周状況が健全な者の割合が有意に低かった($P<0.05$)。

表121. 疾患既往別 24歯以上有する者の割合(男性)

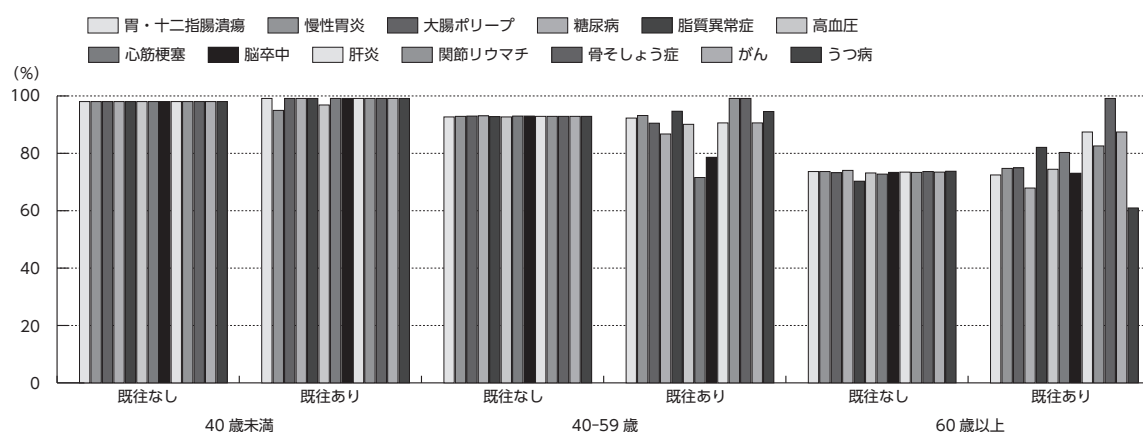


表122. 疾患既往別 24歯以上有する者の割合(女性)

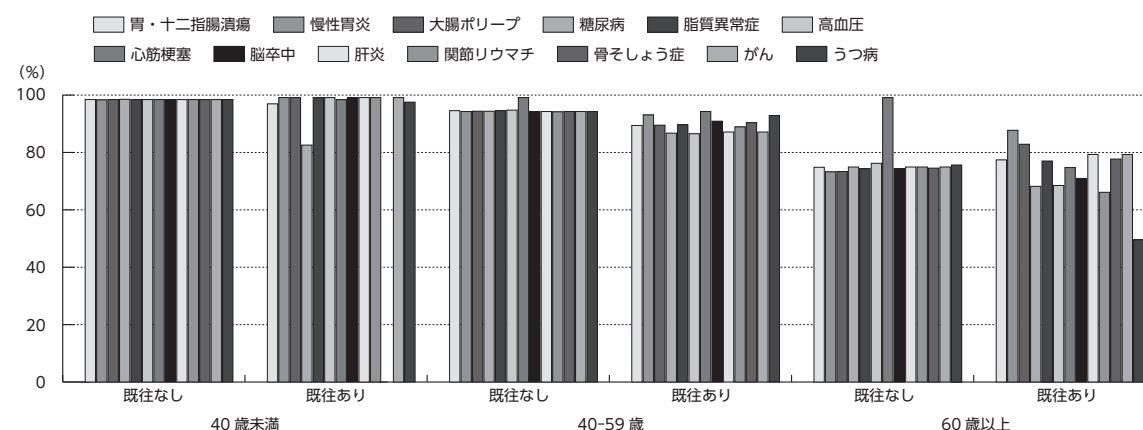


表123. 疾患既往別 歯周状況が健全な者の割合(男性)

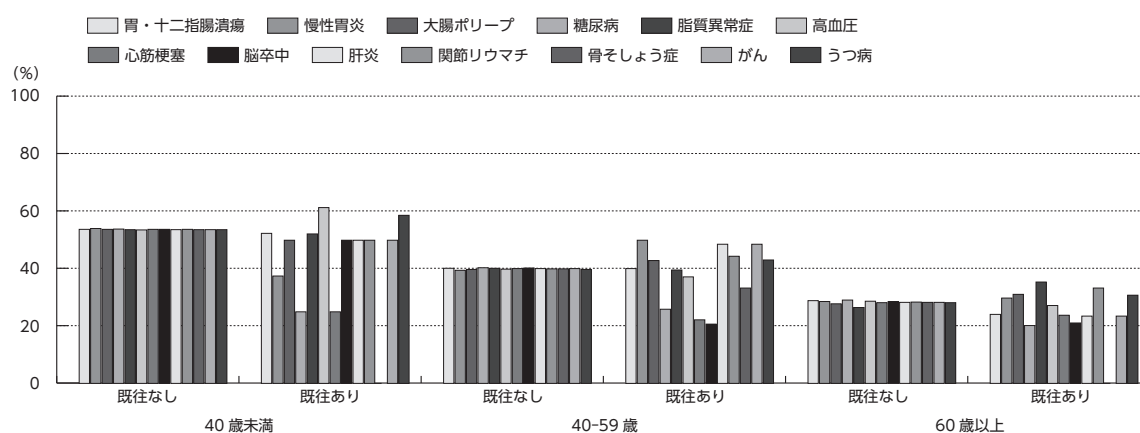
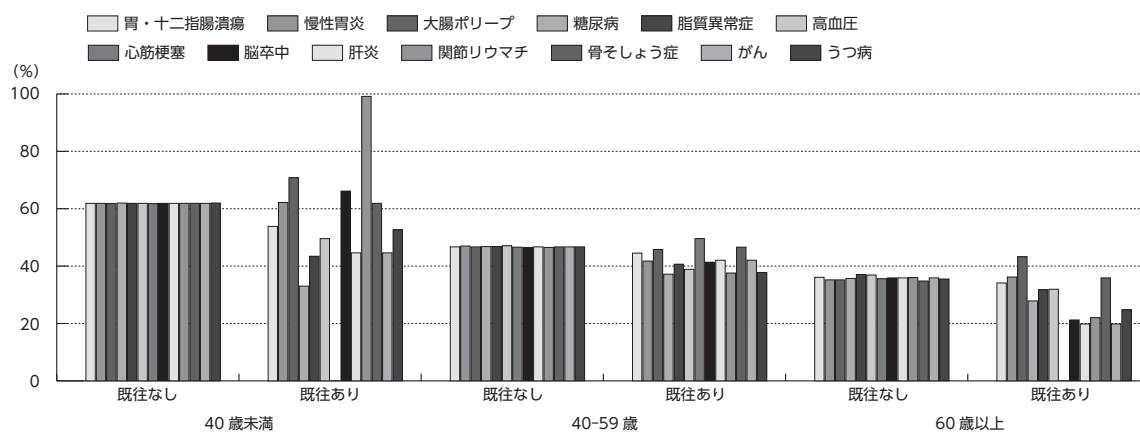


表124. 疾患既往別 歯周状況が健全な者の割合(女性)



【考察】

平成28年度に愛知県全域で、協会けんぽ加入者を対象に横断調査を実施した。収集された歯科検診および自記式調査票データの分析を行い、11,030名を対象とした分析結果を示した。

今回の調査では、20歳から65歳まで5歳階級でおよそ1,000名ずつのデータが得られている。サンプルサイズと男女比の点から、性・年齢階級別の詳細な検討が可能と考えられる。口腔内状態の評価は歯科医師が行っていること、生活習慣や社会経済状況に関する多様な情報を収集していることは、本調査の強みである。また、疾患予防の観点から、地域や職域の健康づくりや健診にかかわる様々な情報を収集したことも、大きな特徴である。調査内容が、歯科保健関係者はもちろんのこと、産業衛生や公衆衛生の現場でも幅広く活用されることを期待したい。

先行研究と同様に、喫煙と現在歯数や歯周状況における負の関連が認められた。また、糖尿病の既往と現在歯数や歯周状況の関連も示された。口腔の健康状態がとてもよい、あるいはよいと回答した者は男女ともにおよそ半数であり、年齢階級別比較においてこの割合に大きな差が認められなかった。若年期や中年期における口腔の健康維持・管理の重要性を、より積極的に発信していく必要があると思われる。

業種と口腔内状況の検討では、「生活関連サービス・娯楽業」、「運輸業」、「飲食・宿泊業」、「建設業」などで、現在歯数28本未満の割合の上昇や歯周状況が健全な者の割合の低下が示された。交代制勤務や深夜勤務と疾患リスクの関連は、これまで様々な研究で指摘されている。口腔の健康維持と疾患予防の観点から、更なる検討が必要と思われる。

口腔内診査で要精密検査と判定された者は、異常なしあるいは要指導と判定された者より、定期歯科検診を受けていない割合が高く認められた。また、定期歯科検診と特定健診受診の間には、正の関連が示された。健康づくりに対する個人の保健行動は、相乗効果を持つことが推察される。全身と口腔の健康維持を両輪とする、より効率的な疾患予防対策に関して、検討の意義が今後いっそう増していくであろう。

職場での健康づくりの取り組みの重要性も示唆された。健康状態がよいと感じる者はそうでない者に較べてストレスを感じる割合がより低く、さらに勤務先に健康づくりの積極的な取り組みがある場合、ストレスを感じる割合がさらに低下していた。保険者本人に限定した分析では、勤務先での健康づくりの取り組みと特定健診や定期的な歯科検診受診において、有意な正の関連も認められた。

今回の結果は、歯科保健の現状を示すだけでなく、歯科保健対策の検討やその礎となる調査研究の仮説設定にも役立つと考えられる。そのため、結果を解釈する際に、調査対象の特性を踏まえておくことも重要であろう。今回の調査と同時期に実施された、厚生労働省の平成28年国民健康・栄養調査結果との比較では、年齢階級別の肥満者割合や朝食欠食率等で、今回の対象者はより好ましい状況にあることが示されている。

また、平成28年歯科疾患実態調査の結果との比較では、今回の調査対象において年齢階級別の平均現在歯数がより多く認められている。社会経済的要因に関して、短期大学・高等専門学校以上の教育歴を有する者が、男女ともに全体のおよそ半数を占めていた。多くの疫学研究と同様に、調査参加者は一般集団に較べて健康意識のより高い集団である可能性も考慮する必要があるだろう。

成人期の健康管理は健康寿命の延伸に重要な意味を持つと考えられる。近年、社会格差と健康の関連も示されるようになってきている。口腔の健康は、日常生活の機能的、精神的、社会的な因子のそれぞれに影響を与え得るものである。成人期における口腔の健康維持・管理について、中長期的な検討が十分行われているとは言い難いのが本邦の現状である。医療経済学や社会疫学等の様々な視点による調査研究を蓄積し、将来の社会構造を見据えた、よりよい在り方を見出していくことが求められるであろう。

【謝辞】

本事業を進めるにあたり、適切な助言と熱心なご指導をいただきました、名古屋大学大学院医学系研究科予防医学 若井建志教授、内藤真理子准教授に深謝いたします。

調査実施に多大なご支援をいただきました、協会けんぽ愛知支部ならびに調査協力者の皆様に感謝いたします。

お口の健康に関する調査票

お口の健康に関する調査票

この調査票は、愛知県歯科医師会 成人期口腔ケア推進事業（愛知県委託事業）をおこなうにあたり、「お口の健康」、「全身の健康状況」、「それらに関連するライフスタイル」などについてお尋ねするものです。皆様からいただいた貴重な意見を分析し、その結果を日常のお口の健康づくりに反映していくことを目的としています。

「本事業の目的の詳細」および「個人情報の取り扱い」について、最終ページ（8ページ）に記載してあります。

必ずお読みいただき、ご同意いただければ、ご回答くださいますようお願い申し上げます。

ご記入にあたって

- ・本調査票は記入時点での状況でご回答ください。
- ・回答は、本調査票の2～7ページへ直接記入してください。
- ・各項目のあてはまる番号に○を囲む、あるいは記入をお願いします。
- ・答えにくい項目につきましては、ご記入いただかなくても結構です。その場合は項目の番号に×をお付けください。ただし、どれも大切な質問ですので、できるだけお答えいただきますようお願いいたします。
- ・ご回答頂きました本調査票と歯科検診の結果は、愛知県、愛知県歯科医師会、全国健康保険協会愛知支部にて調査研究の目的で使用いたします。
- ・調査の結果は、統計的に処理し、他の目的に使用することはありません。
- ・調査の趣旨をご理解のうえ、ご承諾いただきますようお願い申し上げます。

愛知県 愛知県歯科医師会 全国健康保険協会愛知支部

検診医記入欄

検診日	日歯会員コード	受診者番号（カルテ番号でも可）
月 日	5 1 —	

1

問 1 性別をお答えください。

1. 男 2. 女

問 2 お住まいの市区町村名をお答えください。

愛知県外にお住まいの方は都道府県名もお答えください。

(市・郡 区・町・村) (都道府県)

問 3 年齢をお答えください。

1. 18～19 歳 2. 20～24 歳 3. 25～29 歳 4. 30～34 歳
5. 35～39 歳 6. 40～44 歳 7. 45～49 歳 8. 50～54 歳
9. 55～59 歳 10. 60～65 歳

健康状態について

問 4 現在、からだの健康状態はいかがですか？一番あてはまる番号を選んでください。

1. とても良い 2. 良い 3. あまり良くない 4. 悪い
5. どちらとも言えない

問 5 次の病気について、かかった（医師の診断を受けた）ことがなければ「1」に、現在かかっている、あるいは治療中の方は「2」に、現在はなっているが、今までにかかったことがある方は「3」に○をつけて下さい。

a. 胃・十二指腸かいよう	1 2 3	b. 慢性胃炎	1 2 3
c. 大腸ポリープ	1 2 3	d. 糖尿病	1 2 3
e. 脂質異常症（高脂血症）	1 2 3	f. 高血圧	1 2 3
g. 心筋梗塞	1 2 3	h. 脳出血・脳梗塞・クモ膜下出血	1 2 3
i. 肝臓	1 2 3	j. 関節リウマチ	1 2 3
k. 骨そしょう症	1 2 3	l. がん（部位）	1 2 3
m. うつ病	1 2 3	n. その他（ ）	1 2 3

お口の健康について

問 6 現在、お口の健康状態はいかがですか？一番あてはまる番号を選んでください。

1. とても良い 2. 良い 3. あまり良くない 4. 悪い
5. どちらとも言えない

問 7 ふだんから、ご自身のお口の健康状態に関心がありますか？

1. かなり関心がある 2. まあまあ関心がある
3. あまり関心がない 4. 関心がない

問 8 現在の口内の健康状態に満足していますか？

1. 充分満足している 2. まあまあ満足している
3. あまり満足していない 4. 満足していない

問 9 歯の治療は、症状がひどくなる前に、受診するようにしていますか？

1. はい 2. いいえ

2

お口の健康について

問 10 かかりつけの歯科医院はありますか？

1. はい 2. いいえ

問 11-1 最近1年間で歯科医院を受診されましたか？

1. 受診した 2. 受診していない

問 11-2 問11-1で「1. 受診した」を選択された方のみ、お答えください。

受診理由は何ですか？（あてはまる、すべての番号をお選びください）

1. 詰め物が取れた・歯が欠けた 2. 歯の痛み 3. 歯ぐきの痛み
4. 歯ぐきからの出血 5. 歯ぐきの腫れ 6. 歯が抜けた 7. 歯石除去
8. 知覚過敏（歯のしみ） 9. 歯並び 10. アゴの痛み・音
11. 定期健診 12. その他（ ）

問 12 ご自身の口内の健康に関して、気になっていることはありますか？

（あてはまる、すべての番号をお選びください）

1. むし歯 2. 歯周病（歯槽膿漏） 3. 口臭 4. 歯の着色・変色
5. 歯石 6. 知覚過敏（歯のしみ） 7. 歯並び 8. アゴの痛み・音
9. その他（ ） 10. 特に気にかけていない

問 13 1日に歯を何回みがきますか？

1. 4回以上 2. 3回 3. 2回 4. 1回 5. 毎日歯磨きしない

問 14 1回の歯をみがく時間はどれくらいですか？

1. 20分以上 2. 10～20分未満 3. 5～10分未満 4. 3～5分未満
5. 2～3分未満 6. 1～2分未満 7. 1分未満

問 15 ふだん、歯みがきにはどのようなものを使用していますか？

（使用している、すべての番号をお選びください）

1. 歯ブラシ 2. 歯みがき剤 3. 洗口剤 4. デンタルフロス 5. 歯間ブラシ
6. タフトブラシ 7. 電動歯ブラシ 8. 舌ブラシ 9. その他（ ）

問 16 噛める食べ物をすべてお選びください。

1. 煮豆 2. いためた玉ねぎ 3. きゅうり（薄切り） 4. ピーナッツ
5. かまぼこ 6. 古たくわん 7. 白菜の漬物 8. 酢だこ 9. ごはん
10. イカの刺身

問 17 お茶や行動等でむせることがありますか？

1. あまりむせない 2. 時々むせる 3. よくむせる

問 18 お口の健康維持のために定期歯科検診が必要だと思いますか？

1. 必要 2. 必要ない 3. わからない

問 19-1 どのくらいの頻度で定期歯科検診を受けていますか？

1. 年2回以上 2. 年1回 3. 2～3年に1回
4. まったく受けていない

3

お口の健康について

問 19-2 問19-1で「1・2・3」を選択した方のみ、ご回答ください。

定期歯科検診を受けている理由は何ですか？

（あてはまる、すべての番号をお選びください）

1. むし歯予防 2. 歯周病予防 3. 口臭予防 4. 歯の着色・変色防止
5. 歯石除去 6. 歯の喪失予防 7. ブラッシング指導 8. その他（ ）

問 19-3 問19-1で「4. まったく受けていない」を選択した方のみ、ご回答ください。

定期歯科検診を1年以上もしくは全く受けていない理由はなんですか？

（あてはまる、すべての番号をお選びください）

1. 忙しい・時間が取れない 2. 忘れていた
3. 近くを受ける場所がない 4. お口の健康に自信がある
5. 検診料が高い 6. 他の病気で入院または治療中だった
7. 歯医者が怖い 8. いつ受けたらいいかわからない
9. 必要性を感じない 10. その他（ ）

生活習慣について

問 20 ふだん、ストレスを感じていますか？

1. まったく感じない 2. あまり感じない 3. 多少感じる 4. とても感じる

問 21-1 ここ1か月間、1日の平均睡眠時間はどのくらいでしたか？

1. 5時間未満 2. 5時間以上6時間未満 3. 6時間以上7時間未満
4. 7時間以上8時間未満 5. 8時間以上9時間未満 6. 9時間以上

問 21-2 睡眠の質についておたずねします。この1ヶ月間に、次のようなことが選8回以上ありましたか？（あてはまる、すべての番号をお選びください）

1. 寝付き（布団に入ってから眠るまでに要する時間）に、いつもより時間がかかった
2. 夜間、睡眠途中で目が覚めて困った
3. 起きようとする時刻よりも早く目が覚め、それ以上眠れなかった
4. 睡眠時間が足りなかった
5. 睡眠全体の質に満足できなかった
6. 日中、眠気を感じた
7. 上記1～6のようなことはなかった

問 22 趣味はありますか？

1. はい 2. いいえ

4

お口の健康に関する調査票

生活習慣について

問 23 運動習慣についておたずねします。(運動とは、スポーツやフィットネスなどの健康・体力の維持・増進を目的として、計画的・定期的に行うもの)
 1) 1週間の運動日数 () 日
「0日」と回答した方以外は、2) と 3) にもお答えください。
 2) 運動を行う日の平均運動時間 () 時間 (分)
 3) 運動の継続年数 1. 1年未満 2. 1年以上

問 24 ふだん、朝食は食べますか？
 1. ほとんど毎日食べる 2. 週2～3日食べない 3. 週4～5日食べない
 4. ほとんど食べない

問 25 朝・昼・夜の3食の食事以外に、どのくらいの頻度で間食をしますか？
 (夜食も含みます)
 1. ほとんどしない (月1回未満) 2. 月1～3回程度 3. 週1回程度
 4. 週2～3回 5. 週4～6回 6. 1日1回 7. 1日2回以上

問 26 他人よりも食べる速度がはやい方ですか？
 1. かなり速い 2. やや速い 3. 普通 4. やや遅い 5. かなり遅い

問 27-1 週に何日くらいお酒(清酒・焼酎・ビール・洋酒など)を飲みますか？
 1. 毎日 2. 週5～6日 3. 週3～4日 4. 週1～2日 5. 月1～3日
 6. ほとんど飲まない 7. やめた 8. 飲まない(飲めない)

問 27-2 問 27-1 で「1・2・3・4・5」を選択された方のみ、お答えください。
 お酒を飲む日は1日あたり、清酒換算でどれくらいの量を飲みますか？
 清酒1合(180ml)は、次の量にほぼ相当します。
 ・ビール・発泡酒(約600ml) ・焼酎20度(185ml)
 ・焼酎25度(110ml) ・焼酎35度(80ml) ・チューハイ7度(350ml)
 ・ウイスキー(60ml) ・ワイン(240ml)
 1. 1合(180ml)未満 2. 1合以上2合(360ml)未満
 3. 2合以上3合(540ml)未満 4. 3合以上4合(720ml)未満
 5. 4合以上5合(900ml)未満 6. 5合(900ml)以上

問 28-1 これまでに、たばこを習慣的に吸っていたことがありますか？
 1. 吸っていたことがある 2. 吸っていたことがない

問 28-2 問 28-1 で「1」を選択された方のみ、お答えください。
 1. 毎日吸う 2. とときどき吸う 3. 今は(この1ヶ月間)吸っていない

問 28-3 問 28-2 で「1・2」を選択された方のみ、お答えください。
 おおまかな喫煙年数と1日の喫煙本数をお答えください。
 喫煙年数 () 年 1日の喫煙本数 () 本

5

健康づくりについて

問 29 ふだんから、健康増進(健康づくり)を意識していますか？
 1. かなり意識している 2. まあまあ意識している
 3. あまり意識していない 4. まったく意識していない

問 30-1 昨年、特定健診を受けましたか？(40歳以上の方のみ、お答えください)
 特定健診とは、40～74歳の保険加入者を対象とした健康診断のことで、生活習慣病の発症や重症化を予防することを目的として行われています。
 1. 受けた 2. 受けていない

問 30-2 問 30-1 「1. 受けた」を選択された方のみ、お答えください。
 健診結果はいかがでしたでしょうか？
 1. 情報提供のみ 2. 動機付け支援 3. 積極的支援

問 30-3 問 30-2 で「2・3」を選択された方のみ、お答えください。
 特定保健指導は受けられましたか？
 1. 最後まで受けた 2. 途中でしか受けていない 3. 1回も受けていない

問 31 1か月間にご自身の健康増進(健康づくり)のために、いくらくらいまで出費してもよいとお考えですか？
 1. 0円 2. 1円以上～1,000円未満 3. 1,000円以上～5,000円未満
 4. 5,000円以上～10,000円未満 5. 10,000円以上

問 32 お住まいの自治体は、積極的に住民の健康づくりに取り組んでいるとお考えですか？
 1. 積極的に取り組んでいる 2. どちらかという取り組みをしている
 3. あまり取り組んでいない 4. 全く取り組んでいない 5. わからない

問 33 勤務先は、積極的に社員の健康づくりに取り組んでいるとお考えですか？
 最努めている方のみ、お答えください。
 1. 積極的に取り組んでいる 2. どちらかという取り組みをしている
 3. あまり取り組んでいない 4. 全く取り組んでいない 5. わからない

問 34 お住まいの自治体や勤務先において、どのような健康づくりの催し物や教室であれば、参加したいですか？(あてはまる、すべての番号をお選びください)
 1. 講演(食事) 2. 講演(運動) 3. 講演(病気) 4. ウォーキング
 5. ジョギング・マラソン 6. 筋肉トレーニング 7. エアロビクス 8. ダンス
 9. 健康体操(腰痛肩こり緩和やストレッチなど) 10. ヨガ・太極拳
 11. その他() 12. 参加しない

問 35 お住まいの自治体や勤務先において、ここ1年間で以下の健康診断(健診)を受けましたか？(あてはまる、すべての番号をお選びください)
 1. 会社での定期健康診断 2. 胃がん検診 3. 肺がん検診 4. 大腸がん検診
 5. 前立腺がん検診 6. 乳がん検診 7. 子宮がん・子宮頸がん検診 8. 歯科検診
 9. 骨そしょう症検診 10. その他() 11. 受けていない

6

問 36 現在の身長・体重はどのくらいですか？
 身長 () cm 体重 () kg

問 37 現在、同居しているご家族をすべてお選びください。
 1. 配偶者(又はパートナー) 2. 子ども 3. 自分の親 4. 配偶者の親
 5. その他 6. 一人暮らし

問 38 最終学歴についてお教えてください。
 (在学中の場合は、「7. 現在、在学中」にも○をつけてください)
 1. 中学校 2. 高校 3. 専門学校 4. 短大・高专 5. 大学
 6. 大学院 7. 現在、在学中

問 39-1 健康保険証は本人それとも家族ですか？
 (「1. 本人」とは勤務先で加入されている方、「2. 家族」とはその扶養家族の方となります。)
 1. 本人 2. 家族

問 39-2 問 39-1 で「1. 本人」と回答された方のみ、1)～3)にお答えください。
 1) 雇用形態をお答えください。
 1. 会社などの役員 2. 正規の職員・従業員 3. 非正規の職員・従業員
 4. その他()

2) 業種をお答えください。
 1. 建設業 2. 製造業 3. 情報通信業 4. 運輸業 5. 卸売・小売業
 6. 不動産業 7. 学術研究・専門技術サービス 8. 生活関連サービス・娯楽業
 9. 教育・学習支援業 10. 飲食・宿泊業 11. 医療・福祉
 12. サービス業(他に分類されないもの) 13. その他()

3) 職種をお答えください。
 1. 管理的職業従事者 2. 専門的・技術的職業従事者 3. 事務従事者
 4. 営業・販売従事者 5. サービス職業従事者 6. 保安職業従事者
 7. 農林漁業従事者 8. 製造・生産工程従事者 9. 輸送・機械運転従事者
 10. 建設・探掘従事者 11. 運搬・清掃・包装等従事者 12. その他()

問 39-3 問 39-1 で「2. 家族」と回答された方のみ、お答えください。
 以下の「1～6」のどれに該当しますか？
 1. パート・アルバイト 2. 学生 3. 無職 4. その他()

質問は以上です。最後までご回答いただき、ありがとうございました。

7

愛知県歯科医師会 成人期口腔ケア推進事業(愛知県委託事業)
個人情報の取り扱いについて

本事業は、高齢期における良好な歯科口腔状態の保持に向けた対策推進のため、成人期の歯科口腔状態等についての実態調査を行い、県民の健康づくりのための資料として活用する事を目的としております。

また、本事業につきましては、協力者の個人情報は匿名性を遵守した上、情報が外部に漏れないよう十分配慮いたします。

1. 個人情報の利用目的について
 収集した個人情報は、本人の許可なく、基礎資料・その他アンケートで必要とされる作業の範囲内以外の目的では使用しません。

2. 個人情報の第三者提供について
 収集した個人情報は、委託業務、法律上公的機関への届出・提出が必要な場合、問題発生時等の緊急時を除いて第三者へ提供しません。

3. 個人情報の処分方法について
 収集した個人情報の処分方法は、処分業者に委託して適切に処分いたします。

お問合せ先
 愛知県歯科医師会事務局事業第2課
 電話 052-962-8020(代表)
 受付時間 9:00～17:00(土・日・祝日は除く)

8

歯科健康診査票

1. 検診医控え用

歯科健康診査票

検診日、名前、年齢をご記入ください

検診日 平成 年 月 日

氏名	フリガナ	生年 月日	昭和・平成 年 月 日	才	性別	男 女
住所						

現在歯・喪失歯の状況（喪失歯のうち、補綴処置の不要な歯には×を記入）

8	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7	8
8	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7	8

1. 健全歯数 (ノ) 2. 未処置歯数 (IC) 3. 処置歯数 (O) 4. 現在歯数 (1+2+3) 5. 要補綴歯数 (Δ) 6. 欠損補綴歯数 (Δ) 7. 喪失歯数

※7. 喪失歯数は、上下顎の智歯を除く本数を記載して下さい。

補綴状況

ブリッジ 表歯 インプラント

歯肉の状況

CPI 検査（歯肉出血：BOP 歯周ポケット：PD）

76	1	67
BOP		
PD		
BOP		
PD		

個人コード (最大値)

歯肉出血

歯周ポケット

歯肉出血 0：健全 1：出血あり 9：除外歯 ×：該当歯なし
歯周ポケット 0：健全 1：4～5mm 2：6mm以上 9：除外歯 ×：該当歯なし

口腔清掃状態

1. 良好 2. 普通 3. 不良

歯石付着

1. なし 2. 軽度 3. 中等度以上

その他の所見

歯列咬合 1. 所見なし 2. 所見あり
顎関節 1. 所見なし 2. 所見あり
粘膜 1. 所見なし 2. 所見あり
その他

判定区分

1. 異常なし 2. 要指導 a. 口腔衛生状態不良 b. CPI：歯肉出血1 c. 歯石の付着あり 3. 要精密検査 a. 未処置歯あり b. CPI：歯周ポケット1 c. CPI：歯周ポケット2 d. 要補綴歯あり

市区町村 検診医氏名 日歯会員コード 51- 受診者番号 (カルテ番号でも可)

この歯科健康診査票は、診療録（カルテ）と同じ取り扱いとなり、検診日より起算して5年間の保存義務があります。

2. 患者提出用

歯科健康診査票

検診日 平成 年 月 日

生年 月日	昭和・平成 年 生	才	性別	男 女
----------	--------------	---	----	--------

現在歯・喪失歯の状況（喪失歯のうち、補綴処置の不要な歯には×を記入）

8	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7	8
8	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7	8

1. 健全歯数 (ノ) 2. 未処置歯数 (IC) 3. 処置歯数 (O) 4. 現在歯数 (1+2+3) 5. 要補綴歯数 (Δ) 6. 欠損補綴歯数 (Δ) 7. 喪失歯数

※7. 喪失歯数は、上下顎の智歯を除く本数を記載して下さい。

補綴状況

ブリッジ 表歯 インプラント

歯肉の状況

CPI 検査（歯肉出血：BOP 歯周ポケット：PD）

76	1	67
BOP		
PD		
BOP		
PD		

個人コード (最大値)

歯肉出血

歯周ポケット

歯肉出血 0：健全 1：出血あり 9：除外歯 ×：該当歯なし
歯周ポケット 0：健全 1：4～5mm 2：6mm以上 9：除外歯 ×：該当歯なし

口腔清掃状態

1. 良好 2. 普通 3. 不良

歯石付着

1. なし 2. 軽度 3. 中等度以上

その他の所見

歯列咬合 1. 所見なし 2. 所見あり
顎関節 1. 所見なし 2. 所見あり
粘膜 1. 所見なし 2. 所見あり
その他

判定区分

1. 異常なし 2. 要指導 a. 口腔衛生状態不良 b. CPI：歯肉出血1 c. 歯石の付着あり 3. 要精密検査 a. 未処置歯あり b. CPI：歯周ポケット1 c. CPI：歯周ポケット2 d. 要補綴歯あり

市区町村 検診医氏名 日歯会員コード 51- 受診者番号 (カルテ番号でも可)

3. 受診者用

歯科健康診査票

検診日 平成 年 月 日

あなたの歯の本数は 本です。

永久歯は「親知らず」まですべてはえると32本です。生後10歳頃までに自分の歯で食事ができるようになり、80歳まで20本以上の歯を保つことを目標にしましょう。歯がなくなっている方も、今ある歯を生後10歳頃までに残すことを目標にしましょう。また40歳代以降は、歯周病などにより歯を失う人が増えてきます。かかりつけ歯科医をもち、年に1～2回は定期的に歯科検診を受けることが大切です。今回の検診の結果は、以下の通りでした。

1人あたりの歯の本数 (平成23年歯科疾患実態調査)

年齢階級 (歳)	男	女
40～44	27.6	27.9
45～49	27.1	27.1
50～54	25.8	25.9
55～59	24.3	24.4
60～64	23.0	22.2
65～69	21.0	21.4
70～74	17.7	17.0
75～79	15.3	15.9
80～84	13.6	11.0
85～	9.2	8.0

定期的な歯科検診と医療費

49歳以降で医療費は下回る！

歯科医院で年2回以上、定期的に歯石を取るなどの行動をしている人では、そうでない人と比べて、医療費 (歯科・歯科) が低く、高齢になるほどその差が広がる傾向があることが報告されています。65歳以上では年間15万円以上の差が見られました！

歯のことが健康長寿の力に！

85歳以上の高齢者の約半数が介護が必要状態ですが、80歳で達成された方は85歳の時点でもおよそ8割の方が、90歳の時点でもおよそ6割の方が健康に過ごされているという調査結果が報告されています。

定期的な歯科検診を受けよう

かかりつけ歯科医を持つとこんなことが！

○あなたの健康状態や治療経過を把握して適切なアドバイスを受けられます。

○セルフケアでは十分に清掃できない部位もプロフェッショナルクリーニングによりケアし、歯周病の予防と歯肉の健康維持ができます。

あなたの担当

毎日の歯みがきが重要です。鏡を見ながらケアしましょう。

専門家の担当

あなたの歯牙や歯肉の健康状態を定期的にチェックします。

健康長寿実現に向け、特定健診、定期検診を受けましょう！

歯医者さんからのワンポイントアドバイス

歯間清掃器具を使いましょう

歯と歯の間のよこれ (プラーク) は歯ブラシだけでは取れません。歯間清掃器具 (デンタルフロス・歯間ブラシ) を使用しましょう。

たばこを吸うと歯周病になりやすい

喫煙は、歯周病の最大のリスクです。下のグラフはたばこを吸わない人を1とした場合の1日あたりの喫煙本数と歯周病の関係を表したものです。

たばこを吸う人は吸わない人に比べ、歯周病のリスクが2～6倍高くなります。しかも1日の喫煙本数が増えれば増えるほどリスクが増加します。歯周病は、喫煙により悪化する速度が速くなり、さらに治りにくくなることが明らかになっています。

定期的な歯科検診と医療費

49歳以降で医療費は下回る！

歯科医院で年2回以上、定期的に歯石を取るなどの行動をしている人では、そうでない人と比べて、医療費 (歯科・歯科) が低く、高齢になるほどその差が広がる傾向があることが報告されています。65歳以上では年間15万円以上の差が見られました！

歯のことが健康長寿の力に！

85歳以上の高齢者の約半数が介護が必要状態ですが、80歳で達成された方は85歳の時点でもおよそ8割の方が、90歳の時点でもおよそ6割の方が健康に過ごされているという調査結果が報告されています。

定期的な歯科検診を受けよう

かかりつけ歯科医を持つとこんなことが！

○あなたの健康状態や治療経過を把握して適切なアドバイスを受けられます。

○セルフケアでは十分に清掃できない部位もプロフェッショナルクリーニングによりケアし、歯周病の予防と歯肉の健康維持ができます。

あなたの担当

毎日の歯みがきが重要です。鏡を見ながらケアしましょう。

専門家の担当

あなたの歯牙や歯肉の健康状態を定期的にチェックします。

健康長寿実現に向け、特定健診、定期検診を受けましょう！

健康な身体は健康な歯と口から

定期歯科健診を受けましょう

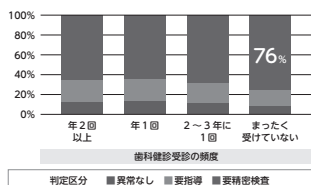
歯科健診の内容

- むし歯が進行していないかチェックします。
- 歯ぐきやお口の粘膜の健康状態をチェックします。
- 正しいブラッシングの方法を指導します。
- かぶせ物や詰め物に異常がないかチェックします。

「悪くなってから」ではなく、悪くならないために受診することが大切です。

歯周病と糖尿病・動脈硬化との間には関係があることが分かっています。定期的に歯科健診を受けることは歯と口の健康のみならず全身の健康を維持・増進させることにもつながっていきます。

定期歯科健診の頻度と判定区分



歯科健診をまったく受けていない人は、「要精密検査」の割合が高いという結果が出ました。

かかりつけ歯科医を持ちましょう

すぐに相談できる「かかりつけ歯科医」を持ち、定期的に健診を受けている人は歯と口の健康状態が良好であることが、今回の調査でも明らかになりました。

かかりつけ歯科医の有無と判定

かかりつけ歯科医を持たない かかりつけ歯科医を持つ



「異常なし」と診断された人の割合がおよそ **1.5倍** に！

かかりつけ歯科医がある人ほど、歯と口の健康が異常なしと判定される割合が高いという結果に。

かかりつけ歯科医は、あなたの歯と口の状態を把握し相談に乗ってくれる心強いパートナーです。



健康な歯と口と身体を目指して…
定期的に歯科健診を受けましょう！

協会けんぽ愛知支部
加入事業所従業員・家族およそ1万人の調査結果から

健康な身体は健康な歯と口から

定期的に歯科健診を受けましょう



全国健康保険協会
協会けんぽ
愛知支部

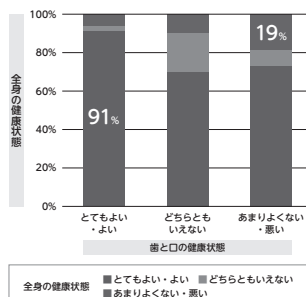
一般社団法人
ADA
愛知県歯科医師会

愛知県

はじめに

愛知県と愛知県歯科医師会は、協会けんぽ愛知支部の協力のもと、高齢期における良好な歯科口腔状態の保持に向けた対策推進のため、平成28年度「成人期口腔ケア推進事業」を実施いたしました。名古屋大学予防医学の分析協力に基づき、歯と口の健康管理を行うことが、健康な身体づくりに関ることが分かりました。

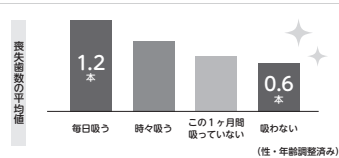
全身の健康状態と歯と口の健康状態



歯と口の状態が良いと答えた人のうち、どの年代においても **約9割** の方が全身の健康状態も良いと感じています。



喫煙習慣と歯の喪失



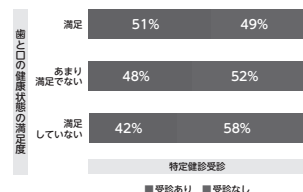
タバコを吸わない人ほど歯が多く残っています！

タバコを吸わない人は、喫煙者に比べて多くの歯が残っている傾向がみられます。また、喫煙者であっても、喫煙の頻度が少ない方がより多くの歯が残る傾向にあります。



特定健診と歯と口の健康状態

歯と口の健康状態満足度と特定健診



歯と口の健康状態に満足している人の多くが、特定健診を受診しています。



二つの健診で良好な歯と口の環境に！

健康を維持し、毎日の食事を美味しくいただくためには歯と口の健康状態がよくなければなりません。特定健診と定期的な歯科健診で、健康維持に努めましょう。

[illegible]

一般社団法人 愛知県歯科医師会
会 長 内 堀 典 保

副 会 長 佐 藤 理 之

常務理事 小 川 直 孝

顧問（前会長） 渡 邊 正 臣

名古屋大学大学院 医学系研究科 予防医学
教 授 若 井 建 志

准 教 授 内 藤 真理子

地域保健部Ⅰ（成人歯科保健）

部 長 瀬 川 伸 広

次 長 宮 村 秀 樹

同 近 藤 俊 明

部 員 嶋 崎 博

同 高 木 亮 輔

同 鈴 木 一

同 田 邊 敏 也

同 野 島 隆

同 野原 学

同 芳 賀 真

同 新 美 貴 弘

同 中 島 康 晴